松山市文化財調査報告書22

南江戸鬮目遺跡

1991

松山市教育委員会
松山市立埋蔵文化財センター

—

南江戸鬮目遺跡

1991

松山市教育委員会
松山市立埋蔵文化財センター

序

昭和47年、古墳時代の大規模な農業土木遺構として名を馳せた古照遺跡の堰が発見されてから既に20年近くが経過いたしました。松山市における本格的な埋蔵文化財行政は、この古照遺跡の調査からスタートしたといっても過言ではありません。南江戸鬮目遺跡は、古照遺跡を至近の距離にひかえた中世の遺跡であります。当遺跡からは、土器生産、ないしは流通にかかわったと考えられるような多量の遺物を出土いたしております。

道後湯月城址、松山城二の丸址の例をひくまでもなく、近年、中世遺跡への関心はにわかに高まっております。このようななかで、本報告書を刊行できますことは、考古学、歴史学関係者のみならず、わたくしども松山市民にとりましても意義深いものと思います。

本報告書が、多方面にわたって広く活用していただけることを心から願っております。最後になりましたが、調査にあたって多大の御協力、御配慮をいただきました関係各位の皆様方に厚くお礼申しあげます。

平成３年３月31日

松山市教育長
池　田　尚　郷

例　　言

1．本書は、平成２年４月16日から６月30日にかけて行われた松山市南江戸4丁目1095、1096に所在する南江戸鬮目（くじめ）遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、鹿島商会住宅部の委託を受け、松山市教育委員会　松山市立埋蔵文化財センターが行った。

3．調査にあたっての組織は、以下のとおりである。

調査主体	松山市教育委員会	教育長（前任）	平井　亀雄
		教育長	池田　尚郷
		教育長付参事	古本　　克
		教育次長	井上　量公
		教育次長	一色　正士
	文化教育課	課　　長	渡部　忠平
	松山市立埋蔵文化財センター	所　　長	森脇　　將

調査係長　西尾　幸則　　調査主任　田城　武志

調査主事　栗田　正芳　　調査員　上田　　真　　調査員補　水本　完児

4．本書の執筆は第６章(3)を水本完児が行い、それ以外の部分の執筆と編集を上田　　真が行った。また、遺構の写真撮影は上田　　真が、遺物の写真撮影は大西朋子が主として行った。

5．発掘調査参加者は以下の通りである。

猪森しげ子、岩本　憲、岡本邦栄、笠松誠悟、亀山健一、杉内郷一、塚原竜一、豊田俊弘西田竜一、細田尚秀、政本和人、松岡和人、松岡末一、松原寛之、三江元則、村田　淳

（五十音順）

6．整理・報告参加者は以下の通りである。

小川雅子、田窪あゆみ、富田紳子、西山美喜、兵頭牧子　（五十音順）

7．調査に当たって、鹿島商会住宅部、有限会社　吉田商事の関係各位にはひとかたならぬご協力、ご配慮を賜った。記して、感謝の意を表します。

8．本書を作成するのに次の各機関・個人に御教示を賜った。

御厚情に感謝します。

永田　信一（京都市埋蔵文化財センター）、

中野　良一（愛媛県埋蔵文化財センター）、

森田　　稔（神戸市立博物館）（五十音順）

本文目次

第一章　調査に至る経過 …… 1
第二章　遺跡の立地と環境 …… 1
第三章　周辺の遺跡 …… 1
第四章　調査区と地区割り …… 2
第五章　遺跡の基本層序 …… 4
第六章　検出された遺構と遺物 …… 7
(1)　掘立柱建物 …… 7
(2)　土　　壙 …… 9
(3)　ピ　ッ　ト …… 17
(4)　　溝 …… 31
(5)　土器集積遺構 …… 33
(6)　遺構外出土遺物 …… 47
第七章　考　　察 …… 48

挿図目次

図１　調査地周辺遺跡 …… 2
図２　調査区と設定グリッド …… 3
図３　発掘区断面位置図 …… 4
図４　Ｃライン土層図 …… 5
図５　調査区東壁土層図 ……
図６　南江戸闘目遺跡検出遺構 …… 6
図７　ＳＢ－１　出土遺物 …… 7
図８　ＳＢ－２　出土遺物 ……
図９　ＳＢ－１　平断面図 …… 8
図10　ＳＢ－２　平断面図 …… 9
図11　ＳＫ－１　平断面、及び遺物出土状況図 …… 10
図12　ＳＫ－１　出土遺物 …… 12
図13　ＳＫ－３　平断面図 …… 13
図14　ＳＫ－３　出土遺物 ……
図15　ＳＫ－４　出土遺物　図16　ＳＫ－４　平断面図 …… 14
図17　ＳＫ－５　出土遺物　図18　ＳＫ－５　平断面図 ……
図19　ＳＫ－６　遺物出土状況図 …… 15

図20　ＳＫ－６　出土遺物 …… 15
図21　ＳＫ－７　平断面、及び遺物出土状況図　図22　ＳＫ－８　平断面図 …… 16
図23　ＳＫ－９　平断面図　図24　ＳＰ－７・８・９　出土遺物
図25　ＳＰ－１　平断面図　図26　ＳＰ－２　平断面図 …… 17
図27　ＳＰ－３　平断面図　図28　ＳＰ－４　平断面図
図29　ＳＰ－５　平断面図　図30　ＳＰ－６　平断面図 …… 18
図31　ＳＰ－７　平断面図　図32　ＳＰ－８　平断面図
図33　ＳＰ－９　平断面図　図34　ＳＰ－10　平断面図
図35　ＳＰ－11　平断面図
図36　ＳＰ－12・13　平断面図　図37　ＳＰ－14　平断面図 …… 19
図38　ＳＰ－15　平断面図　図39　ＳＰ－16　平断面図
図40　ＳＰ－17　平断面図　図41　ＳＰ－18　平断面図
図42　ＳＰ－18　出土遺物　図43　ＳＰ－19　平断面図 …… 20
図44　ＳＰ－20　平断面図　図45　ＳＰ－21　平断面図
図46　ＳＰ－23　出土遺物　図47　ＳＰ－22　平断面図
図48　ＳＰ－23　平断面図　図49　ＳＰ－24　平断面図
図50　ＳＰ－25　平断面図　図51　ＳＰ－26　平断面図 …… 21
図52　ＳＰ－27　平断面図　図53　ＳＰ－28　平断面図
図54　ＳＰ－29　平断面図　図55　ＳＰ－30　平断面図
図56　ＳＰ－31　平断面図
図57　ＳＰ－32･33･34　平断面図　図58　ＳＰ－32　出土遺物 …… 22
図59　ＳＰ－35・36　平断面図　図60　ＳＰ－37　平断面図
図61　ＳＰ－38　平断面図　図62　ＳＰ－39　平断面図
図63　ＳＰ－40　平断面図　図64　ＳＰ－41・42　平断面図 …… 23
図65　ＳＰ－43　平断面図　図66　ＳＰ－44　平断面図
図67　ＳＰ－45　出土遺物　図68　ＳＰ－45　平断面図
図69　ＳＰ－46　平断面図　図70　ＳＰ－47　平断面図 …… 24
図71　ＳＰ－48　平断面図　図72　ＳＰ－49　平断面図
図73　ＳＰ－50　平断面図　図74　ＳＰ－51　平断面図
図75　ＳＰ－52　平断面図　図76　ＳＰ－53　出土遺物 …… 25
図77　ＳＰ－53　平断面図　図78　ＳＰ－54　平断面図
図79　ＳＰ－55　平断面図　図80　ＳＰ－56　平断面図
図81　ＳＰ－57　平断面図
図82　ＳＰ－58　平断面図　図83　ＳＰ－　59・60　平断面図…… 26
図84　ＳＰ－61　平断面図　図85　ＳＰ－　62・63　平断面図
図86　ＳＰ－64　平断面図　図87　ＳＰ－65　平断面図

図88　ＳＰ－66　平断面図　図89　ＳＰ－66　出土遺物 …… 27
図90　ＳＰ－67　平断面図　図91　ＳＰ－68　平断面図
図92　ＳＰ－69　平断面図　図93　ＳＰ－70　平断面図
図94　ＳＰ－71　平断面図　図95　ＳＰ－72　平断面図
図96　ＳＰ－73　平断面図
図97　ＳＰ－74　平断面図　図98　ＳＰ－75　平断面図 …… 28
図99　ＳＰ－76　平断面図　図100　ＳＰ－77　平断面図
図101　ＳＰ－78　平断面図
図102　ＳＰ－79　平断面図　図103　ＳＰ－80　平断面図 …… 29
図104　ＳＰ－81　平断面図　図105　ＳＰ－82　平断面図
図106　ＳＰ－83　平断面図　図107　ＳＰ－84　平断面図
図108　ＳＰ－85　平断面図　図109　ＳＰ－86　出土遺物 …… 30
図110　ＳＰ－87・88　平断面図　図111　ＳＰ－89　平断面図
図112　ＳＰ－90・91　平断面図
図113　ＳＰ－92・93　平断面図　図114　ＳＤ－２　平断面図 …… 31
図115　ＳＤ－３　出土遺物　図116　ＳＤ－４　平断面図
図117　ＳＤ－３　平断面図　図118　ＳＤ－６　平断面図 …… 32
図119　ＳＤ－６　出土遺物　図120　ＳＤ－５　平断面図
図121　ＳＤ－７　平断面図　図122　１号土器集積遺構平面図 …… 33
図123　２号土器集積遺構平面図 …… 34
図124　３号土器集積遺構平面図 …… 35
図125　３号土器集積遺構出土遺物（Ｃ－５）
図126　１・２号土器集積遺構出土遺物（Ｃ－１・Ｃ－２・Ｄ－１・Ｄ－２） …… 36
図127　２号土器集積遺構出土遺物（Ｄ－２） …… 37
図128　２号土器集積遺構出土遺物（Ｅ－１） …… 38
図129　２号土器集積遺構出土遺物（Ｅ－１） …… 39
図130　２号土器集積遺構出土遺物（Ｅ－１） …… 40
図131　遺構外出遺物 …… 47
図132　畑寺竹ヶ谷遺跡出土遺物 …… 50
図133　石井幼稚園遺跡出土遺物(1)　図134　石井幼稚園遺跡出土遺物(2) …… 51
図135　樽味四反地遺跡出土遺物　図136　古照Ｇ遺跡出土遺物 …… 52

表 目 次

表１　ＳＢ－１・ＳＢ－２　出土遺物観察表 …… 7
表２　ＳＫ－１　出土遺物観察表 ……10・1111
表３　ＳＫ－４・ＳＫ－５・ＳＫ－６　出土遺物観察表 …… 15
表４　ＳＫ－７・ＳＫ－８・ＳＫ－９　出土遺物観察表 …… 16
表５　ＳＰ・ＳＤ　出土遺物観察表 …… 33
表６　土器集積遺構出土遺物観察表 …… 41～46
表７　遺構外出遺物観察表 …… 47・48
表８　畑寺竹ヶ谷遺跡出土遺物観察表 …… 53
表９　石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(1) …… 53
表10　石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(2) …… 54
表11　樽味四反地遺跡出土遺物観察表 …… 54
表12　古照Ｇ遺跡出土遺物観察表 …… 54

図版目次

図版１　遺構検出状況（南西から）　遺構検出状況（北から）
図版２　Ｃライン土層　東壁土層
図版３　ＳＫ－１　検出状況　ＳＫ－１　半截状況
図版４　ＳＫ－１　断面　ＳＫ－１　堀り上り
図版５　ＳＫ－１　遺構検出状況　ＳＫ－１　調査状況
図版６　ＳＰ－89　半截　１号土器集積遺構
図版７　２号土器集積遺構　２号土器集積遺構
図版８　２号土器集積構拡大　２号土器集積遺構拡大
図版９　２号土器集積遺構　３号土器集積遺構
図版10　ＳＫ－１　出土かわらけ
図版11　ＳＫ－１　出土かわらけ　ＳＫ－４　出土かわらけ
図版12　ＳＫ－７　出土かわらけ　２号土器集積遺構出土かわらけ
図版13　２号土器集積遺構出土かわらけ
図版14　２号土器集積遺構出土かわらけ
図版15　２号土器集積遺構出土かわらけ
図版16　２号土器集積遺構出土かわらけ　３号土器集積遺構出土かわらけ
図版17　出土須恵器　出土瓦器
図版18　出土鍋　出土置き竈

第一章　調査に至る経過

本遺跡は松山市南江戸４丁目1095、1096に所在し、調査前は水田地であった。平成元年５月、株式会社穴吹工務店 代表取締役 穴吹夏次氏より開発の申請があったが、申請地が松山市埋蔵文化財包蔵地地図所載の古照遺跡内に当たるため、平成元年９月１日から９月12日にかけて試掘調査を実施した。試掘調査の結果、中世の土器(かわらけ)と木炭の大量出土から良好な中世遺跡と判断され、現状保存が望まれたが、新たに地権者となった鹿島商会 西原久男氏と協議の結果、本格調査を行うことになり、平成２年４月16日から同６月30日の約２ヶ月半にわたって調査を行った。

第二章　遺跡の立地と環境

石手川分流として西流する宮前川は大峰ヶ谷を避けて流れを南に変えた後、大峰ヶ台に沿って右折、その後分岐して北・西の２条の流れとなって瀬戸内海に注ぐ。石手川本流は現在は西南に流れて、松山市南部で重信川に合流するが、江戸時代初めに改修される前は西流して今の持田町や二番町を抜けて、吉田浜に注いでいた。

南江戸鬮目遺跡は、この旧石手川や宮前川が形成した海抜約12mの沖積低地上にあり、付近は水田地帯であるが、最近になって、松山市道千舟高岡線及び松山西環状線が開通し、宅地化が進みつつある。本遺跡の調査もこうした水田の宅地化に伴うものである。

第三章　周辺の遺跡

本遺跡周辺の遺跡としては、先ず南方150mの古照遺跡が挙げられる。古照遺跡は、昭和47年に発見された古墳時代前期の堰の遺跡であるが、堰を埋めた砂礫層からは縄文時代から中世までの各時代の土器が出土している。弥生時代の遺跡には、弥生時代中期の高地性集落が検出された大峰ヶ谷台遺跡、弥生時代後期の壺棺墓や竪穴住居跡が検出された澤遺跡などがある他、辻遺跡でも弥生時代後期の土器の集中出土が見られる。古墳時代の遺跡には前述の古照遺跡の他、大峰ヶ台北斜面には出現期の大峰台朝日谷２号墳、同じ大峰ヶ台に終末期の客谷古墳群、谷を挟んで西側の岩子山に岩子山、御産所古墳群が所在するなど、比較的恵まれている。古代については、本遺跡周辺に限らず、松山市全域で未だ様相が不明であるが、大峰ヶ台を挟んで反対側の衣山町でロストル式の瓦窯が報告されている他、さらに北方の久万ノ台遺跡でも平安時代の土器が出土している。

中世の遺跡は比較的多く、松山西環状線建設に伴う古照遺跡の調査では、多数の中世の土器の出土を見ている他、北斎院地内遺跡では室町時代から江戸時代にかけての土壙墓、南江戸桑田遺跡では江戸時代の桶棺墓が検出されている。これらと共に忘れてはならないのが、北方300mの鎌倉時代創建と伝えられる大宝寺の存在で、本遺跡地が、大宝寺の寺域、或は寺領に含まれていた

図１　調査地周辺遺跡

ことが充分に考えられ、注意を要する。

第四章　調査区と地区割り

調査対象地は、南北約48m、東西約41mの東辺と西辺がほぼ平行な台形を呈し、面積は1,791㎡である。試掘調査では、南北に３本（西から西トレンチ、中央トレンチ、東トレンチ）と、その北端に東西に１本（北トレンチ）の計４本のトレンチ掘りを行ったが、そのうち、東トレンチでは、遺構、遺物の検出が見られなかった。このため、東半分は廃土置き場及びプレハブ用地とし、西トレンチ、中央トレンチ及び北トレンチの西側を含む調査対象地のほぼ西半分の表土剥ぎを行った。更に表土を除去した結果、南側にいく程遺物の出土が疎であり、調査期間等との関係から、表土を剥いた地区の北側¾、約470㎡を最終的な調査区とした。グリッドは、後で地図上の位置が明確になるように、南辺の西南隅から約⅓の所にあった地境の標識を基点として、磁北の東西、南北方向の４m間隔に設定した。その後、調査区の西端がＡラインとＢラインの間、北端が１ラインと２ラインの間に含まれるように、西からＡ、Ｂ、Ｃ、…Ｆ、北から１、２、３、…８ラインを設定し、グリッドは４本のラインのに挟まれた間、その区分は西北隅で交る２本のラインの名称で表わすようにした。この結果、元の基点は、Ｅ－12となった。

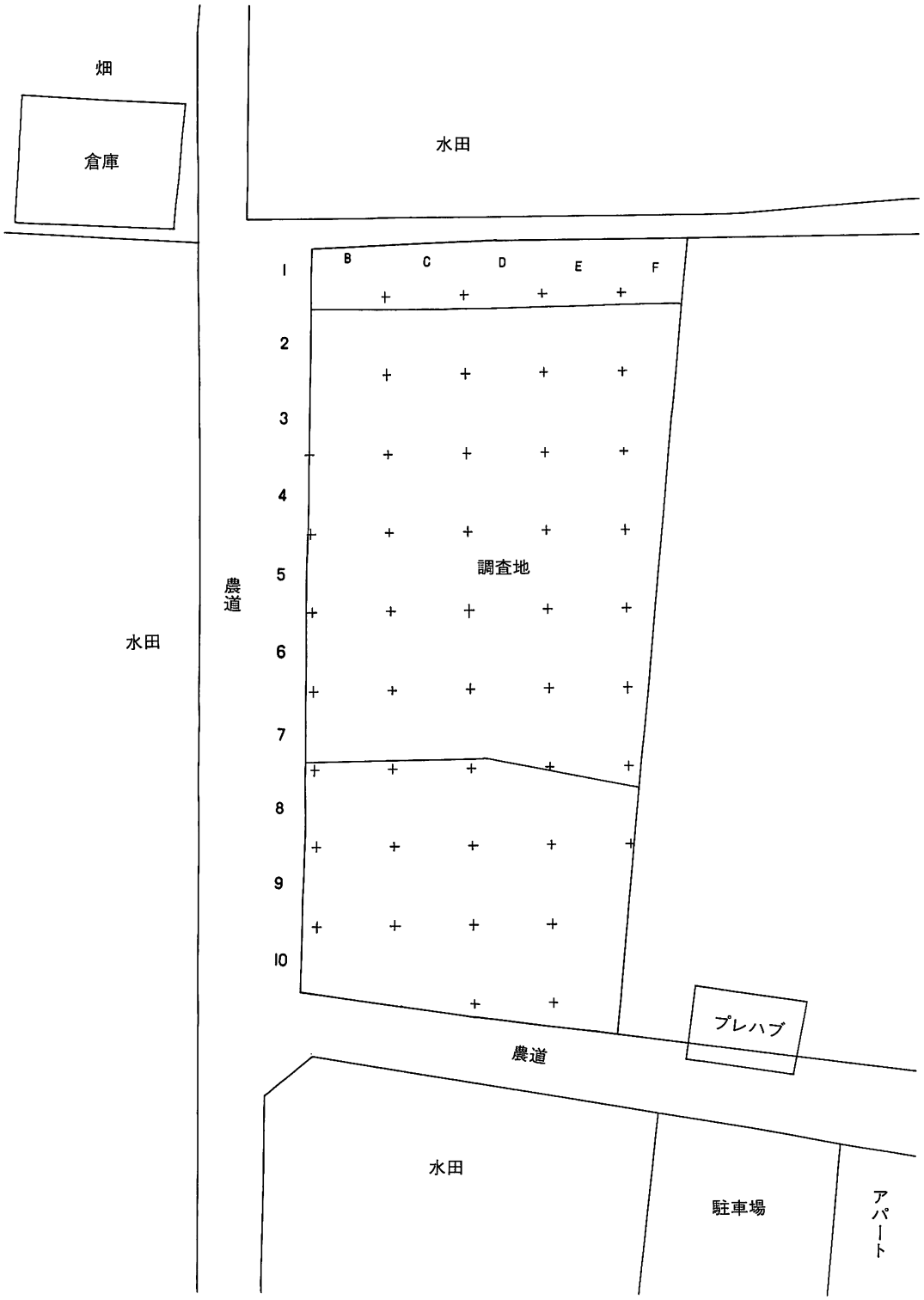


図２　調査区と設定グリッド

第五章　遺跡の基本層序

本遺跡の層序は、大きく12層に分かれる。Ⅰ層は灰色粘質土層で耕作土である。Ⅱ層は赤褐色粘質土層で床土であるが、赤褐色土中の灰色土の混合状態によって更に4層程度に細分層が可能である。Ⅲ層は赤褐色土粒を含む灰色砂質土層で遺物の包含層である。調査区全面に安定して存在する。Ⅳ層は遺物を含まない灰色砂質土層であるが、部分的にしか存在しない。Ⅴ層は礫を含む粗めの灰色砂質土で遺物を包含する。調査区内の各所に島状に見られ、宮前川の氾濫時に凹地に土砂が溜ったものと思われる。Ⅵ層は暗灰褐色粘質土層で、Ⅳ層と同じく無遺物層で調査区内に部分的に存在する。Ⅶ層は黒灰色粘質土層で、遺物を包含すると共に、大部分の遺構もこの層中で検出された。調査区全面に安定的に存在する。Ⅷ層はⅦ層よりやや明るめの暗灰色粘質土であるがⅦ層と異なり遺物を含まない。ほぼ調査区全面に安定的に存在する。Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ層は各々、灰褐色砂質土、赤褐色土混灰褐色砂質土、明灰色砂質土、と遺物を全く含まない砂層である。層序を見るために壁際で掘り下げた他は、発掘しなかった。その他に遺構の埋土であったと思われる炭灰を含む黒灰色粘質土（Ⅻ層）や炭灰と赤褐色土塊を含む黒灰色粘質土(XⅣ層)、洪水時に溜まったと思われる明灰色粗砂（XⅢ層）や灰色粗砂（XⅤ層）が部分的に塊状に見られた。

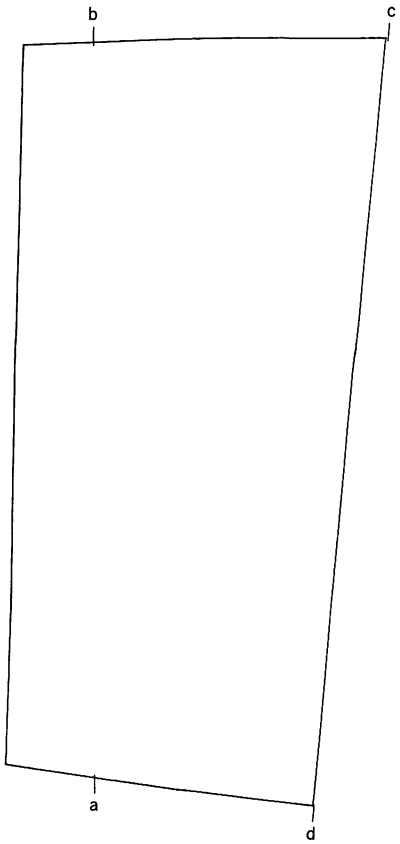


図3　発堀区断面位置図

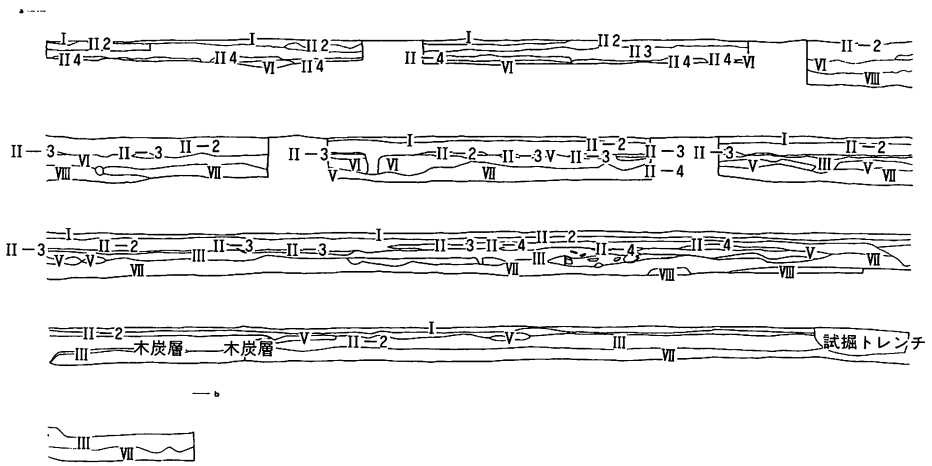
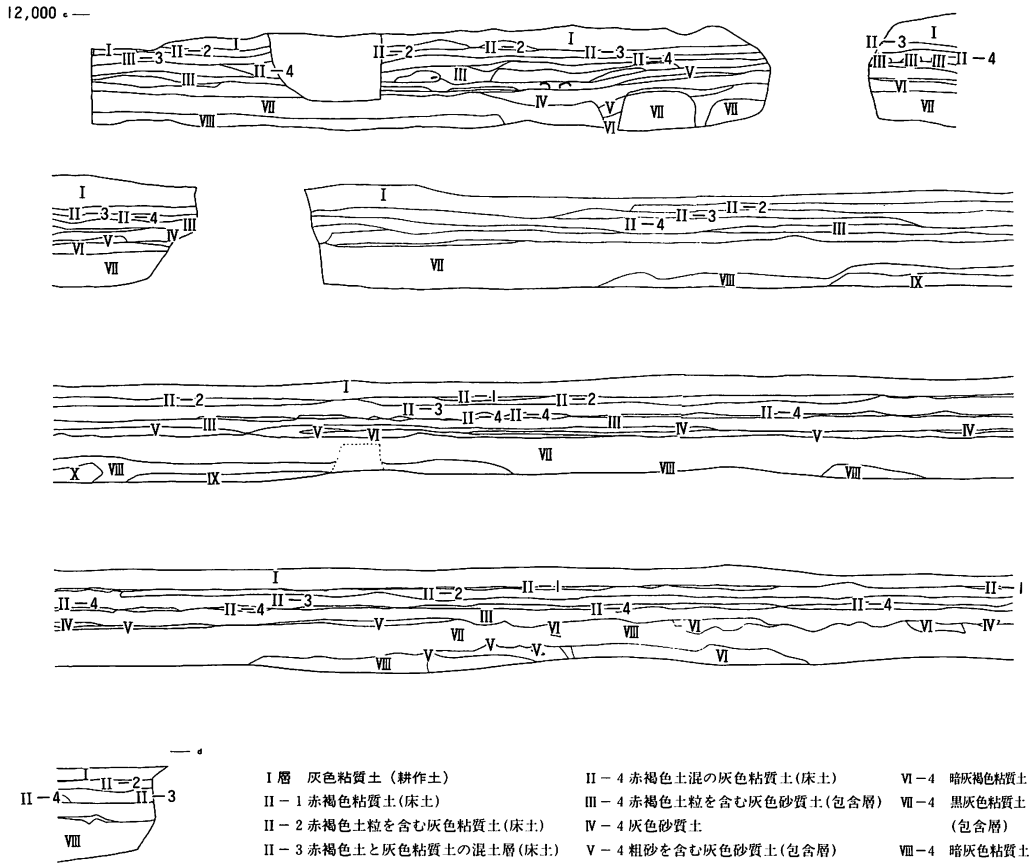


図4　Cライン土層図



Ⅰ層　灰色粘質土（耕作土）
Ⅱ－1 赤褐色粘質土(床土)
Ⅱ－2 赤褐色土粒を含む灰色粘質土(床土)
Ⅱ－3 赤褐色土と灰色粘質土の混土層(床土)
Ⅱ－4 赤褐色土混の灰色粘質土(床土)
Ⅲ－4 赤褐色土粒を含む灰色砂質土(包含層)
Ⅳ－4 灰色砂質土
Ⅴ－4 粗砂を含む灰色砂質土(包含層)
Ⅵ－4　暗灰褐色粘質土
Ⅶ－4　黒灰色粘質土(包含層)
Ⅷ－4　暗灰色粘質土

図5　調査区東壁土層図

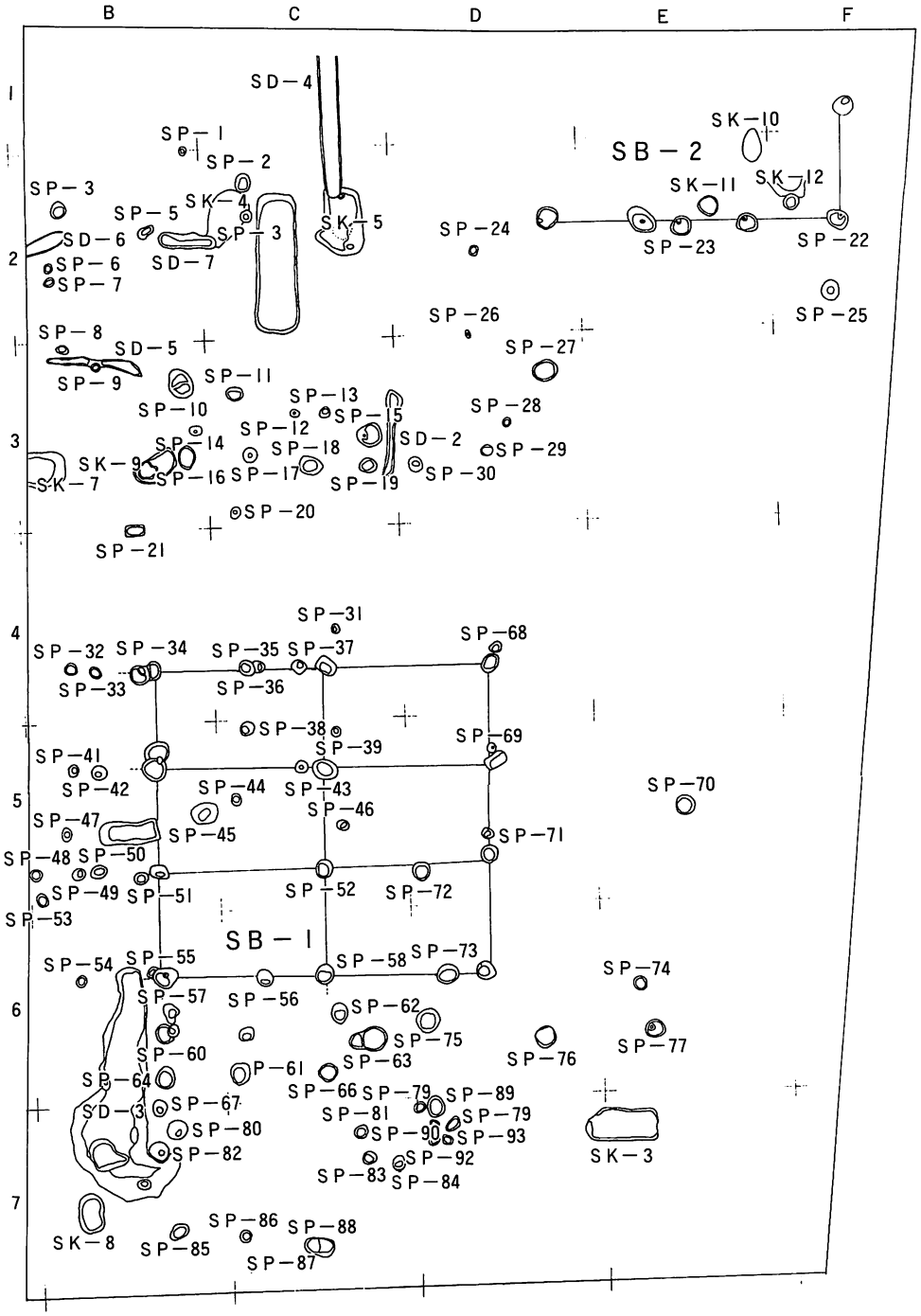


図6　南江戸闘目遺跡検出遺構

第六章　検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は掘立柱建物２棟、土壙12基、溝６条、ピット93基、土器集積遺構等であるが、北壁際の土壙３基、ピット６基については調査の途中で確認面より高い北隣の水田との境が決壊する恐れが生じたため、プランを確認したのみで、未調査のまま埋め戻した。これらの遺構に伴う遺物は、稀に古墳時代の須恵器蓋坏や甕片の混入が見られるが、ほとんど平安時代末から鎌倉時代の土器（かわらけ）で、これに同時代の中世陶器や輸入陶磁器が伴う。このことより、これらの遺構はすべて、平安時代末から鎌倉時代のものと思われる。

(1)　掘立柱建物

ＳＢ－１

遺構　調査区のほぼ中央部西寄りのＢ－４～６、Ｃ－４～６、Ｄ－４～６グリットのⅦ層上面で検出された。桁行方向をＮ－２°－Ｅとほぼ真北にとる桁行３間、梁行２間の総柱式の建物であるが、西側の調査区外に延びる３間×３間の東西に長い建物であったことも考えられる。この場合、Ｐ－19、Ｐ－51、ＳＰ－３も入口施設のようなＳＢ－１に関連する遺構であるかもしれない。

遺物　図示したものの他、土器少量が出土している。

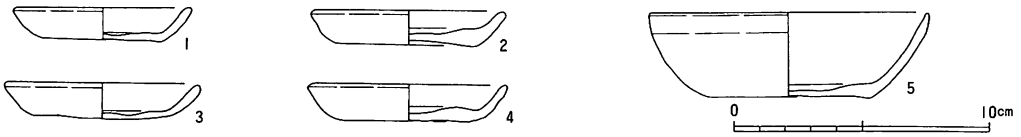


図７　ＳＢ－１　出土遺物

ＳＢ－２

遺構　調査区の北東部Ｄ～Ｆ－１、２グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。桁行３間、梁行１間の建物であるが、北部を遺構確認途中に埋め戻したため、梁行桁数は不明である。調査された南辺のピットはいずれも柱痕が残っており、しかもピット底面より深くめり込んでいた。

遺物　図示したものの他、土器少量が出土している。

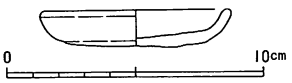


図８　ＳＢ－２　出土遺物

表１　SB-1・SB-２　出土遺物観察表

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
7-1	ＳＢ－１	7.0	4.7	1.4	回転糸切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
2	〃	7.5	5.5	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
3	〃	7.5	5.5	1.5	〃	〃	〃	
4	〃	7.7	5.1	1.5	〃	〃	〃	
5	〃	10.9	6.4	3.4	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
8-0	ＳＢ－２	7.2	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	

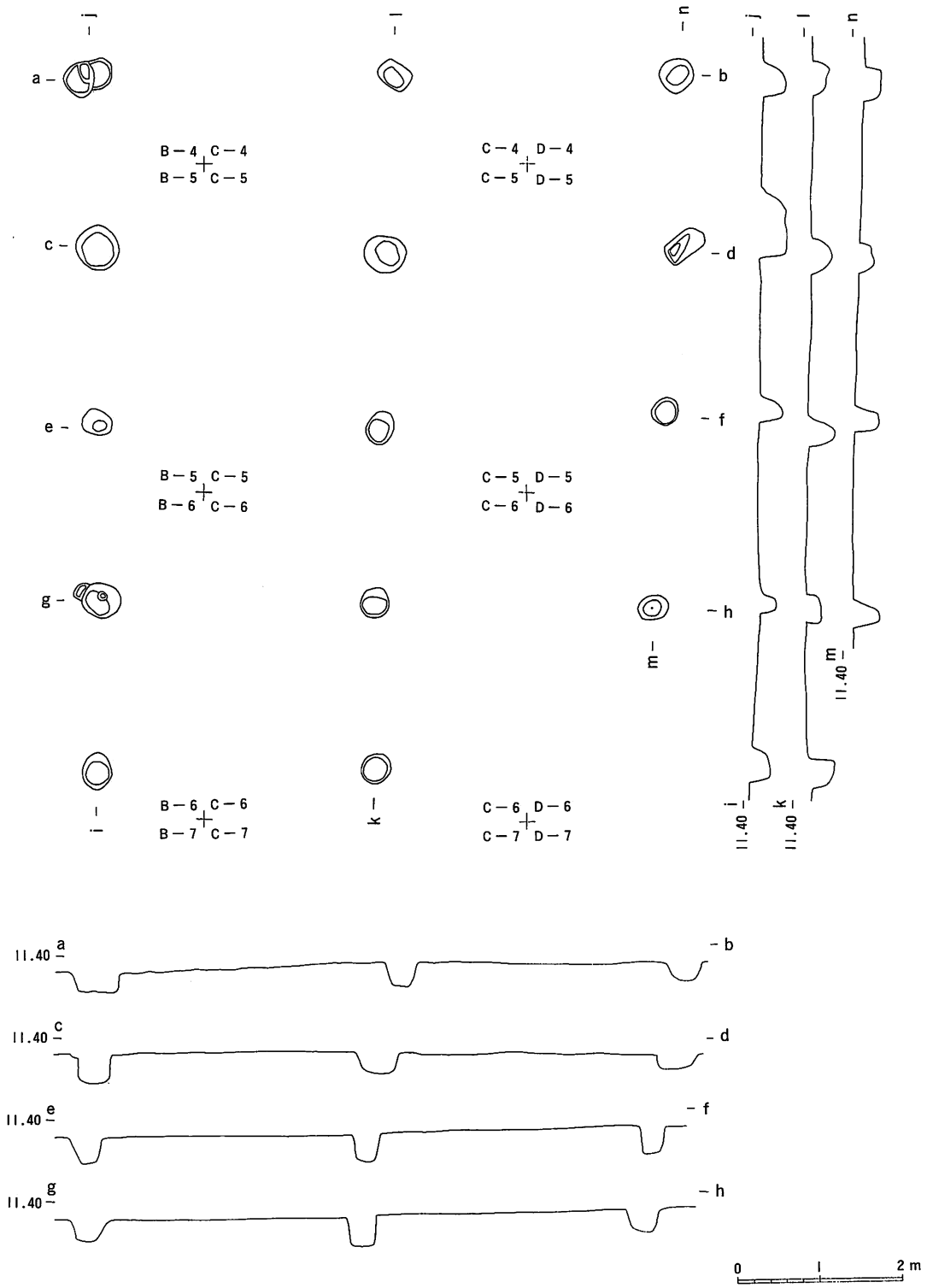

a
b
c
d
e
f
g
h
i
k
m
n
B－4 C－4
B－5 C－5
C－4 D－4
C－5 D－5
B－5 C－5
B－6 C－6
C－5 D－5
C－6 D－6
B－6 C－6
B－7 C－7
C－6 D－6
C－7 D－7
11.40
0 1 2 m

図9　SB－1　平断面図

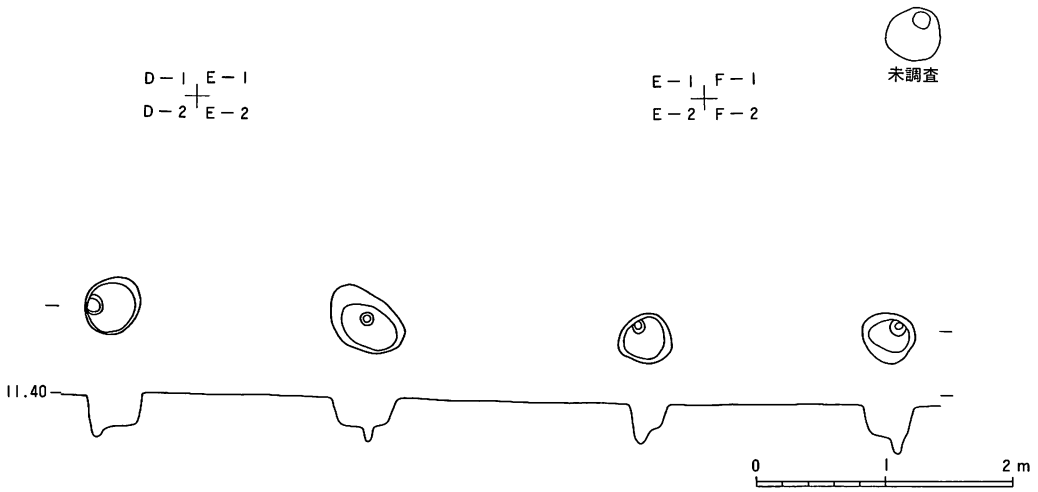


図10　SB－2　平断面図

(2)　土　　壙

SK－1

遺構　調査区の西部、B－5グリッドのⅢ層上面で多数の土器片の集中により検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長径約1.2m、短径約0.6m、確認面よりの深さ約30cmで、主軸をW－5°－Sとほぼ東西にとる長方形であるが、西側は隅が角ばる。埋土は固く締まった灰色の粘質土で2～3mmの炭粒が多数混じるが、それを上回る量の土器片が出土しており、土器片の間に土が入っていると言っても過言ではない。

遺物　図示したものを含めて多数の土器片が出土している他、東播系陶器甕片と少数の礫が出土している。土器片は上層では比較的小片であるが、下層のものは完形または完形に近く、それらは重なって出土する傾向が見られた。

SK－2

遺構　調査区の中央部北西寄りのC－3グリッドで検出されたが、掘り込みが極めて浅く調査中に消滅した。

遺物　鉄滓10数点が出土している。

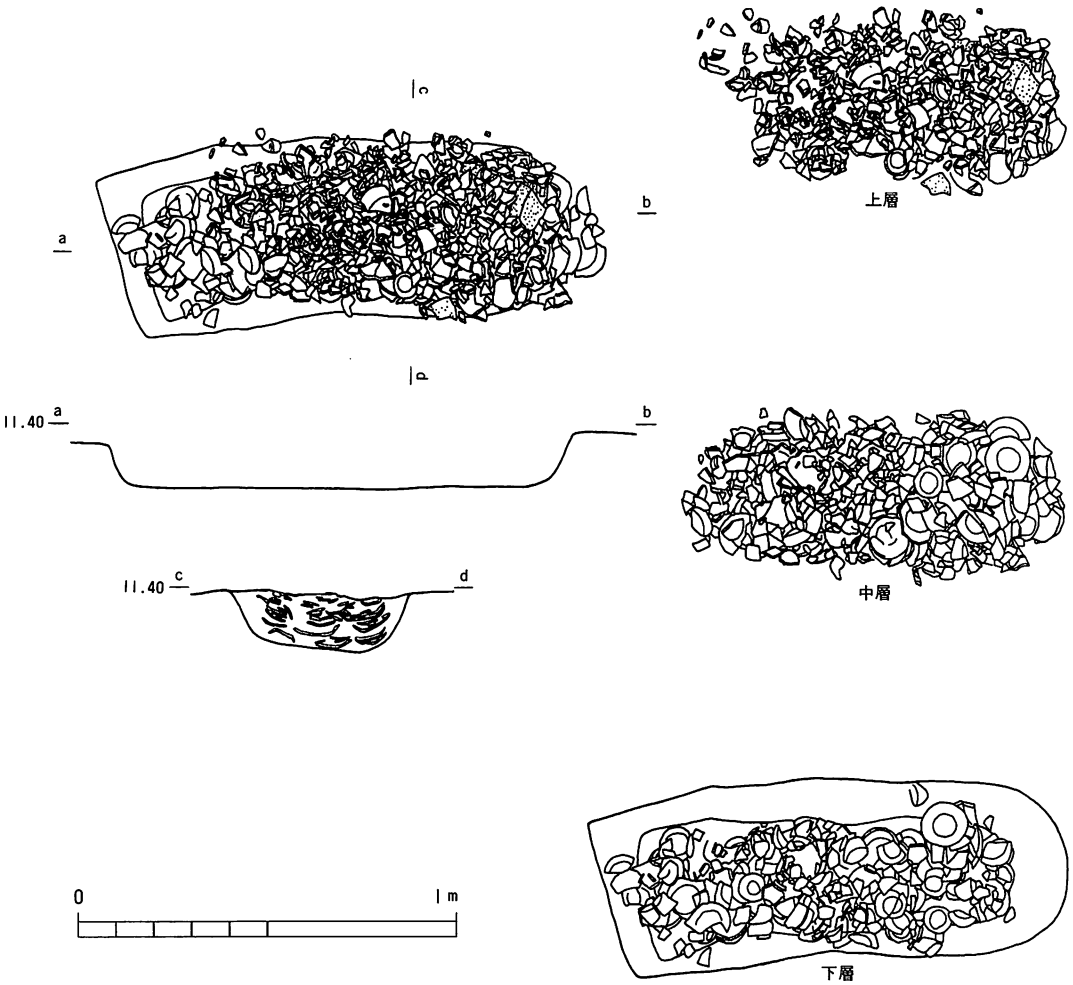


図11　SK－1　平断面及び遺物出土状況図

表2　SK-1　出土遺物観察表

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
12-1	SK－1	7.5	5.1	1.1	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
2	〃	7.5	5.4	1.4	〃	〃	〃	
3	〃	7.7	5.0	1.4	〃	〃	〃	
4	〃	7.7	5.4	1.1	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
5	〃	7.8	5.1	1.0	右回転糸切り	〃	〃	
6	〃	7.8	5.4	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　　面	外　面	内　面	備　　考
12- 7	ＳＫ－１	7.8	5.7	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
8	〃	7.9	4.5	1.2	〃	〃	〃	
9	〃	7.9	4.8	1.4	右回転糸切り	〃	〃	
10	〃	7.9	5.5	1.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
11	〃	7.9	5.8	1.0	〃	〃	〃	
12	〃	8.0	5.2	1.3	右回転糸切り	〃	〃	
13	〃	8.0	5.4	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
14	〃	8.0	5.5	1.4	右回転糸切り	－	－	
15	〃	8.0	5.6	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
16	〃	8.0	6.2	1.2	〃	〃	〃	
17	〃	8.1	5.3	1.2	〃	〃	〃	
18	〃	8.1	5.7	1.1	右回転糸切り	〃	〃	
19	〃	8.2	5.4	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
20	〃	8.2	5.6	1.2	〃	〃	〃	
21	〃	8.2	5.8	1.2	〃	〃	〃	
22	〃	8.2	5.9	1.5	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
23	〃	8.2	6.0	1.1	右回転糸切り	〃	〃	
24	〃	8.4	5.7	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
25	〃	11.2	7.4	2.6	〃	〃	〃	
26	〃	12.2	7.0	2.8	〃	〃	〃	
27	〃	12.2	7.4	2.9	右回転糸切り	〃	〃	
28	〃	12.2	7.5	3.4	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
29	〃	12.3	7.7	3.0	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
30	〃	12.4	7.7	3.0	〃	〃	〃	
31	〃	12.4	6.9	3.0	〃	〃	〃	
32	〃	12.4	7.2	3.1	〃	〃	〃	
33	〃	12.4	7.5	3.0	〃	〃	〃	
34	〃	12.4	7.9	3.3	〃	〃	〃	
35	〃	12.5	8.0	3.0	〃	〃	〃	
36	〃	12.6	8.5	3.7	〃	〃	〃	
37	〃	12.6	8.3	3.9	磨　滅	〃	〃	
38	〃	12.6	6.9	3.2	右回転糸切り	〃	〃	
39	〃	12.6	7.7	3.3	〃	〃	〃	
40	〃	12.6	7.8	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
41	〃	12.8	7.3	3.1	〃	〃	〃	
42	〃	12.9	8.1	3.3	〃	〃	〃	
43	〃	13.2	8.1	3.2	右回転糸切り	〃	〃	
44	〃	－	(12.6)	－	糸切り？	〃	〃	

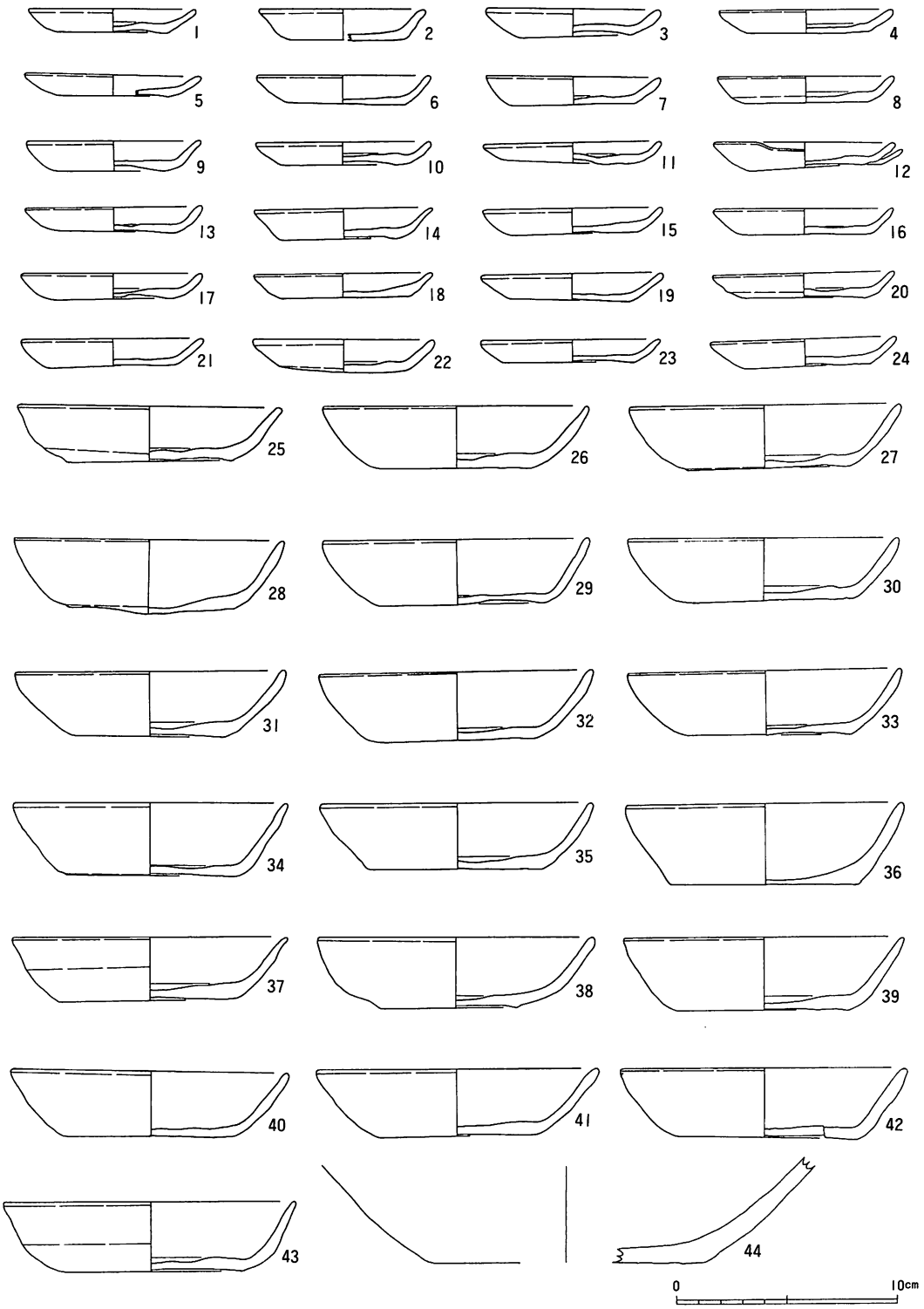

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
0
10cm

図12　SK－1　出土遺物

SK－3

遺構　調査区の南東部、D－7、E－7グリッドのⅦ層中で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長辺約1.5m、短辺約0.7mの主軸をN－78°－Wとほぼ東西にとる隅丸方形であるが、プランの確認に手間取ったため確認面よりの深さは約10cmである。
埋土は籾殻を焼いたような灰を含む上層の黒褐色土とそれを含まない下層の暗褐色土に大きく分かれるが、灰の混じり方が必ずしも一様ではなく、プランの確認に手間取った。

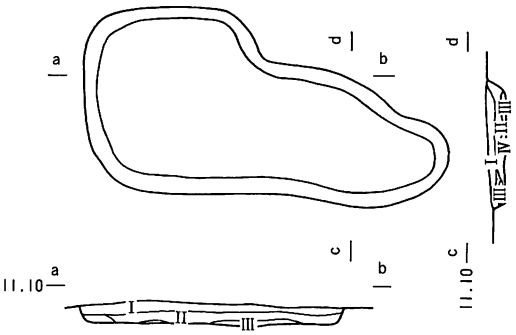


図13　SK－3　平断面図

遺物　図示した小刀の他、少量の土器片と鉄滓が出土している。また、漆器であったと思われる漆の付着した布片と置き竈片は確認面より上層からの出土であるが、出土位置や状況から見て、本来この土壙に伴っていたと思われる。

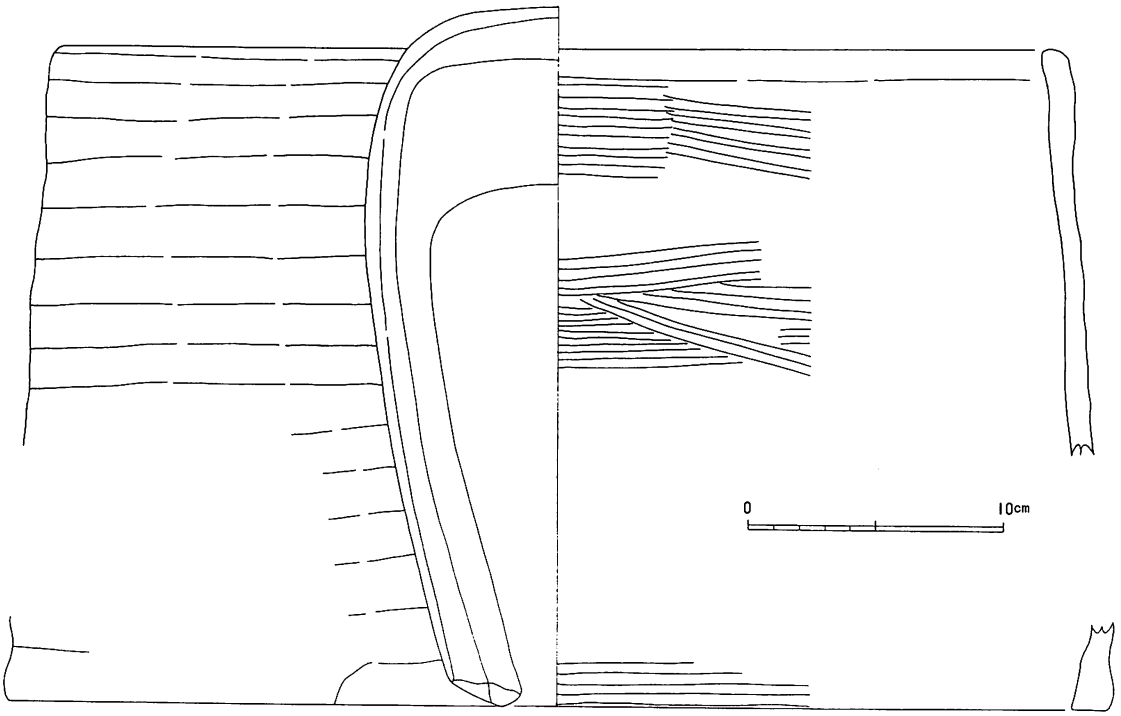


図14　SK－3　出土置き竈

ＳＫ－４

遺構　調査区の北西部、Ｃ－２グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長辺約3.0m、短辺約0.9mの主軸方向をＮ－2°－Ｅとほぼ南北にとる隅丸長方形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋土は、上から、茶褐色砂質土、灰褐色粗砂土、明灰色砂質土の３層に大きく分かれ、部分的に乳褐色粘質土が塊状に見られる。

遺物　図示したものの他、土器片が少量出土している。

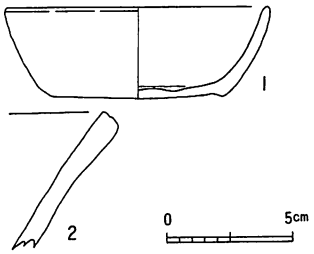


図15　ＳＫ－４　出土遺物

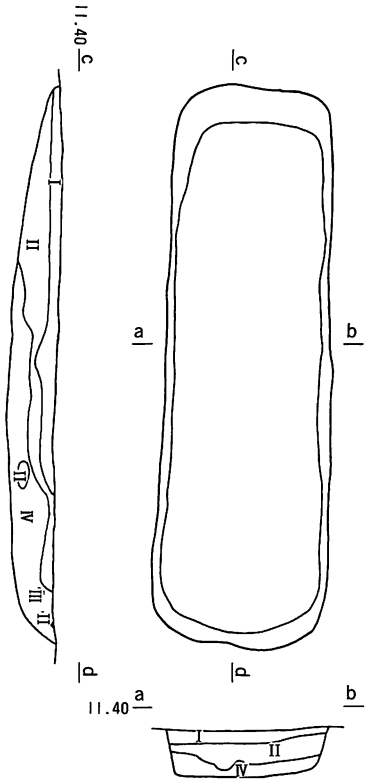


図16　ＳＫ－４　平断面図

ＳＫ－５

遺構　調査区北部のＣ－２グリッドのⅦ層上面で検出された。ＳＤ－２に切られる。長径約1.4m、短径約0.8ｍの主軸方向をＮ－1°－Ｗとほぼ南北にとる隅丸方形で、確認面よりの深さは約10cmである。埋土は暗灰褐色砂質土を主とし、上層の一部に焼土が見られる。

遺物　図示したものの他、土器片が少量出土している。

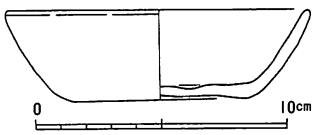


図17　ＳＫ－５　出土遺物

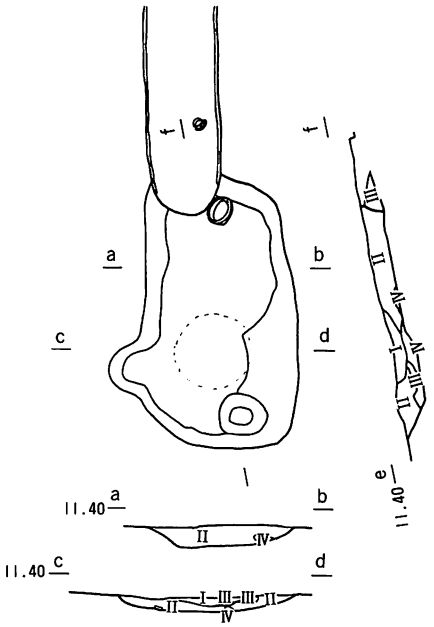


図18　ＳＫ－５　平面図

ＳＫ－６

遺構　調査区北西部のＣ－２グリッドのⅦ層上面で多数の土器の集中により検出された。検出時には既に削平してしまっていたが、その上層で一度は卵形のプランを確認しており、下層で出土した土器の集中範囲と一致することから、掘り込みがあったものと判断した。ＳＰ－９、ＳＤ－７を切る。埋土は、地山と同じ暗褐色土に乳白色の粘土が斑に混じっていた。

遺物　図示したものも含め、土器片多数が出土している。土器のなかには畿内産またはその模倣と思われる底部を糸切りによらないものもある。

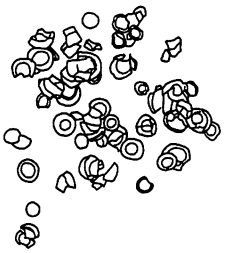


図19　ＳＫ－６　遺物出土状況図

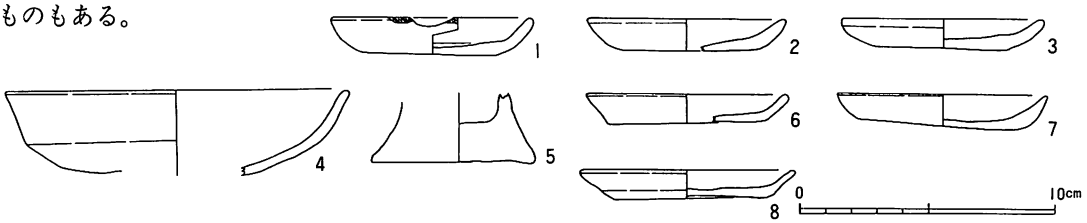


図20　ＳＫ－６　出土遺物

表３　SK-4・SK-5・SK-6 出土遺物観察表

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
15-1	ＳＫ－４	10.4	6.9	3.5	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
2	〃	－	－	－	－	－	－	
17	ＳＫ－５	12.0	7.1	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
20-1	ＳＫ－６	7.8	5.1	1.5	回転糸切り後すのこ痕強め	〃	〃	
2	〃	7.8	5.7	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
3	〃	7.8	6.1	1.2	回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
4	〃	13.6	9.1	3.4	指頭押え	横ナデ	横ナデ	
5	〃	－	6.4	現2.8	右回転糸切り	回転ヘラ削り	回転ナデ	
6	〃	7.8	6.2	1.2	〃	回転ナデ	〃	
7	〃	8.1	6.3	1.4	磨　滅	〃	〃	
8	〃	8.4	5.8	1.2	右回転糸切り	〃	〃	

ＳＫ－７

遺構　調査区の北西部、Ｂ－３グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。西側が調査区外のため長辺は不明であるが、短辺約0.8mの隅丸長方形であったと思われる。埋土は炭の混じった灰色砂質土と混じらない灰色砂質土の上下２層に大きく分かれる。

遺物　図示したものも含めて、土器片少量と鉄滓が出土しており、土器のなかには畿内産またはその模倣と思われる底部を糸切りによらないものもある。

SK－8

遺構　調査区の南西部、B－7グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長径約0.8m、短径約0.5mの主軸方向をN－4°－Eとほぼ南北にとる楕円形で、確認面よりの深さは約20cmである。埋土は一層で、黒灰色粘質土である。

遺物　図示したものを含む土器多数の他、三足鍋体部が出土している。

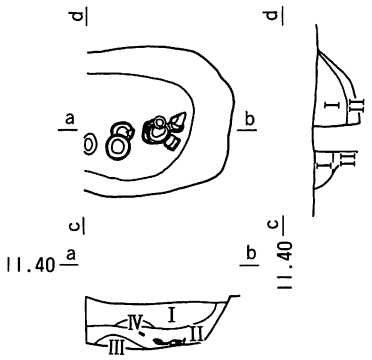


図21　SK－7　平断面及び遺物出土状況図

SK－9

遺構　調査区の西部、B－3グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。長辺約1.0m、短辺約0.5mの主軸をN－20°－Eの北東－南西にとる隅丸長方形で、確認面よりの深さは約40cmである。底面の南西部に直径約40cmのやや深い部分がある。埋土は上層の灰色粘質土と、下層の黒灰色粘質土の2層に大きく分かれる。

遺物　図示したものも含めて土器片が数点出土している。

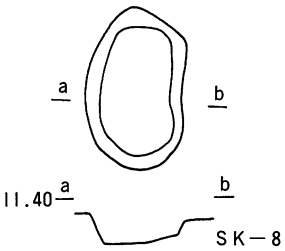


図22　SK－8　平断面図

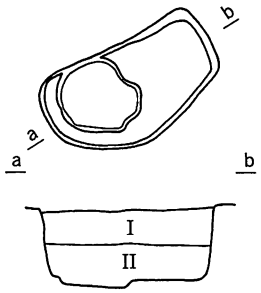


図23　SK－9　平断面図

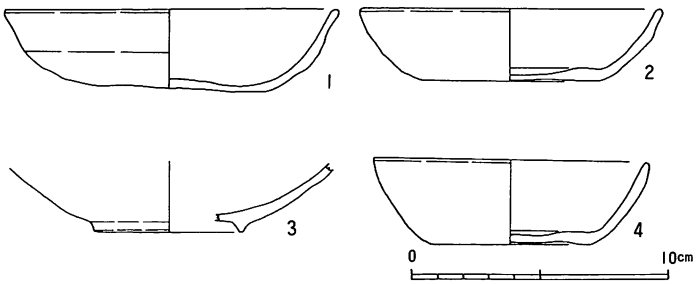


図24　SK－7・8・9　出土遺物

表4　SK-7・SK-8・SK-9 出土遺物観察図

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
24-1	SK－7	13.2	－	3.3	押えとヘラ削り	横ナデ	ヘラ削り	
2	SK－8	11.6	6.0	2.9	回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
3	－	－	(5.8)	現2.8	－	〃	－	
4	SK－9	10.6	6.3	3.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	回転ナデ	

SK－10

遺構　調査区の北東部、E－1・E－2グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はないが、東側を試掘時の中央トレンチに切られる。長径70cm以上の楕円形であったと思われるが、プランを確認したのみで埋め戻した。

SK－11

遺構　調査区の北東部、E－2グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。直径約0.5ｍの円形のプランを確認したのみで埋め戻した。

SK－12

遺構　調査区の北東部、E－2グリッドのⅦ層上面で検出された。他の遺構との切り合い関係はない。一辺約0.7ｍの隅丸方形であったと思われるが、プランの確認中に埋め戻した。

(3)　ピット

SP－1　調査区の西北部、B－1・B－2グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約22cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

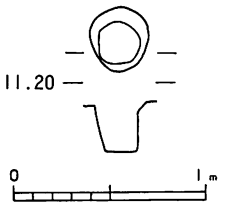


図25　SP－1平断面図

SP－2　調査区の西北部、C－2グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約10cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

SP－3　調査区の西北部、B－2グリッドのⅦ層中で検出された直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約17cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

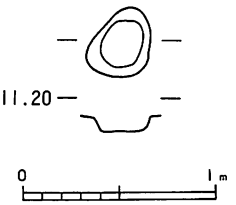


図26　SP－2平断面図

SP－4　調査区の西北部、C－2グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

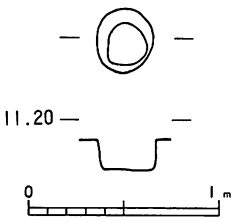


図27　SP－3平断面図

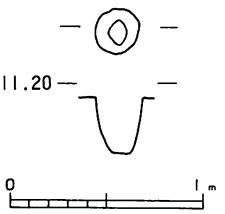


図28　SP－4平断面図

ＳＰ－５　調査区の西北部、Ｂ－２グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約15cmである。埋土は二層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

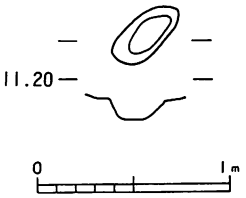


図29　ＳＰ－５　平断面図

ＳＰ－６　調査区の西北部、Ｂ－２グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

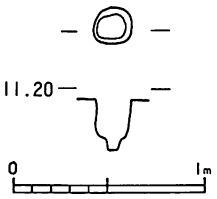


図30　ＳＰ－６　平断面図

ＳＰ－７　調査区の西北部、Ｂ－２グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約20cmである。埋土は一層で暗褐色である。遺物は出土していない。

ＳＰ－８　調査区の西北部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約20cm短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約17cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

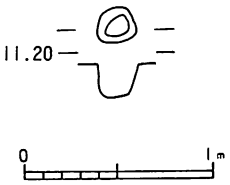


図31　ＳＰ－７　平断面図

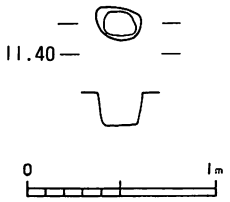


図32　ＳＰ－８　平断面図

ＳＰ－９　調査区の西北部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で確認面よりの深さは約20cmである。
埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

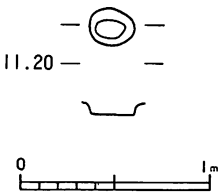


図33　ＳＰ－９　平断面図

ＳＰ－10　調査区の西北部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約60cm、短径約50cmの楕円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は二層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－11　調査区の西北部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約21cmである。埋土は一層で暗褐色土である。
遺物は出土していない。

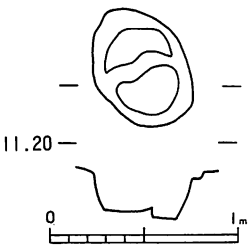


図34　ＳＰ－10　平断面図

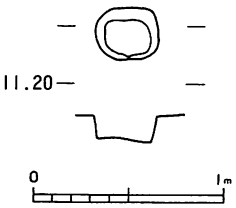


図35　ＳＰ－11　平断面図

ＳＰ－12　調査区の西北部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

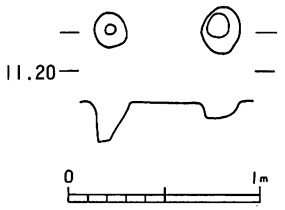


図36　ＳＰ－12・ＳＰ－13　平断面図

ＳＰ－13　調査区の北部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

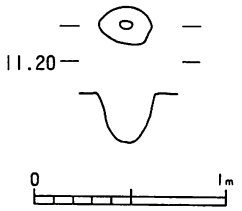


図37　ＳＰ－14　平断面図

ＳＰ－14　調査区の西北部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約18cmである。埋土は二層に分かれ暗褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

ＳＰ－15　調査区の中央部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約55cmの円形で、確認面よりの深さは約35cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

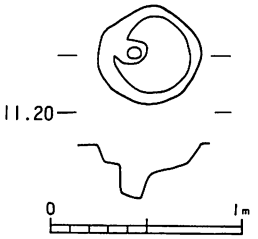


図38　ＳＰ－15　平断面図

ＳＰ－16　調査区の西部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短経約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

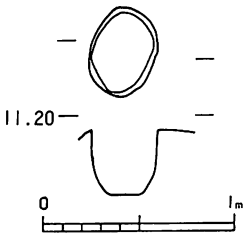


図39　ＳＰ－16　平断面図

ＳＰ－17　調査区の西部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は三層に分かれ暗褐色土を主体とする。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－18　調査区の中央部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短径約40cmの楕円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

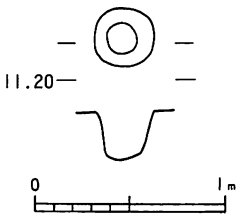


図40　ＳＰ－17　平断面図

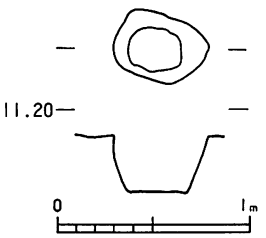


図41　ＳＰ－18　平断面図

ＳＰ－19　調査区の中央部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。一辺30cmの三角形で確認面よりの深さは約18cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

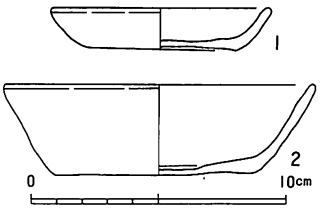


図42　ＳＰ－18　出土遺物

ＳＰ－20　調査区の西部、Ｃ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

ＳＰ－21　調査区の西部、Ｂ－３・Ｂ－４グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

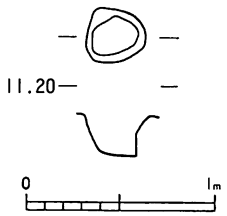


図43　ＳＰ－19　平断面図

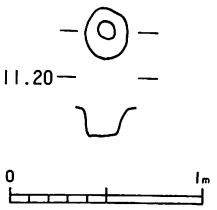


図44　ＳＰ－20　平断面図

ＳＰ－22　調査区の東北部、Ｆ－２グリッドのⅦ層中で検出された。南半部を削平されて全形は不明であるが、直径約30cmの円形であったと思われ、深さは残っている部分で約８cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

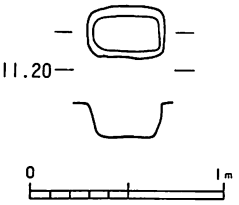


図45　ＳＰ－21　平断面図

ＳＰ－23　調査区の東北部、Ｅ－２グリッドのⅦ層中で検出された。直径約10cmの円形で、確認面よりの深さは約３cmである。埋土は二層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

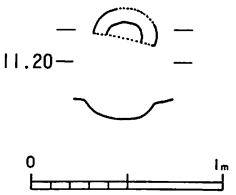


図47　ＳＰ－22　平断面図

図46　ＳＰ－23　出土遺物

ＳＰ－24　調査区の北部、Ｄ－２グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

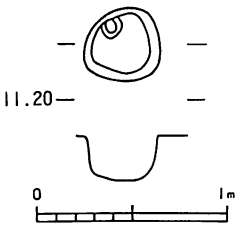


図48　ＳＰ－23　平断面図

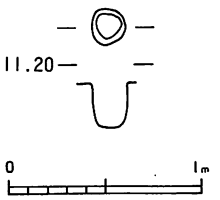


図49　ＳＰ－24　平断面図

ＳＰ－25　調査区の東北部、Ｆ－２グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埴土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

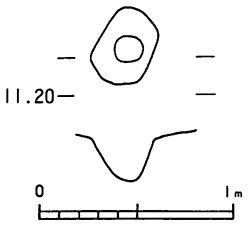


図50　ＳＰ－25　平断面図

ＳＰ－26　調査区の北部、Ｄ－２・Ｄ－３グリッドのⅦ層中で検出された。長径約15cm、短径約10cmの楕円形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

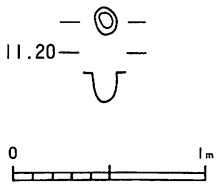


図51　ＳＰ－26　平断面図

ＳＰ－27　調査区の北部、Ｄ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約50cmの円形で、確認面よりの深さは約13cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－28　調査区の北部、Ｄ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約16cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

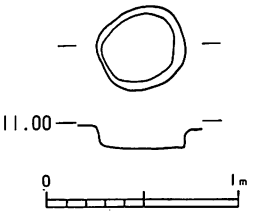


図52　ＳＰ－27　平断面図

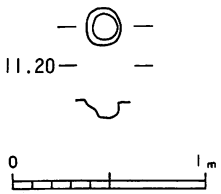


図53　ＳＰ－28　平断面図

ＳＰ－29　調査区の中央部、Ｄ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約13cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

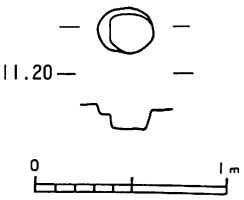


図54　ＳＰ－29　平断面図

ＳＰ－30　調査区の中央部、Ｄ－３グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

ＳＰ－31　調査区の中央部、Ｃ－４グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約18cmである。埴土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

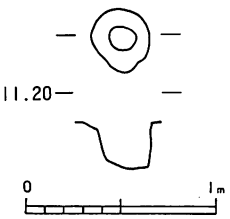


図55　ＳＰ－30　平断面図

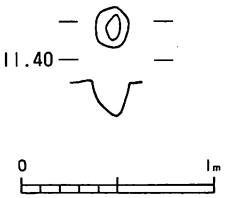


図56　ＳＰ－31　平断面図

ＳＰ－32　調査区の西部、Ｂ－４グリッドのⅦ層中で検出された。直径約21cmの円形で、確認面よりの深さは約21cmである。埋土は二層に分かれ暗褐色土を主体とする。遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

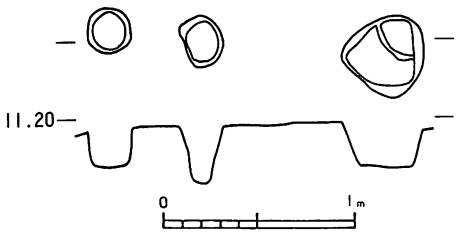


図57　ＳＰ－32・ＳＰ－33・ＳＰ－34　平断面図

ＳＰ－33　調査区の西部、Ｂ－４グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

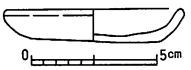


図58　ＳＰ－32　出土遺物

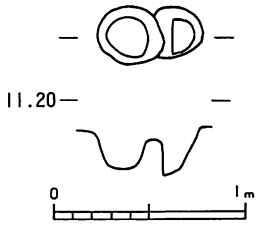


図59　ＳＰ35・ＳＰ36　平断面図

ＳＰ－34　調査区の西部、Ｂ－４グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約34cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

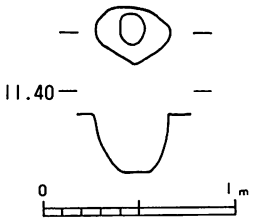


図60　ＳＰ－38　平断面図

ＳＰ－35　調査区の西部、Ｃ－４グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約15cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

ＳＰ－36　調査区の西部、Ｃ－４グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約17cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

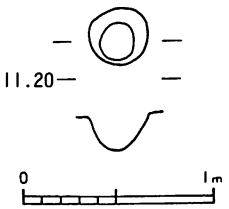


図61　ＳＰ－38　平断面図

ＳＰ－37　調査区の西部、Ｃ－４グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

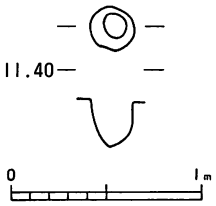


図62　ＳＰ－39　平断面図

ＳＰ－38　調査区の西部、Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約16cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図

示できなかった。

ＳＰ－39　調査区の中央部、Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

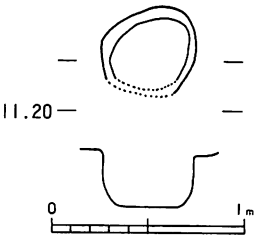


図63　ＳＰ－40　平断面図

ＳＰ－40　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは32cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

ＳＰ－41　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

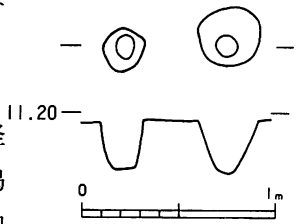


図64　ＳＰ－41・ＳＰ－42
平断面図

ＳＰ－42　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

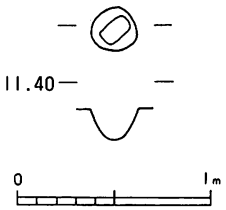


図65　ＳＰ－43　平断面図

ＳＰ－43　調査区の西部、Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約11cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

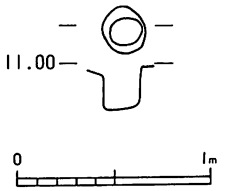


図66　ＳＰ－44　平断面図

ＳＰ－44　調査区の西部、Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約10cmの円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

ＳＰ－45　調査区の西部、Ｂ－５・Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約60cm、短径約50cmの楕円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は一層で

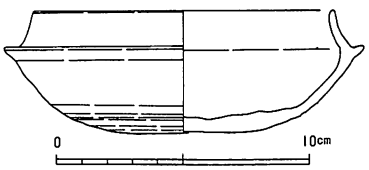


図67　ＳＰ－45　出土遺物

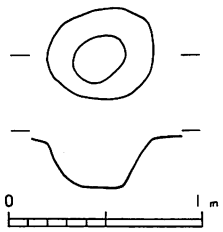


図68　ＳＰ－52　平断面図

暗褐色土である。遺物は図示した須恵器坏身が出土している。

ＳＰ－46　調査区の中央部、Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約19cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

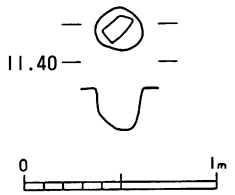


図69　ＳＰ－46　平断面図

ＳＰ－47　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約22cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

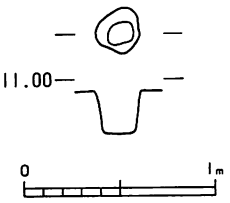


図70　ＳＰ－47　平断面図

ＳＰ－48　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

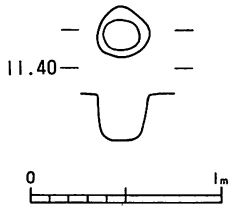


図71　ＳＰ－48　平断面図

ＳＰ－49　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－50　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約31cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

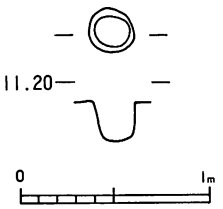


図72　ＳＰ－49　平断面図

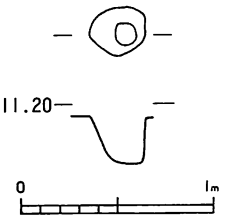


図73　ＳＰ－50　平断面図

ＳＰ－51　調査区の西部、Ｂ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約14cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

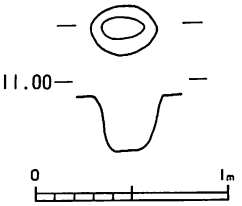


図74　ＳＰ－51　平断面図

ＳＰ－52　調査区の西部、Ｃ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約31cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

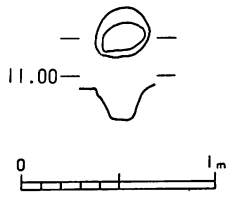


図75　ＳＰ－52　平断面図

ＳＰ－53　調査区の西部、Ｃ－４グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土の一層で暗褐色土である。遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

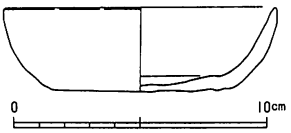


図76　ＳＰ－53　出土遺物

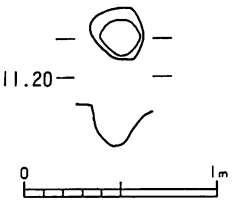


図77　ＳＰ－53　平断面図

ＳＰ－54　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約25cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－55　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。一辺約25cmの方形であったと思われ、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

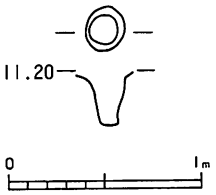


図78　ＳＰ－54　平断面図

ＳＰ－56　調査区の西南部、Ｃ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は三層に分かれ、暗褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

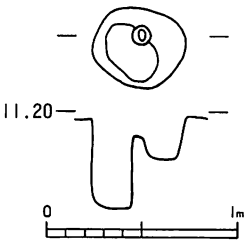


図79　ＳＰ－55　平断面図

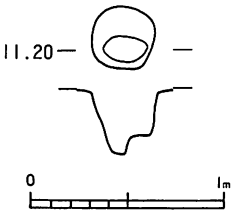


図80　ＳＰ－56　平断面図

ＳＰ－57　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

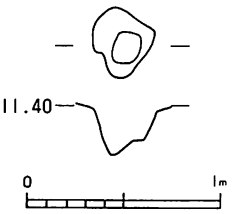


図81　ＳＰ－57　平断面図

ＳＰ－58　調査区の南部、Ｃ－６グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いず

れも細片で図示できなかった。

ＳＰ－59　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。長径約40cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

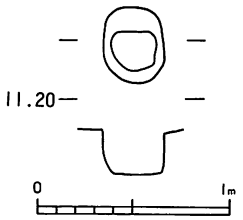


図82　ＳＰ－58　平断面図

ＳＰ－60　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約22cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

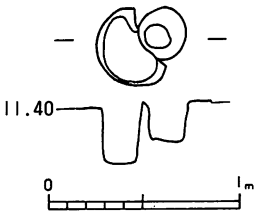


図83　ＳＰ－59・ＳＰ－60
平断面図

ＳＰ－61　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約31cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

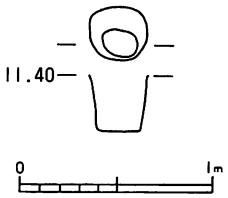


図84　ＳＰ－61　平断面図

ＳＰ－62　調査区の南部、Ｃ－６グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－63　調査区の南部、Ｃ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約50cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

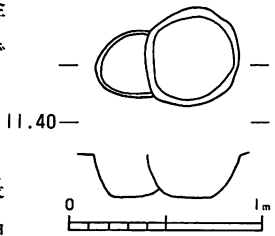


図85　ＳＰ－62　・ＳＰ－63
平断面図

ＳＰ－64　調査区の西南部、Ｂ－６グリッドのⅦ層中で検出された。長径約45cm、短径約35cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。
遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

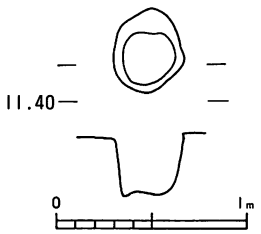


図86　ＳＰ－64　平断面図

ＳＰ－65　調査区の西南部、Ｃ－６グリッドのⅦ層中で検出

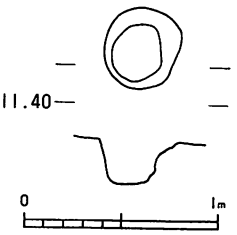


図87　ＳＰ－65　平断面図

された。長径約45cm、短径約40cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

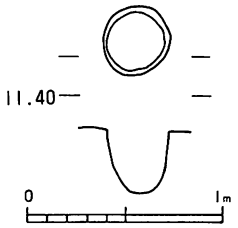


図88　ＳＰ－66　平断面図

ＳＰ－66　調査区の南部、Ｃ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約35cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

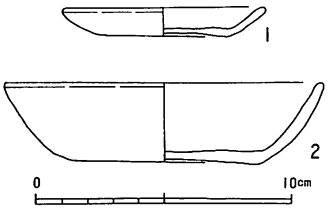


図89　ＳＰ－66　出土遺物

ＳＰ－67　調査区の西南部、Ｂ－６・Ｂ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色主である。遺物は出土していない。

ＳＰ－68　調査区の中央部、Ｄ－４グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約15cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

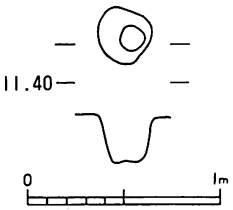


図90　ＳＰ－67　平断面図

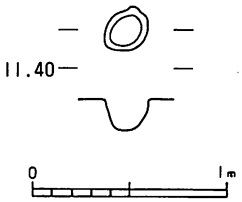


図91　ＳＰ－68　平断面図

ＳＰ－69　調査区の中央部、Ｄ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

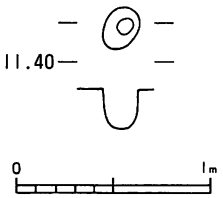


図92　ＳＰ－69　平断面図

ＳＰ－70　調査区の東部、Ｅ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

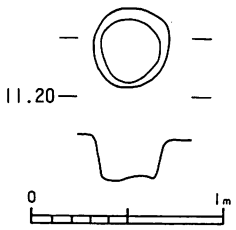


図93　ＳＰ－70　平断面図

ＳＰ－71　調査区の中央部、Ｄ－５グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約27cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

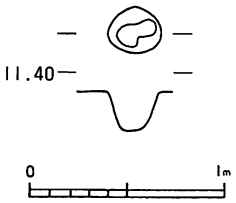


図94　ＳＰ－71　平断面図

ＳＰ－72　調査区の中央部、Ｄ－５グリッドのⅦ層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約35cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

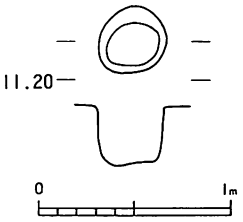


図95　ＳＰ－72　平断面図

ＳＰ－73　調査区の南部、Ｄ－６グリッドのⅦ層中で検出された。長径約50cm、短径約40cmの楕円形で確認面よりの深さは約30cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

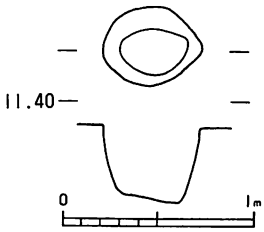


図96　ＳＰ－73　平断面図

ＳＰ－74　調査区の東南部、Ｅ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約28cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

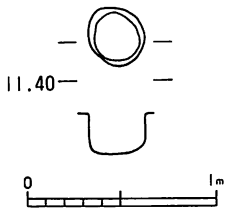


図97　ＳＰ－74　平断面図

ＳＰ－75　調査区の南部、Ｄ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約45cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

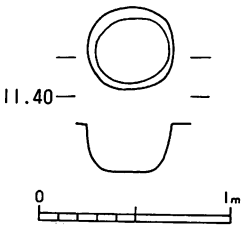


図98　ＳＰ－75　平断面図

ＳＰ－76　調査区の南部、Ｄ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約45cmの円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

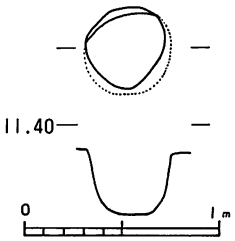


図99　ＳＰ－76　平断面図

ＳＰ－77　調査区の東南部、Ｅ－６グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約48cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

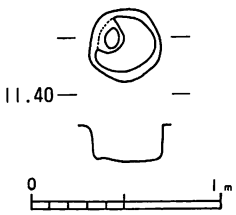


図100　ＳＰ－77　平断面図

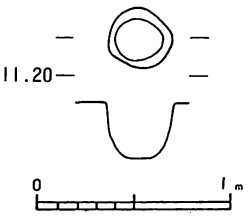


図101　ＳＰ－78　平断面図

ＳＰ－78　調査区の西南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で、確認面よりの深さは約30cmである。埋

土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

ＳＰ－79　調査区の南部、Ｃ－７・Ｄ－７グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約33cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

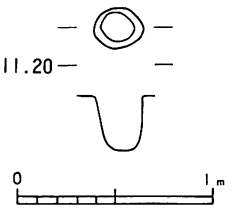


図102　ＳＰ－79　平断面図

ＳＰ－80　調査区の西南部、Ｂ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約33cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

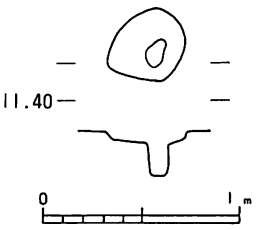


図103　ＳＰ－80　平断面図

ＳＰ－81　調査区の南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約29cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

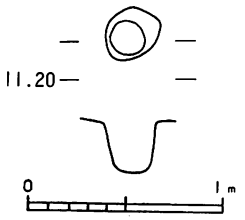


図104　ＳＰ－81　平断面図

ＳＰ－82　調査区の西南部、Ｂ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約９cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

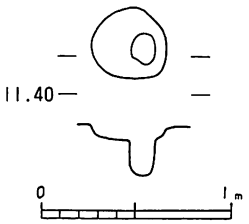


図105　ＳＰ－82　平断面図

ＳＰ－83　調査区の南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約30cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

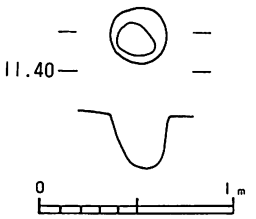


図106　ＳＰ－83　平断面図

ＳＰ－84　調査区の南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約23cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

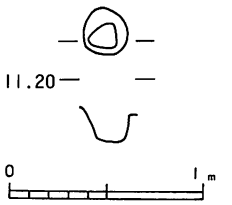


図107　ＳＰ－84　平断面図

ＳＰ－85　調査区の西南部、Ｂ－７グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で確認面よりの深さは約33cmである。埋

土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－86　調査区の西南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約25cmの円形で、確認面よりの深さは約37cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

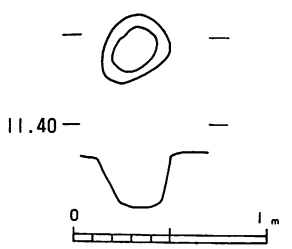


図108　ＳＰ－85　平断面図

ＳＰ－87　調査区の西南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約35cmの円形で、確認面よりの深さは約32cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は出土していない。

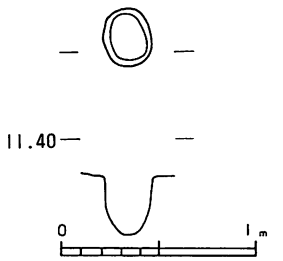


図109　ＳＰ－86　平断面図

ＳＰ－88　調査区の西南部、Ｃ－７グリッドのⅦ層中で検出された。長径約35cm、短径約30cmの楕円形で確認面よりの深さは約37cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

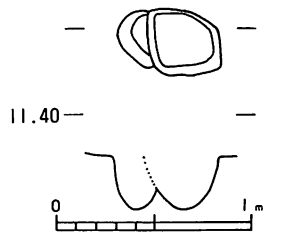


図110　ＳＰ－87・ＳＰ－88
平断面図

ＳＰ－89　調査区の南部、Ｄ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約40cmの円形で、確認面よりの深さは約24cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

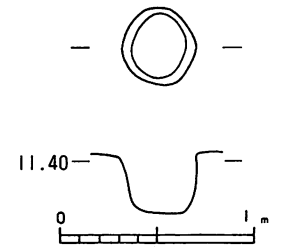


図111　ＳＰ－89　平断面図

ＳＰ－90　調査区の南部、Ｄ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約38cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

ＳＰ－91　調査区の南部、Ｄ－７グリッドのⅦ層中で検出された。長径約30cm、短径約25cmの楕円形で、確認面よりの深さは約18cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

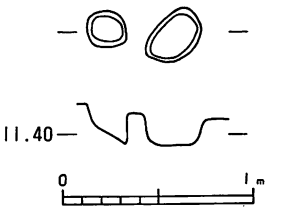


図112　ＳＰ－90・ＳＰ－91
平断面図

ＳＰ－92　調査区の南部、Ｄ－７グリッドのⅦ層中で検出された。直径約20cmの円形で、確認面よりの深さは約38cmである。埋土は一層で暗褐

色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

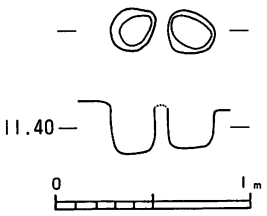


図113　SP－92・SP－93 平断面図

SP－93　調査区の南部、D－7グリッドのⅦ層中で検出された。長径約25cm、短径約20cmの楕円形で、確認面よりの深さは約26cmである。埋土は一層で暗褐色土である。遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも線片で図示できなかった。

(4)　溝

SD－1　調査区の中央部、C－4・5グリッドのⅢ層中で検出された。長さ約2.6m、最大幅約45cmであるが、浅く、遺構精査時に消失した。

SD－2　調査区の北部、C－3、D－3グリッドのⅦ層中で検出された。他の遺構との切り合いはない。長さ約1.9m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約5cmで、N－5°－Eとほぼ南北に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

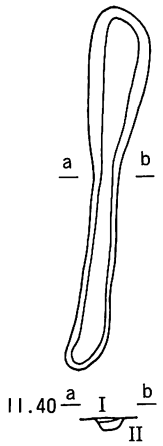


図114　SD－4　平断面図

SD－3　調査区の南西部、B－6・7グリッドのⅦ層上面で検出された。SP－82に切られる。長さ約4.8m、最大幅約160cm、確認面からの深さ約15cmで、N－10°－Eとほぼ南北に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は図示した土器の他、土器片が多数出土している。

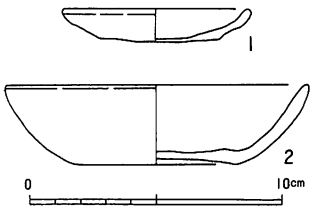


図115　SD－2　平断面図

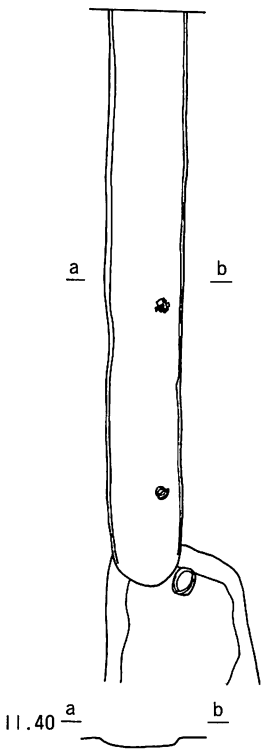


図116　SD－3　出土遺物

SD－4　調査区の北部、C－1・2グリッドのⅦ層中で検出された。SK－5を切る。長さ約3.0m、最大幅約40cm、確認面からの深さ約10cmで、N－2°－Wとほぼ南北に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は出土していない。

ＳＤ－５　調査区の北西部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出された。ＳＰ－９に切られる。長さ約2.0m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約30cmで、Ｎ－83°－Ｅとほぼ東西に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は出土していない。

ＳＤ－６　調査区の北西部、Ｂ－３グリッドのⅦ層中で検出され、西部が調査区外である。他の遺構との切り合い関係はない。長さ約1.0m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約25cmで、Ｎ－65°－Ｅと北東－南西方向に走る埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は図示したものの他、土器片が少量出土している。

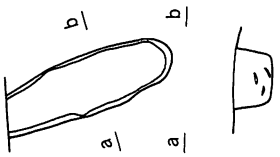


図118　ＳＤ－６　平断面図

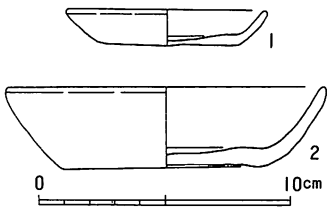


図119　ＳＤ－６　出土遺物

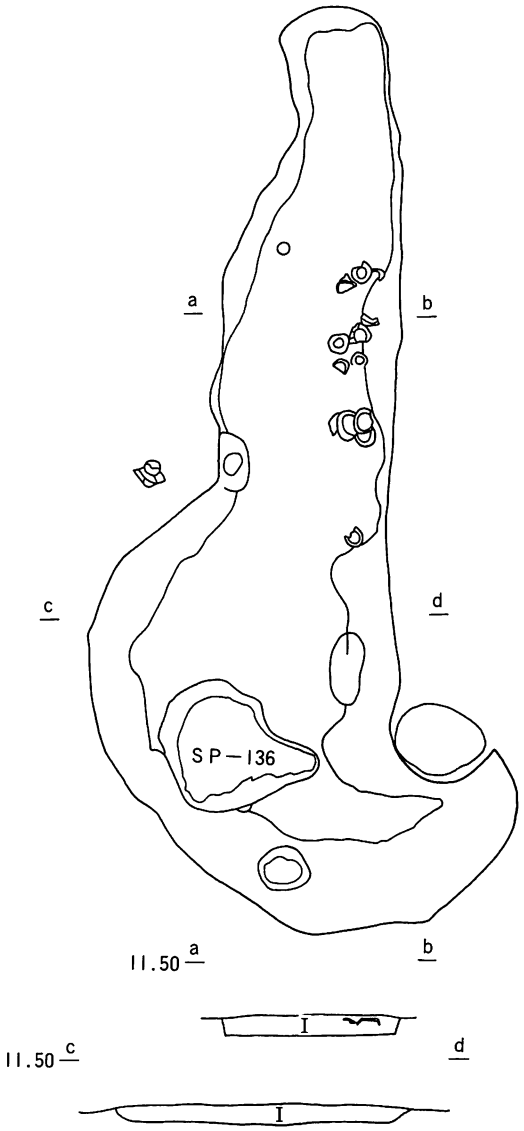


図117　ＳＤ－３　平断面図

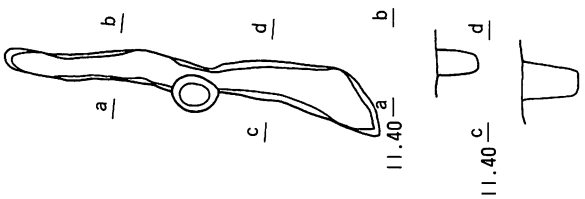


図120　ＳＤ－５　平断面図

ＳＤ－７　調査区の北西部、Ｂ－２、Ｃ－２グリッドのⅦ層中で検出された。ＳＫ－６に切られる。長さ約1.3m、最大幅約30cm、確認面からの深さ約30cmでＮ－83°－Ｗとほぼ東西に走る。埋土は暗褐色土を主体とし、遺物は土器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

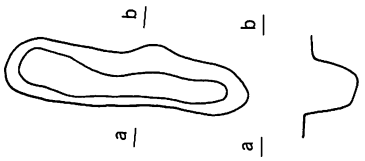


図121　ＳＤ－７　平断面図

表５　SP・SD出土遺物

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
42- 1	ＳＰ－18	8.5	6.0	1.7	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
2	〃	12.1	7.8	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
46	ＳＰ－23	7.1	5.0	1.4	右回転糸切り	〃	〃	
58	ＳＰ－32	7.0	5.1	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
67	ＳＰ－45	11.8	—	4.9	回転ヘラ削り	〃	〃	
76	ＳＰ－53	10.7	7.1	3.3	右回転糸切り	〃	〃	
89- 1	ＳＰ－66	7.8	5.2	1.3	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
2	〃	12.4	6.4	3.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
115- 1	ＳＤ－３	7.4	4.8	1.3	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
2	〃	11.9	6.2	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
119- 1	ＳＤ－６	7.8	5.5	1.4	〃	〃	〃	
2	〃	12.6	8.1	3.2	〃	〃	〃	

(5)　土器集積遺構

１号土器集積遺構

遺構　調査区の北西部、Ｃ－１グリッドのⅢ層上面で、完形の土器の集中により検出された。径約80mの範囲に集中している。耕作土直下で検出されたため、掘り込み等があったかどうかは不明である。

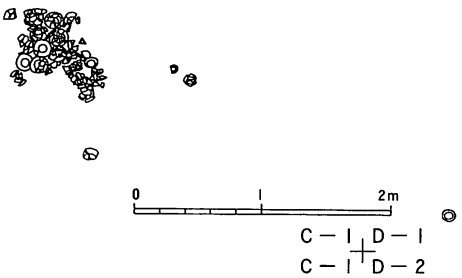


図122　１号土器集積遺構平面図

遺物　図示したものを含め土器約20個体が出土している。

2号土器集積遺構

遺構　調査区の北東部、D－1・2、E－1・2、F－1・2グリッドのⅢ層上面で、多数の土器の出土により検出された。北部は調査区北壁断面にも土器が見られ、隣接する田地中に延びていると思われるが、東部は調査区東壁との境に無遺物区があり、調査区内に納まっている。また、2ライン南側、Fライン西側に設けられた試掘トレンチにより、調査時には3箇所に分かれていたが、元は一つで東西8m、南北5m以上の範囲に分布していたものと思われる。耕作土直下で検出されたため、掘り込み等があったかどうかは不明である。

遺物　図示したものを含め、土器数百個体が出土している。ほとんどが完形品で、割れたものも埋没後の土圧によると思われる。また、完形品であるにもかかわらず底面や体部に亀裂のあるものが多くあった。

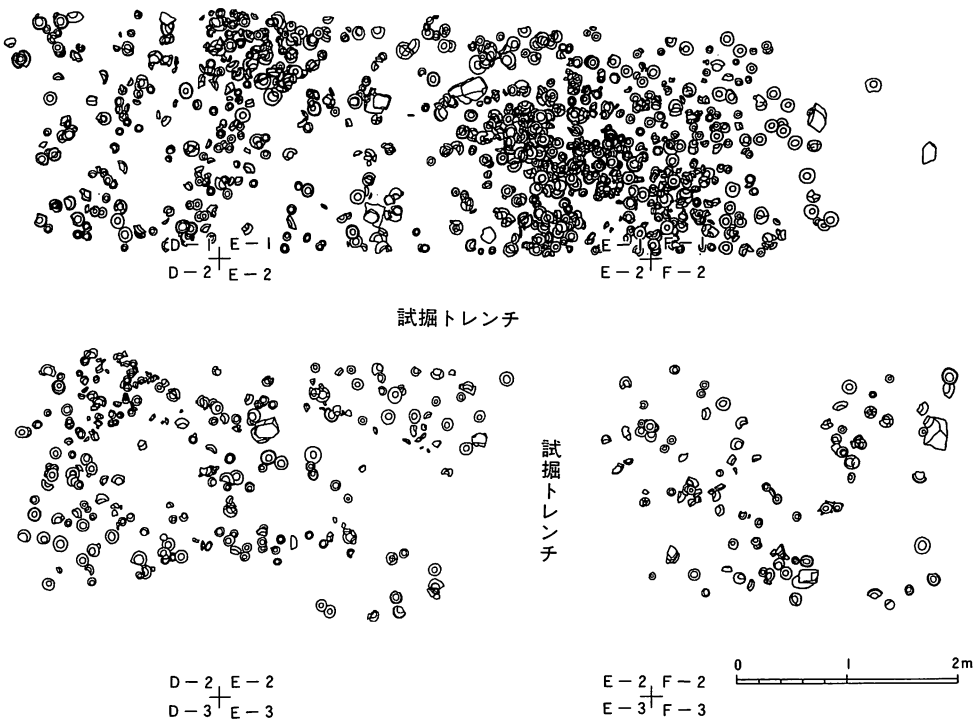


図123　2号土器集積遺構面図

3号土器集積遺構

遺構　調査区の西部、C－5・6グリッドのⅢ層上面で、完形の土器の出土により検出された。南北約5m、東西約2mの範囲に比較的疎らに分布している。耕作土直下で検出されたため、掘り込み等があったかどうかは不明である。

遺物　図示したものを含めて土器約30個体が出土している。土器小皿のなかには、畿内産またはその模倣と思われる底面を糸切りによらないものもあった。

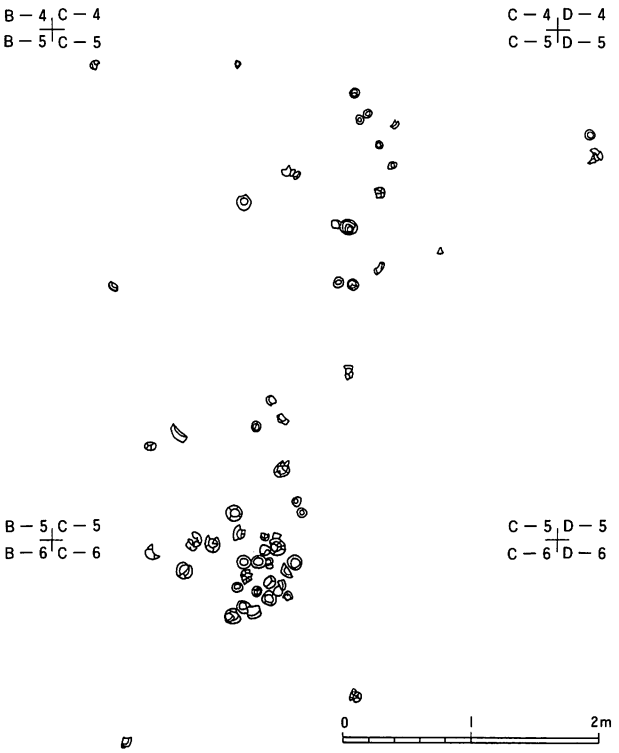


図124　3号土器集積遺構平面図

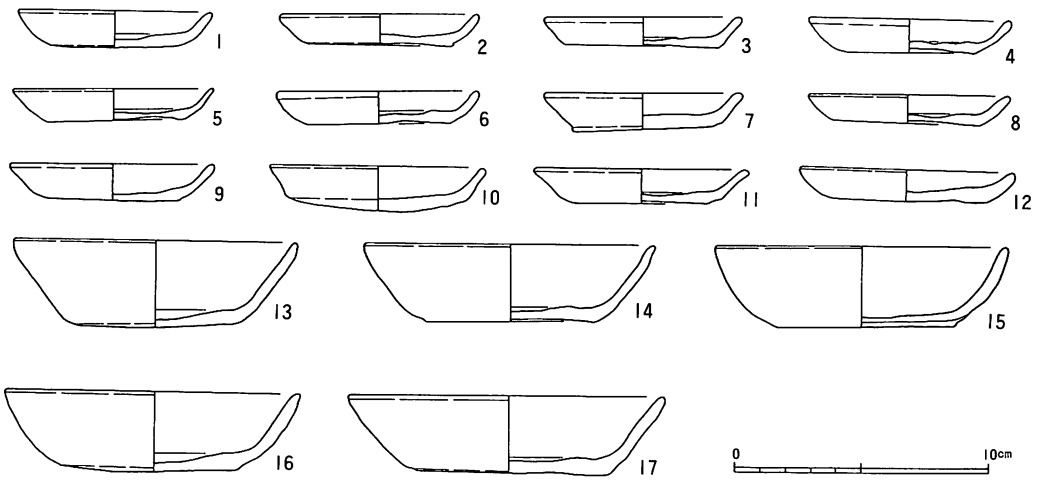


図125　3号土器集積遺構出土土器（C－5）

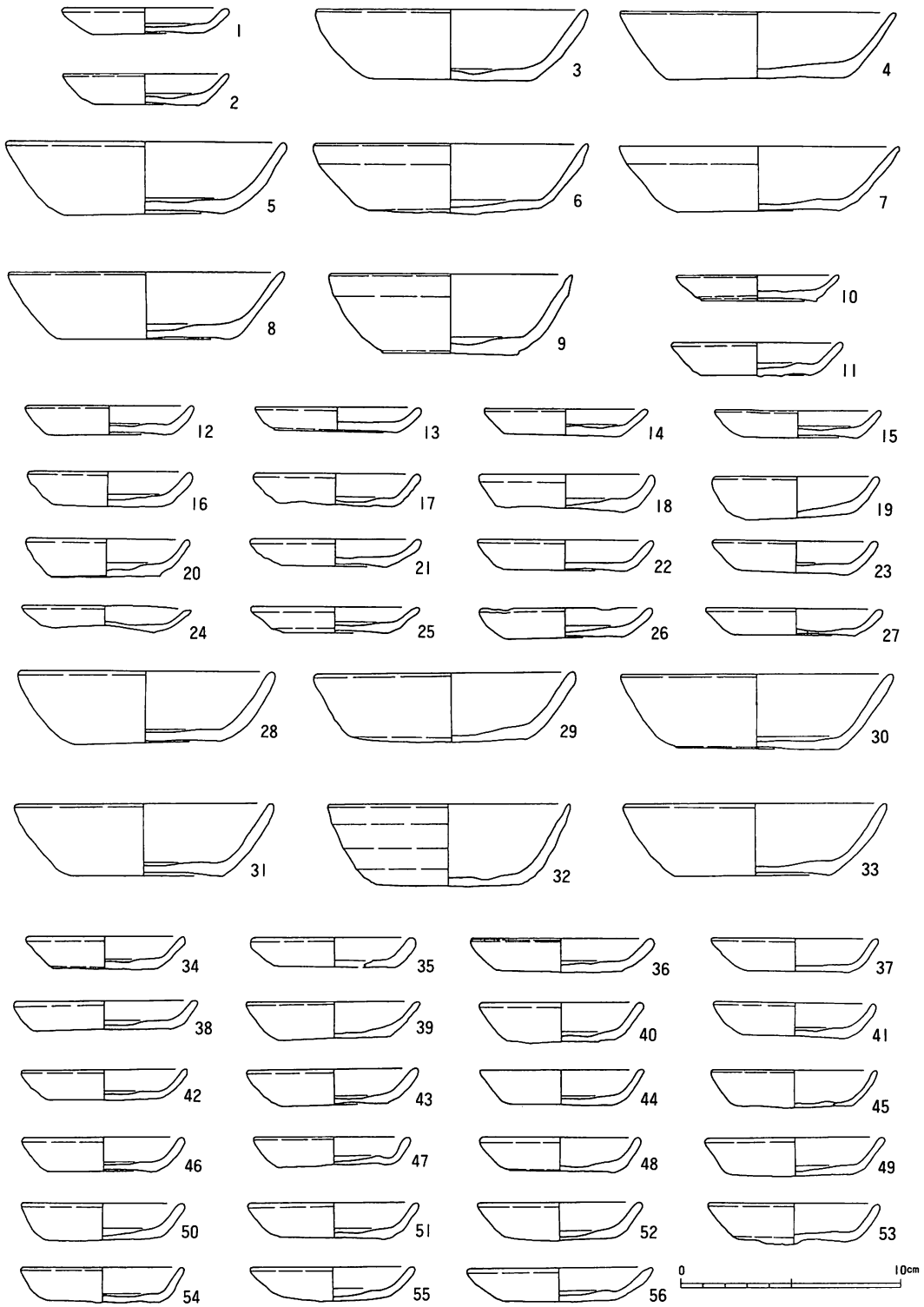


図126　1・2号土器集積遺構出土土器(C－1・C－2・D－1・D－2)
(1～9・1号、10～56・2号)

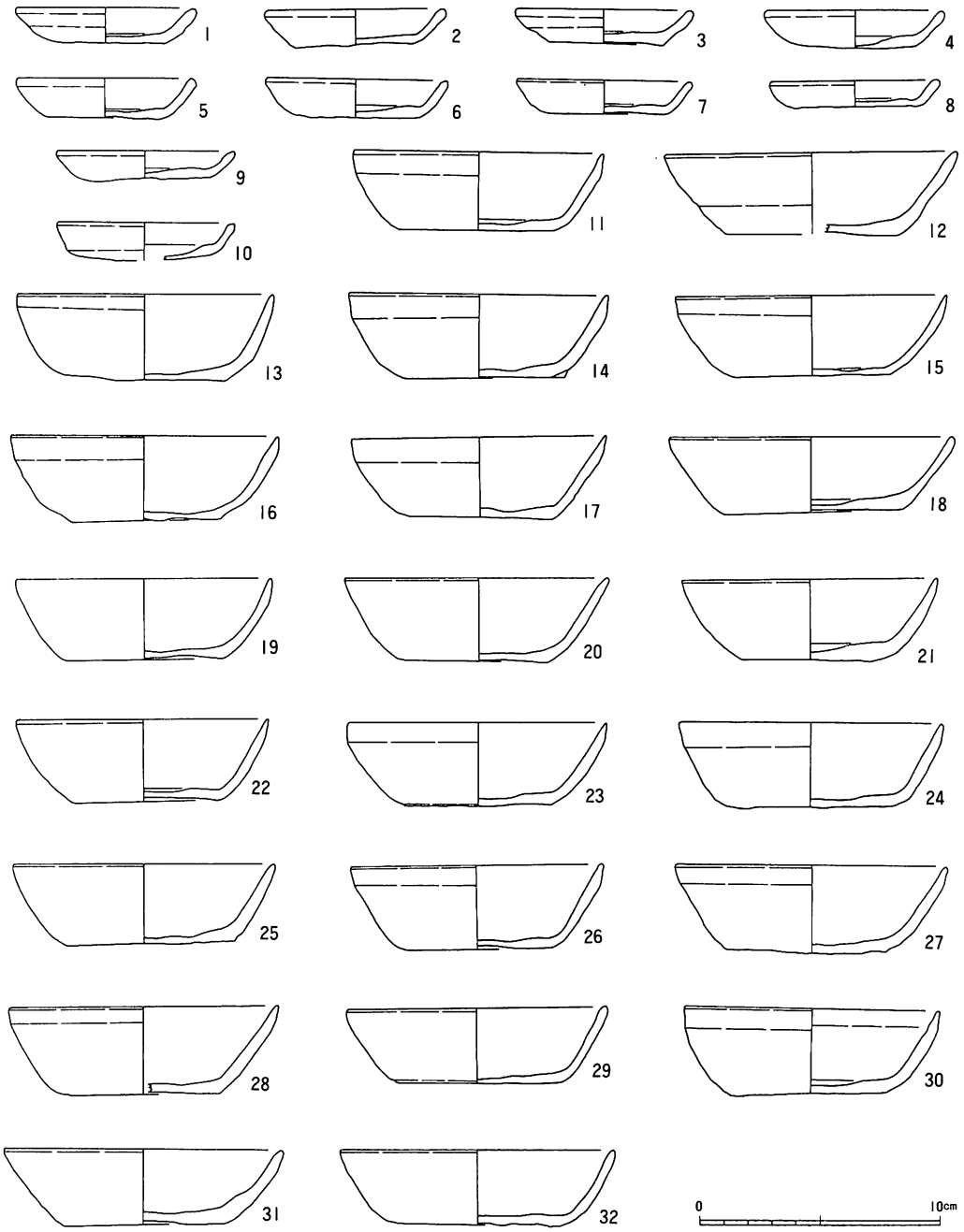


図127　2号土器集積遺構出土土器（D－2）

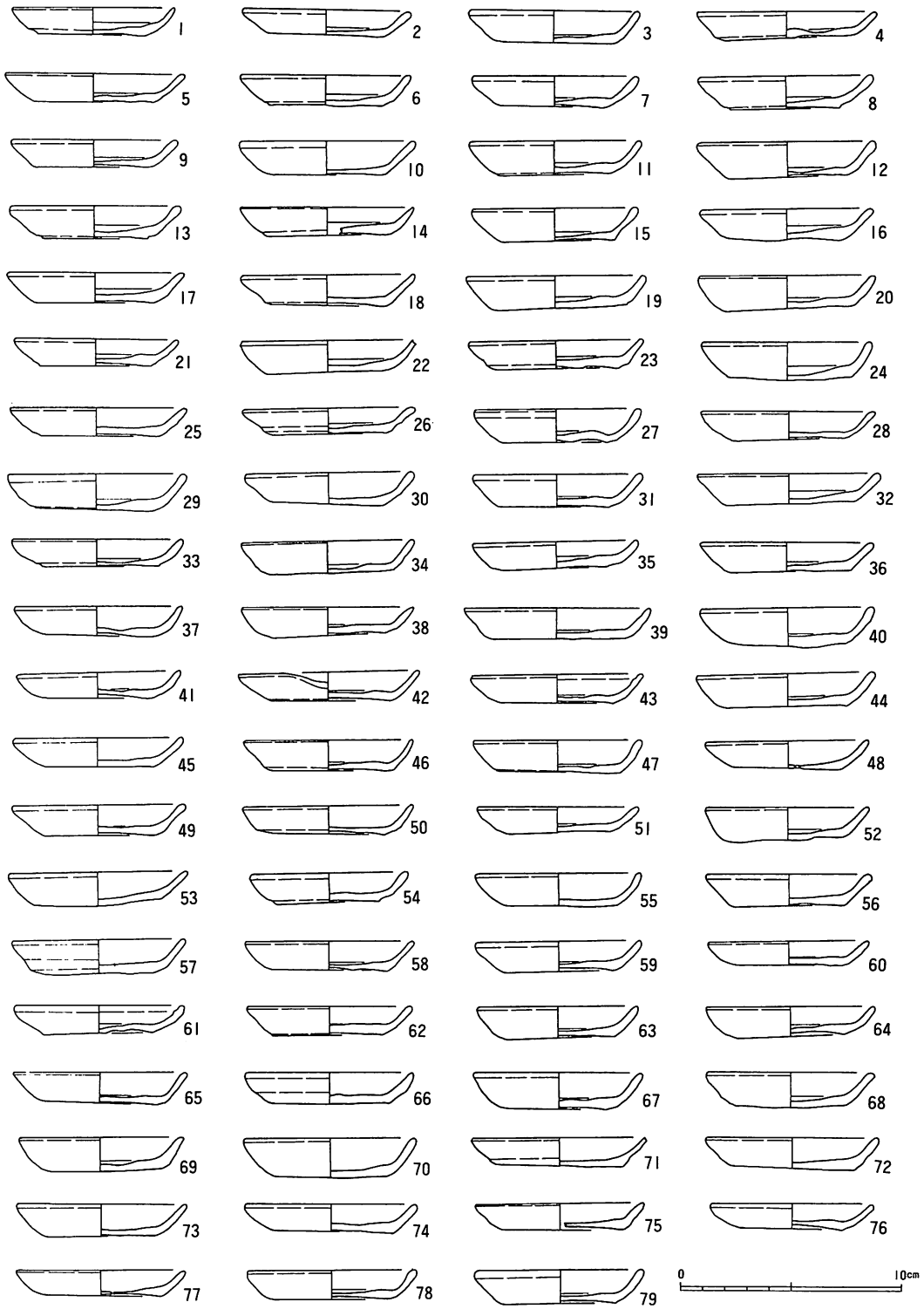


図128　2号土器集積遺構出土土器（E－1）

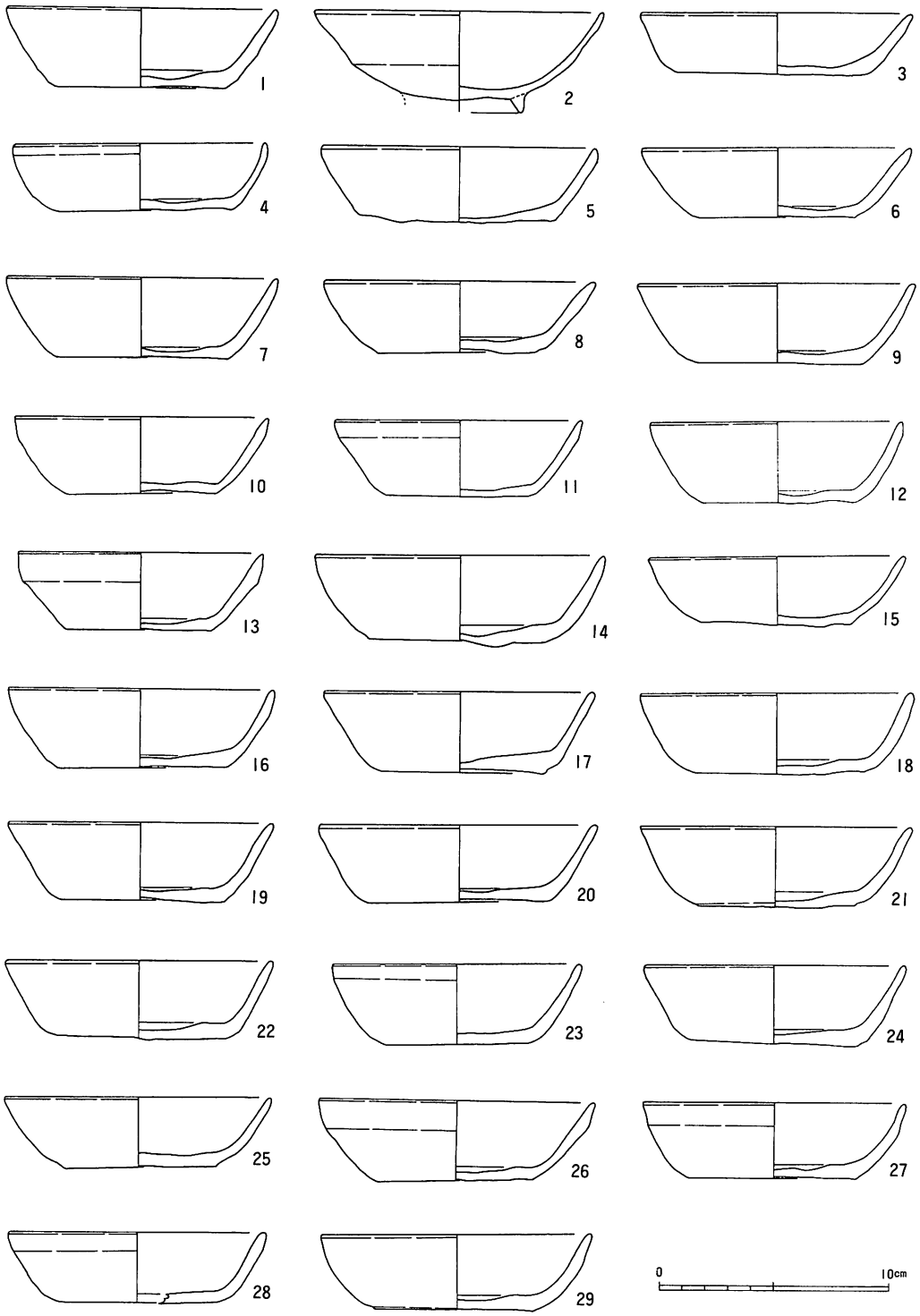


図129　2号土器集積遺出土土器（E－1）

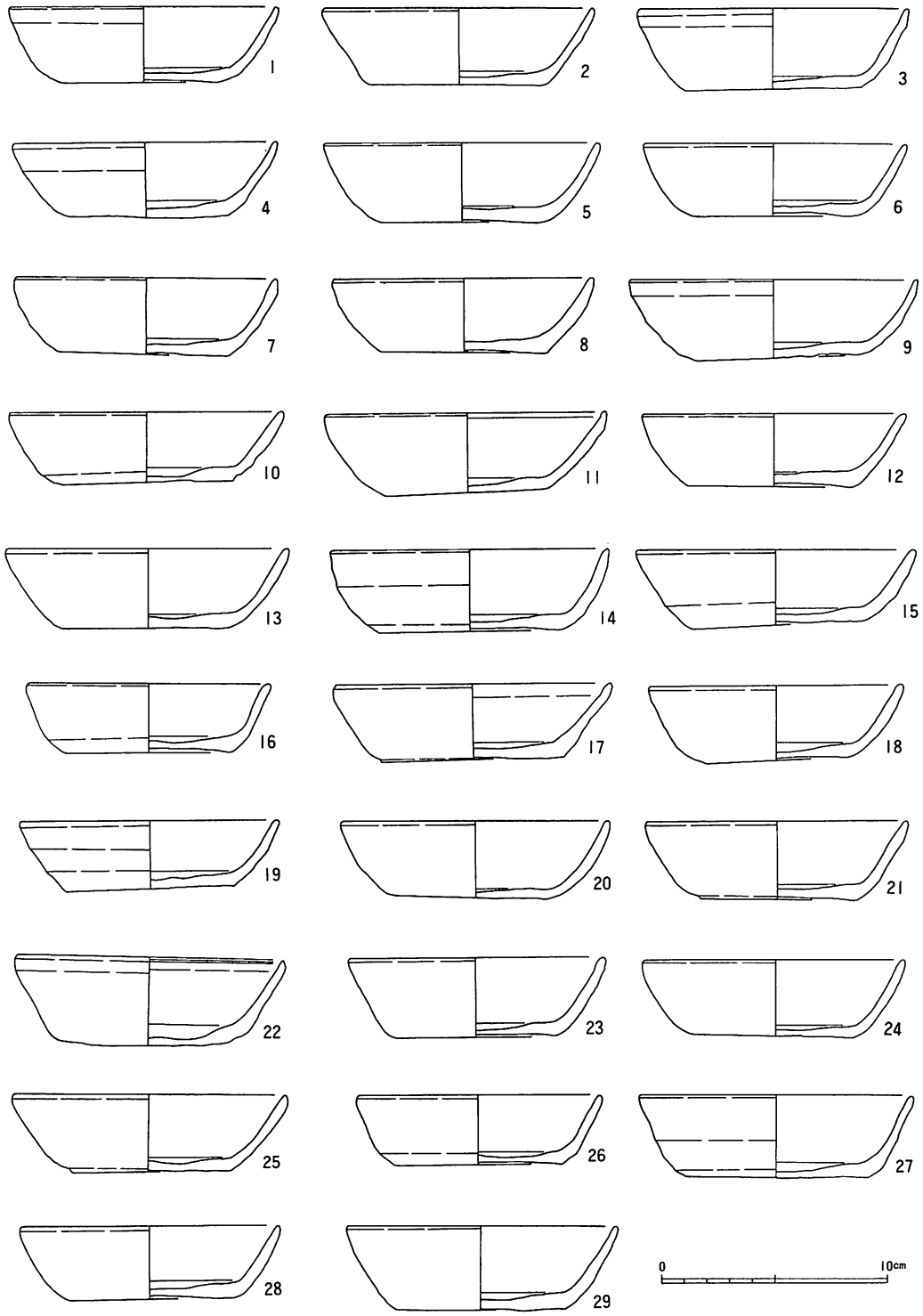


図130　2号土器集積遺構出土土器（E－1）

表6　土器集積遺構出土遺物

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
125- 1	3号土器集積遺構(C－5)	7.4	5.5	1.5	回転糸切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
2	〃	7.6	5.5	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
3	〃	7.7	6.1	1.1	〃	〃	〃	
4	〃	7.8	5.0	1.3	〃	〃	〃	
5	〃	7.8	5.4	1.2	〃	〃	〃	
6	〃	7.8	5.5	1.3	〃	〃	〃	
7	〃	7.8	5.6	1.5	〃	〃	〃	
8	〃	7.8	5.7	1.2	回転糸切り後磨滅	〃	〃	
9	〃	7.9	5.2	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
10	〃	8.3	6.8	1.8	ナ　デ	ナ　デ	ナ　デ	
11	〃	8.4	5.4	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
12	〃	8.4	6.2	1.3	〃	〃	〃	
13	〃	11.1	6.2	3.3	〃	〃	〃	
14	〃	11.4	6.7	3.4	〃	〃	〃	
15	〃	11.4	7.0	3.1	右回転糸切り	〃	〃	
16	〃	11.5	5.8	3.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
17	〃	12.5	7.7	3.3	〃	〃	〃	
126- 1	1号土器集積遺構(C－1)	7.4	4.8	1.2	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
2	〃	7.4	4.8	1.2	〃	〃	〃	
3	〃	12.3	7.2	3.4	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
4	〃	12.4	8.2	3.2	右回転糸切り磨滅	回転ナデ磨滅	回転ナデ磨滅	
5	〃	12.6	7.1	3.2	右回転糸切り	回転ナデ かなり磨滅	回転ナデ かなり磨滅	
6	〃	12.4	7.8	3.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
7	〃	12.7	7.3	3.1	右回転糸切り	〃	〃	
8	〃	12.6	7.8	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
9	〃	(11.1)	6.3	3.6	〃	－	－	
10	2号土器集積遺構(D－1)	7.4	5.2	1.2	〃	回転ナデ	回転ナデ	
11	〃	7.6	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕強	〃	〃	
12	〃	7.6	5.2	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
13	〃	7.4	5.6	1.2	右回転糸切り後すのこ痕と思われるが磨滅	磨滅	磨滅	
14	〃	7.3	5.3	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
15	〃	7.5	5.2	1.3	〃	〃	〃	
16	〃	7.4	5.0	1.6	〃	〃	〃	
17	〃	7.4	5.4	1.5	〃	〃	〃	
18	〃	7.8	5.3	1.7	右回転糸切り後板目	〃	〃	
19	〃	7.4	5.0	2.0	回転糸切り後ナデ	〃	〃	
20	〃	7.4	5.0	1.8	右回転糸切り後板目圧痕	〃	〃	
21	〃	7.6	4.7	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
22	〃	7.8	5.6	1.4	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　　面	外　面	内　面	備　考
126-23	2号土器集積遺構(D－1)	7.4	4.9	1.5	右回転糸切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
24	〃	7.7	4.6	1.2	右回転糸切り	〃	〃	
25	〃	7.6	4.8	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ後下端回転ヘラ削り	〃	
26	〃	7.8	5.4	1.4	右回転糸切り後すのこ	回転ナデ	〃	
27	〃	7.9	5.2	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
28	〃	11.5	6.7	3.4	〃	〃	〃	
29	〃	11.3	8.2	3.2	右回転糸切り後ナデ消される	〃	〃	
30	〃	12.3	7.4	3.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
31	〃	11.7	6.9	3.3	〃	〃	〃	
32	〃	(11.1)	(6.9)	3.7	右回転糸切り後板目	〃	〃	
33	〃	11.7	7.1	3.3	右回転糸切り後すのこ	〃	〃	
34	(D－2)	7.2	4.8	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
35	〃	7.3	5.5	1.4	右回転糸切り後すのこ	〃	〃	
36	〃	8.2	5.8	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
37	〃	7.5	4.7	1.5	〃	〃	〃	
38	〃	8.3	6.3	1.4	〃	〃	〃	
39	〃	7.8	5.2	1.8	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
40	〃	7.3	4.9	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
41	〃	7.2	4.3	1.6	〃	〃	〃	
42	〃	7.5	5,0	1.4	右回転糸切り	〃	〃	
43	〃	7.7	5.0	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
44	〃	7.4	4.7	1.6	〃	〃	〃	
45	〃	7.4	5.2	1.7	右回転糸切り後強めのすのこ痕	〃	〃	
46	〃	7.3	4.8	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
47	〃	7.1	5.3	1.8	一度底を抜いており、中心部すのこ痕、周辺部のみ糸切り痕残る	〃	〃	
48	〃	7.1	4.7	1.7	右回転糸切り	〃	〃	
49	〃	7.9	5.3	1.8	〃	〃	〃	
50	〃	7.4	5.3	1.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
51	〃	7.6	4.8	1.7	右回転糸切り	〃	〃	
52	〃	7.4	5.0	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
53	〃	7.6	5.7	1.9	〃	〃	〃	
54	〃	7.3	5.2	1.6	〃	〃	〃	
55	〃	7.4	4.9	1.6	〃	〃	〃	
56	〃	8.3	5.1	1.5	〃	〃	〃	
127- 1	2号土器集積遺構(D－2)	7.4	4.7	1.5	〃	〃	〃	
2	〃	7.3	5.0	1.6	〃	〃	〃	
3	〃	7.2	4.8	1.6	〃	〃	〃	
4	〃	7.3	5.2	1.6	〃	〃	〃	
5	〃	7.3	4.8	1.7	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
6	〃	7.5	5.2	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
7	〃	7.2	4.8	1.4	右回転糸切り	〃	〃	

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底面	外面	内面	備考
127- 8	2号土器集積遺構(D－2)	7.0	5.5	1.2	右回転糸切り後片側約¾がすのこ痕でへこむ	回転ナデ	回転ナデ	
9	〃	7.3	4.8	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
10	〃	7.4	6.4	1.6	ヘラ削り	〃	〃	
11	〃	10.5	6.5	3.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
12	〃	12.1	7.2	3.5	〃	〃	〃	
13	〃	10.7	6.8	3.7	〃	〃	〃	
14	〃	10.8	6.1	3.4	〃	〃	〃	
15	〃	11.4	6.6	3.4	〃	〃	〃	
16	〃	11.4	5.3	3.7	〃	〃	〃	
17	〃	11.2	6.0	3.5	右回転糸切り後一部磨滅	〃	〃	
18	〃	10.8	7.4	3.3	磨滅	磨滅	〃	
19	〃	11.9	6.6	3.5	右回転糸切り後磨滅	回転ナデ	〃	
20	〃	10.8	6.1	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
21	〃	10.9	5.7	3.5	〃	〃	〃	
22	〃	10.6	6.1	3.5	〃	〃	〃	
23	〃	10.9	6.2	3.5	〃	〃	回転ナデ後ヘラミガキ	
24	〃	10.9	7.9	3.6	〃	〃	回転ナデ	
25	〃	11.0	6.1	3.5	〃	〃	〃	
26	〃	10.6	6.1	3.5	〃	〃	〃	
27	〃	11.2	6.7	3.7	〃	〃	〃	
28	〃	11.2	6.2	3.8	〃	〃	〃	
29	〃	10.9	6.9	3.2	〃	〃	回転ナデ後ヘラミガキ	
30	〃	10.6	6.5	3.8	〃	〃	回転ナデ	
31	〃	11.6	6.7	3.3	〃	〃	〃	
32	〃	11.5	6.7	3.2	〃	〃	〃	
128- 1	2号土器集積遺構(E－1)	7.3	5.0	1.3	〃	〃	〃	
2	〃	7.5	5.3	1.3	〃	〃	〃	
3	〃	7.6	5.5	1.5	〃	〃	〃	
4	〃	8.0	5.9	1.3	〃	〃	〃	
5	〃	7.1	5.3	1.3	〃	〃	〃	
6	〃	7.7	5.3	1.4	〃	〃	〃	
7	〃	7.4	4.8	1.4	〃	〃	〃	
8	〃	7.7	5.0	1.5	〃	〃	〃	
9	〃	7.5	5.4	1.3	〃	〃	〃	
10	〃	7.9	5.2	1.5	右回転糸切り後すのこ痕がかなりナデ消される	〃	〃	
11	〃	7.6	5.1	1.5	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
12	〃	7.8	5.4	1.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
13	〃	7.7	4.8	1.6	〃	〃	〃	
14	〃	7.9	5.4	1.3	右回転糸切り	〃	〃	
15	〃	7.4	5.1	1.5	回転糸切り後すのこ痕で抹消	〃	〃	
16	〃	7.6	5.2	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底面	外面	内面	備考
128-17	2号土器集積遺構(E－1)	8.0	5.4	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
18	〃	7.8	5.3	1.5	〃	〃	〃	
19	〃	8.0	5.3	1.6	〃	〃	〃	
20	〃	7.8	5.5	1.6	〃	〃	〃	
21	〃	7.4	5.1	1.3	右回転糸切り	〃	〃	
22	〃	7.8	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
23	〃	7.8	5.5	1.3	〃	回転ナデ下端回転ヘラ削り	〃	
24	〃	7.6	5.5	1.7	〃	回転ナデ	〃	
25	〃	7.9	5.5	1.3	〃	〃	〃	
26	〃	7.6	5.2	1.2	〃	回転ナデ下端回転ヘラ削り	〃	
27	〃	7.5	4.7	1.5	〃	回転ナデ	〃	
28	〃	7.8	5.2	1.3	〃	〃	〃	
29	〃	8.0	5.6	1.7	右回転糸制り後薄く粘土付着	〃	〃	
30	〃	7.6	5.1	1.6	右回転糸切り後木目圧痕	〃	〃	
31	〃	7.7	5.0	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
32	〃	8.2	6.0	1.5	〃	〃	〃	
33	〃	7.7	5.3	1.3	〃	〃	〃	
34	〃	7.8	7.2	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
35	〃	7.4	4.8	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
36	〃	7.7	5.5	1.4	〃	〃	〃	
37	〃	7.6	5.2	1.4	〃	〃	〃	
38	〃	7.8	5.1	1.4	〃	〃	〃	
39	〃	8.4	5.9	1.4	〃	〃	〃	
40	〃	7.8	5.3	1.8	〃	〃	〃	
41	〃	7.4	4.5	1.2	右回転糸切り	〃	〃	
42	〃	8.2	5.2	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
43	〃	7.7	5.1	1.3	右回転糸切り	〃	〃	
44	〃	8.0	5.3	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
45	〃	7.6	5.0	1.3	〃	〃	〃	
46	〃	7.6	5.0	1.4	右回転糸切り後回転ナデ	〃	〃	
47	〃	7.6	5.6	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
48	〃	7.3	5.0	1.3	〃	〃	〃	
49	〃	7.8	5.2	1.4	〃	〃	〃	
50	〃	7.7	5.1	1.3	〃	〃	〃	
51	〃	7.3	4.6	1.2	磨滅	〃	〃	
52	〃	7.4	5.0	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
53	〃	8.0	5.8	1.5	〃	〃	〃	
54	〃	7.1	4.7	1.4	右回転糸切り	〃	〃	
55	〃	7.4	5.0	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
56	〃	7.4	5.1	1.5	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
57	〃	7.8	6.2	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
128-58	2号土器集積遺構(E－1)	7.6	5.3	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
59	〃	7.4	5.0	1.4	右回転糸切り	〃	〃	
60	〃	7.2	4.8	1.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
61	〃	7.6	5.0	1.4	右回転糸切り後強めのすのこ痕	〃	〃	
62	〃	7.5	5.0	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
63	〃	7.2	4.9	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
64	〃	7.5	4.8	1.4	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
65	〃	7.8	5.0	1.5	〃	〃	〃	
66	〃	7.6	5.3	1.4	〃	〃	〃	
67	〃	7.5	4.5	1.6	〃	〃	〃	
68	〃	7.4	5.0	1.6	右回転糸切り後磨消	〃	〃	
69	〃	7.4	5.2	1.6	右回転糸切り後すのこ痕一部2度切り	〃	〃	
70	〃	7.7	5.0	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
71	〃	7.8	5.8	1.3	〃	〃	〃	
72	〃	7.6	5.6	1.5	〃	〃	〃	
73	〃	7.6	5.0	1.5	〃	〃	〃	
74	〃	7.8	5.5	1.3	〃	〃	〃	
75	〃	7.3	5.4	1.2	〃	〃	〃	
76	〃	7.2	4.5	1.2	右回転糸切り	〃	〃	
77	〃	7.7	5.2	1.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
78	〃	7.6	5.2	1.4	右回転糸切り後磨滅	〃	〃	
79	〃	7.5	5.2	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
129- 1	〃	11.8	7.5	3.5	〃	〃	〃	
2	〃	11.6	(4.9)	4.4	手持ちヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 手持ちヘラ削り	ヘラミガキ	
3	〃	11.8	8.2	2.7	磨　滅	磨　滅	磨　滅	
4	〃	11.1	7.4	3.0	右回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
5	〃	12.0	8.7	3.4	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
6	〃	11.7	6.8	3.1	〃	〃	〃	
7	〃	11.9	7.5	3.5	〃	〃	〃	
8	〃	12.8	7.0	3.2	〃	〃	〃	
9	〃	11.0	7.2	3.5	〃	〃	〃	
10	〃	10.2	6.4	3.5	右回転糸切り後一部磨消	〃	〃	
11	〃	11.8	6.3	3.4	〃	〃	〃	
12	〃	10.0	6.8	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
13	〃	10.8	6.2	3.4	〃	〃	〃	
14	〃	12.8	7.8	4.0	〃	〃	〃	
15	〃	11.1	6.5	3.1	〃	〃	〃	
16	〃	11.7	7.4	3.6	〃	〃	〃	
17	〃	11.9	7.4	3.7	右回転糸切り	〃	〃	
18	〃	11.8	7.3	3.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
19	〃	11.6	7.2	3.5	〃	〃	〃	

図版番号	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
129-20	2号土器集積遺構(E－1)	12.2	8.0	3.4	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
21	〃	11.8	6.9	3.5	〃	〃	〃	
22	〃	11.8	7.5	3.5	〃	〃	〃	
23	〃	10.9	6.3	3.6	〃	〃	〃	
24	〃	11.3	7.3	3.6	すのこ痕にて磨消	〃	〃	
25	〃	11.7	6.6	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
26	〃	12.1	6.9	3.7	右回転糸切り後細かめのすのこ痕	〃	〃	
27	〃	11.4	7.3	3.4	右回転糸切り	〃	〃	
28	〃	11.2	6.2	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
29	〃	11.8	7.0	3.4	〃	〃	〃	
130- 1	〃	11.7	7.0	3.4	〃	〃	ヘラミガキ	
2	〃	11.9	7.6	3.4	〃	〃	回転ナデ	
3	〃	11.8	7.6	3.6	〃	〃	〃	
4	〃	11.8	7.2	3.4	〃	〃	〃	
5	〃	12.2	7.3	3.6	〃	〃	〃	
6	〃	11.4	6.9	3.3	右回転中心糸切り	〃	〃	
7	〃	11.7	7.7	3.4	右回転糸切り後磨消気味	〃	〃	
8	〃	11.6	7.4	3.3	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
9	〃	12.7	7.1	3.6	〃	〃	〃	
10	〃	12.2	7.7	3.3	右回転糸切り後すのこ痕を磨消	〃	〃	
11	〃	12.6	7.3	3.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
12	〃	11.6	7.5	3.3	〃	〃	〃	
13	〃	12.5	7.3	3.5	右回転糸切り	〃	〃	
14	〃	12.4	8.1	3.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
15	〃	12.3	7.6	3.5	右回転糸切り後すのこ痕を磨消	〃	〃	
16	〃	10.7	7.4	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
17	〃	12.3	8.3	3.5	〃	〃	〃	
18	〃	11.2	6.4	3.5	〃	〃	〃	
19	〃	11.5	7.5	3.1	〃	3段の回転ナデ	〃	
20	〃	11.9	6.8	3.5	右回転糸切り後磨消	回転ナデ	〃	
21	〃	11.6	7.0	3.5	〃	〃	〃	
22	〃	12.0	7.5	3.9	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
23	〃	11.4	7.2	3.5	〃	〃	〃	
24	〃	11.5	7.1	3.5	〃	〃	〃	
25	〃	12.3	7.2	3.6	右回転糸切り	回転ナデ下端回転ヘラ削り	〃	
26	〃	10.8	7.5	3.2	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
27	〃	12.0	8.0	3.8	〃	回転ナデ後下半回転ヘラ削り	回転ナデ後底部右回りカキ目	
28	〃	11.6	7.5	3.3	左回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	
29	〃	12.0	7.5	3.8	右回転糸切り後すのこ痕	〃	ナ　デ	

(6) 遺構外出土遺物

本遺跡では遺構外からもテン箱約50個分の土器が出土しているが、ほとんどが細片で図示できなかった。ここでは、そのうちで比較的残りのよい土器及び、遺構からの出土が稀であるか、または全くない高台付埦、瓦器埦、東播系須恵器鉢、管状土錘を取り挙げた。この他に図示はしなかったが、各所から鉄釘計約20本が出土している。

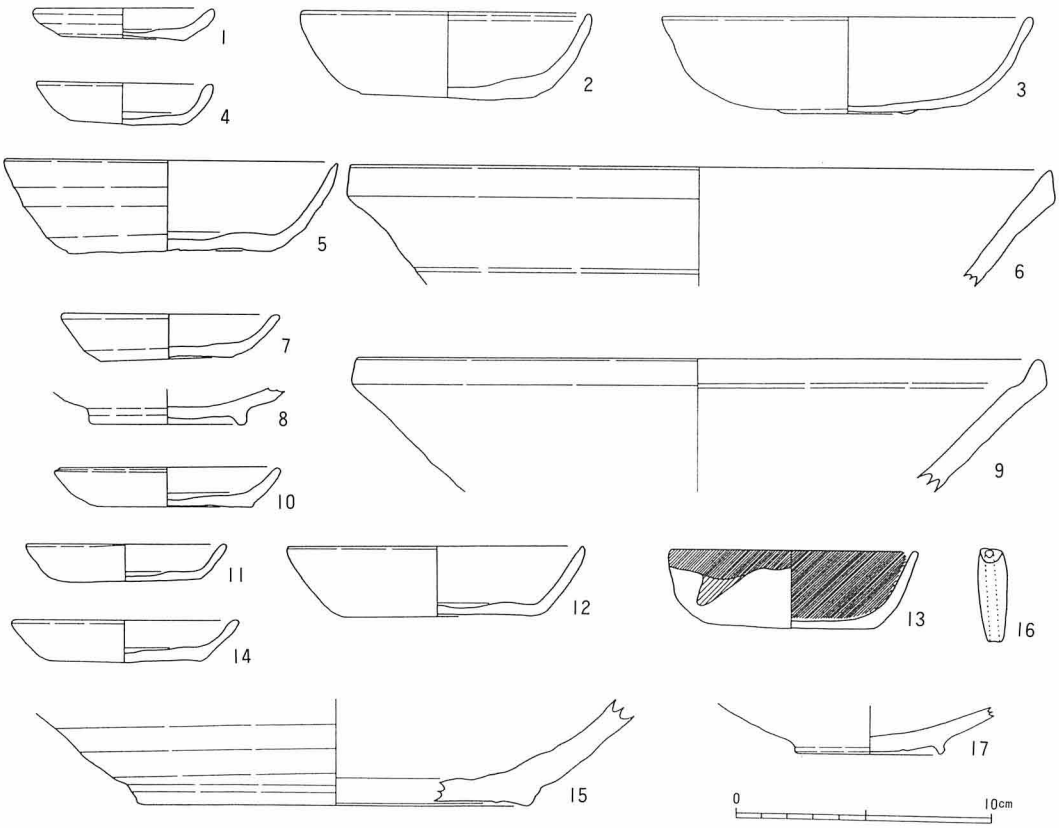


図131　遺構外出土遺物

表 7　遺構外出土遺物

図版番号	出土グリッド	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
131- 1	B－1	7.1	4.8	1.3	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
2	B－1	11.4	6.9	3.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
3	B－5	(14.4)	(4.8)	3.9	指頭押え	指頭押え	構ナデ	
4	C－4	6.9	4.3	1.7	右回転糸切り後磨滅	回転ナデ	回転ナデ	
5	C－7	12.9	7.9	3.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
6	B－5	(27.5)	——	現高 4.7	——	〃	〃	
7	D－3	8.4	5.2	1.9	回転糸切り後すのこ痕が磨滅	回転ナデと思われるが磨滅	回転ナデと思われるが磨滅	

8	D－3	——	6.0	現高 1.4	右回転糸切り	回転ナデ 下端 回転ヘラ削り	回転ナデ	
9	D－5	26.8	——	現高 5.3	——	回転ナデ	〃	
10	D－6	8.6	6.0	1.6	回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
11	E－1	7.8	7.2	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
12	E－1	11.6	7.6	2.9	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
13	E－2	9.5	6.5	3.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
14	E－6	8.8	6.1	1.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
15	F－2	——	(15.2)	現高 4.2	右回転糸切り	〃	〃	
16	北壁	現長 3.8	最大径 1.2	孔径 0.4	——	——	——	
17	中央トレンチ	——	高台径 5.6	現高 1.9	回転ヘラ削り	〃	〃	

第七章　考　　察

以上のように本遺跡は大量の土器（かわらけ）の出土によって特徴づけられる遺跡である。愛媛県では古代から中世の土器の報告は散見されるものの注目されることは少なく、[1] 僅かに中野良一氏、宮本一夫氏によって編年が試みられているのみである。[2] ここでは先ず、これらの先学の研究を振り返りつつ、本遺跡の土器の位置づけを考えてみたい。

中野氏は大量の中世遺物が出土した松山市の古照遺跡、今治市の中寺遺跡、古代末の良好な資料が出土した松山市の石井幼稚園遺跡の３遺跡の出土土器の編年を、共伴する搬入土器を手掛かりとして試みている。そのうちで土師器椀は10世紀代まで内面黒色処理されるが、11世紀代になるとその他に内外面黒色処理を施すものや、黒色処理を施さないロクロ成形のものや非ロクロ成形のものが出現し、12世紀代には高台が退化して、13世紀代には全く見られなくなるとしている。また土師器坏、皿はロクロ成形し底部回転ヘラ切りのものが、11世紀後半以後底部が回転糸切りのものに転換していくと推定されている。

一方、宮本氏は、自ら調査した鷹子・樽味の両遺跡の出土土器に中野氏の呈示した資料を加えて、道後平野における13～15世紀の土器を、古照遺跡ＳＥＯＩ、鷹子遺跡ＳＤ１・ＳＤ９、樽味遺跡ＳＤ１・ＳＤ２、樽味遺跡ＳＤ３・ＳＫ１の各遺構出土土器を示標とする４段階に編年し、底部が回転糸切りになった後の土師器坏・皿の口径が次第に縮少し、体部の立ち上がりが急になることを指摘している。

本遺跡の出土土器はその99％を口径12cm前後の坏形土器と口径8cm前後の皿形土器で占められ、搬入品の可能性のある一部の丸底のものを除いてすべて底面を回転糸切りするものである。これを中野氏の編年に当てはめれば11世紀終末以後となり、更に体部の丸みや立ち上がりの角度を宮本氏の編年表と比較すれば、13世紀前半とした古照遺跡ＳＥＯ１段階以前のものとなる。しかしながら古照遺跡ＳＥＯ１出土の坏は口径14cm程度、皿は口径９cm程度と本遺跡出土のものより大きく、直接に対比できるものではない。

ここで、本遺跡で出土した数少ない搬入遺物を見てみたい。瓦器椀は和泉型のものが少量出土しているが、遺構に伴わず、また細片が多いため本遺跡出土の土器の年代を示唆する程度に止まるものであるが、尾上氏の分類ではⅢ－３類からⅥ－１類に当たり、十三世紀後半から十四世紀初頭に置かれている。[3] ＳＫ－６、ＳＫ－７で出土している底部が指頭押えによる丸底で口縁部が横ナデにより外反する坏は鋤柄俊夫氏によって坏Ａの４類に分類され、平行する黒色土器では３類から５類の時期に当たるが、この下限年代が11世紀初頭と推定されている。[4] しかし、伴出する土師器皿は僅かに底径が大きい他はＳＫ－１出土のものと大差がなく、ＳＫ－１で伴出する片口鉢は図示はできなかったが、口縁部が直線的な森田稔氏の分類で第Ⅷ期第２段階のものである。[5] 森田氏はこの段階を12世紀末葉～13世紀前半と推定しており、これは先の中野氏の年代観とはよく一致するが、鋤柄氏の年代観とは200年もの開きがある。本遺跡出土の畿内系と思われる土器が畿内産であれ、在地産であれ伝播に年単位の時間がかかるとは考えられず、このような土器が10世紀～11世紀初頭の短い時間幅で押さえられるものか検討が必要であろう。

以上、直接対比できる資料が少なく、年代を推定できる資料に乏しいが、特にＳＫ－１出土の片口鉢の年代観から12世紀末～13世紀前半のものと推定される。しかし、これらの土器の法量を遺構毎に見ると坏の口径で10.4cm（ＳＫ－４）～12.6cm（ＳＤ－６）皿の口径で7.0cm（ＳＰ－32）～8.5cm（ＳＰ－18）と差が見られ、個体差の可能性もあるものの、年代差に起因するものかもしれない。在地の土器の編年をしっかり組み立てたうえで他地域との平行関係を考える必要があると思われるが後稿を期したい。

それではこのような本遺跡はどのような性格を持つのであろうか。まず目につくのは圧倒的な土器（かわらけ）の多さである。土器の個体数が、復元できたもので千個体近く、復元できないものを含めれば数千個体になると思われるのに対して、中世陶器の東播系片口鉢が底部で３個体分、瓦器椀が同５個体分、輸入陶器椀器は細片が少量出土したに過ぎない。これと共に気がつくのが、完形であるにもかかわらず、底部に亀裂を持ち、容器として用をなさない個体の多さである（写真図版参照）。土器の流通機構は不明であるが、仮に須恵器のような選別出荷が行われていたとすると、流通には乗らないものと思われる。更に、膨大な土器の出土量にもかかわらず、灯芯油痕や汚損などの明瞭な使用痕が見られるものが、ＳＫ－６出土の皿と包含層出土の坏の各１個体しかないことも特徴的である。以上の点からは、本遺跡が生産遺跡で恐らくは集積地であったことが考えられる。特にＳＫ－１は上層から東播系こね鉢の破片、土師器堝の破片が出土しているが、これを壊滅後の廃棄と見れば、土器焼成のための平窯であったと考えることもできる。粘土溜と考えられるＳＫ－６の存在などもあり、ＳＫ－１が窯でなくても生産遺跡である可能性が非常に言いと思われるが何如であろうか。先学諸兄の御批判を待ちたい。

最後に、これまでに松山市立埋蔵文化財センターが所蔵する古代末～中世の土器のうちで管見に触れたものを掲げておく。今後法量による時期区分の可能性を探れるよう観察表も付載するので合わせて御活用願いたい。

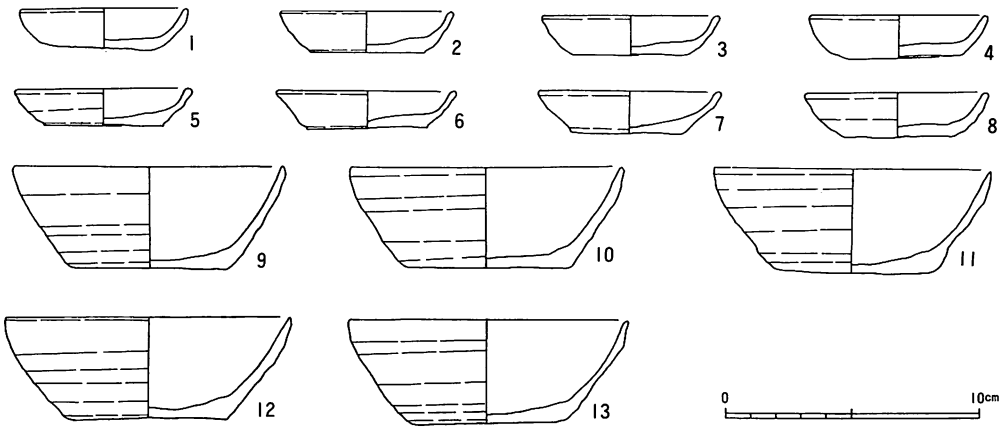


図132　畑寺竹ヶ谷遺跡出土遺物

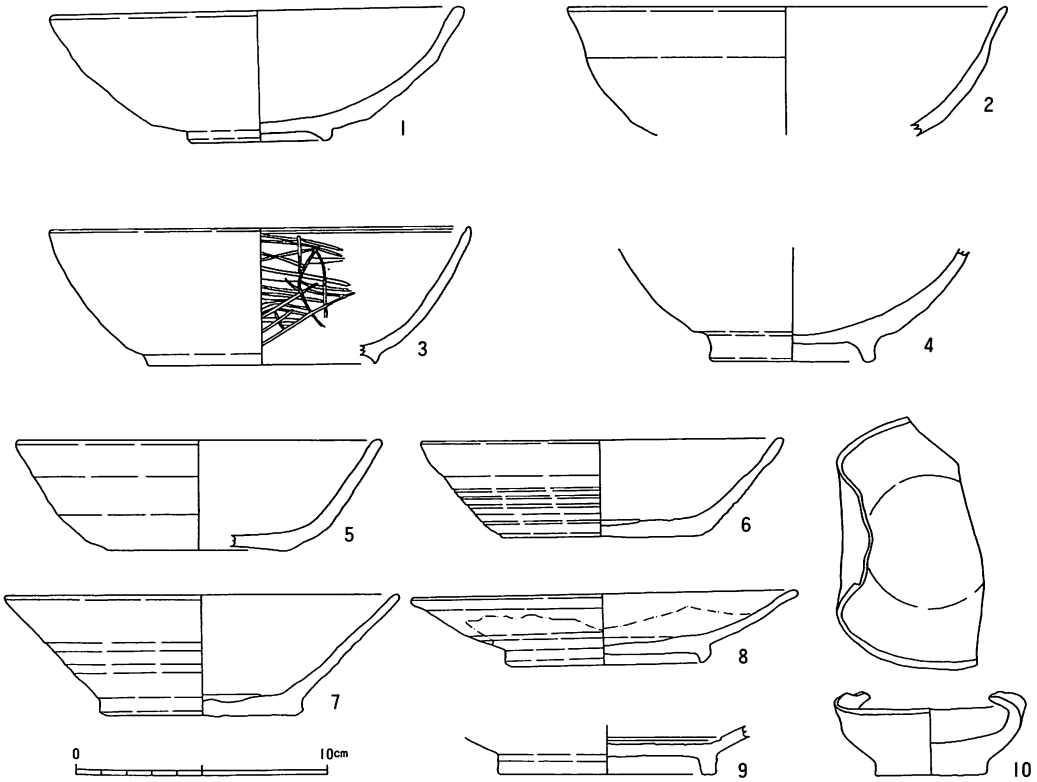


図133　石井幼稚園遺跡出土遺物(1)

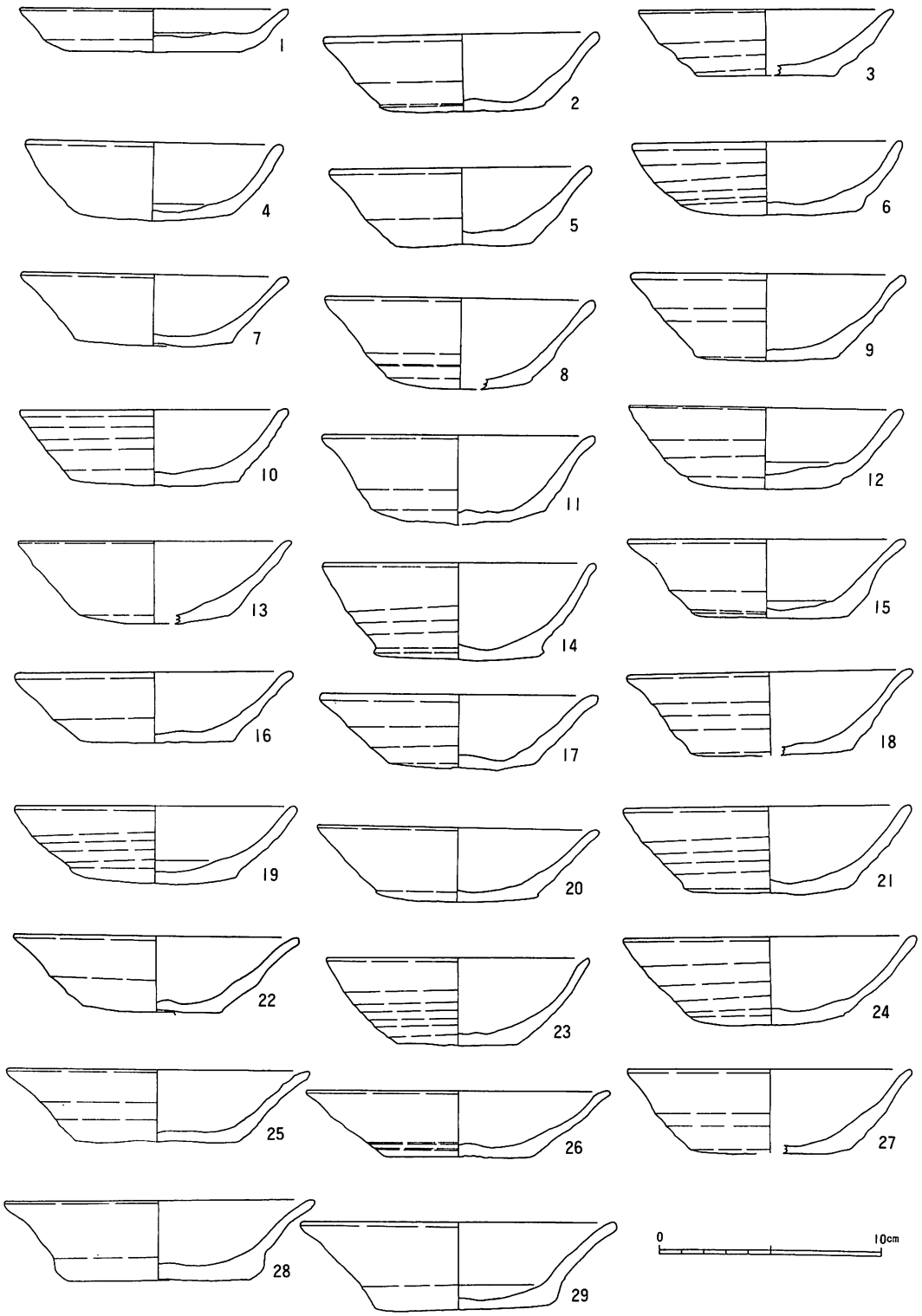


図134　石井幼稚園遺跡出土遺物(2)

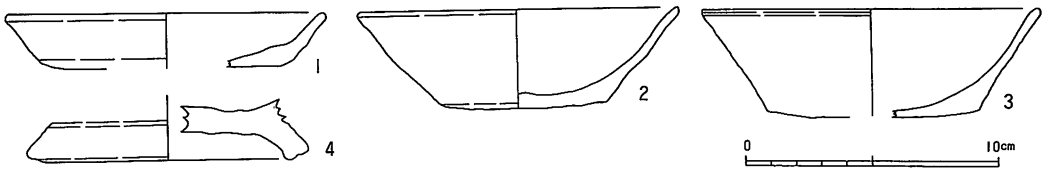


図135　樽味四反地遺跡出土遺物

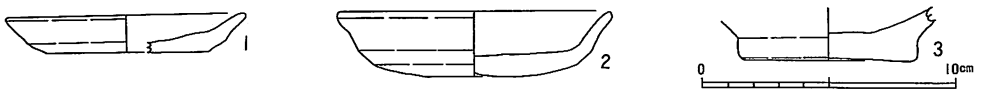


図136　古照G遺跡第3次調査出土遺物

註

1）例えば、松山市内では三島神社古墳や東山蔦ヶ森２・４・８号墳、斉院茶臼山などの古墳から盗掘時の遺棄と思われる資料が出土している他、来住廃寺、北久米遺跡、石井幼稚園遺跡、久万の台遺跡、古照Ｇ遺跡などからの出土が報告されている。

2）中野　良一　1988「愛媛県における古代末から中世の土器」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ
宮本　一夫　1989「道後平野の中世土器編年」『鷹子・樽味遺跡の調査』

3）尾上　実　1985「大阪南部の中世土器－和泉型瓦器椀一」『中近世土器の基礎研究』

4）鋤柄俊夫　1988「畿内における古代末から中世の土器－模倣系土器生産の展開」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ

5）森田　稔　1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯址群を中心に－」『神戸市立博物館研究紀要』第３号

表８　畑寺竹ヶ谷遺跡出土遺物観察表

図版番号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
132- 1	6.6	4.3	1.7	右回転糸切り後すのこ痕	回転ナデ	回転ナデ	
2	6.8	4.5	1.6	回転糸切り（磨滅）	〃	〃	
3	6.9	4.4	1.5	右回転糸切り	〃	〃	
4	6.9	4.3	1.7	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
5	6.9	4.7	1.5	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
6	7.0	4.8	1.6	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
7	(7.0)	4.4	1.7	右回転糸切り（磨滅）	〃	〃	
8	7.0	4.3	1.8	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
9	(10.7)	6.2	4.1	右回転糸切り後すのこ痕	〃	〃	
10	10.8	6.1	4.1	回転糸切り後すのこ痕	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
11	10.8	6.0	4.1	回転糸切り後すのこ痕	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
12	11.3	6.3	4.0	右回転糸切り	回転ナデ	〃	
13	11.1	5.7	4.1	右回転糸切り後すのこ痕	回転ヘラ削り	〃	

表９　石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(1)

図版番号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　面	外　面	内　面	備　考
133- 1	(16.1)	(5.5)	5.3		回転ナデ後、一部ヘラ削り	回転ナデ後ヘラ磨き	
2	(17.2)	－	現高 5.1	——	上半　横ナデ 下半　指頭押え	横ナデ	
3	(16.6)	(9.0)	5.4	——	ヘラ磨き	ヘラ磨き	黒色土器
4	高台径(6.4)	－	現高 4.5	回転ナデ	横方向ヘラ削り		
5	(14.4)	(7.3)	4.3	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	須恵器
6	14.3	8.0	3.8	左回転糸切り	回転ナデ後 回転ヘラ削り	〃	〃
7	(15.6)	7.7	4.9	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	〃
8	15.2	7.4	2.9	〃	〃	〃	灰釉陶器
9	高台径 8.6	4.2	現高 1.9	〃	回転ナデ	〃	緑釉陶器
10	長　径(10.1)	－	3.2	右回転糸切り	〃	〃	〃

表10　石井幼稚園遺跡出土遺物観察表(2)

図版番号	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	底　　面	外　面	内　面	備　　考
134- 1	(12.2)	7.6	2.0	回転ヘラ削り	上半 下半 回転ヘラ削り	回転ナデ	
2	11.4	7.6	3.5	〃	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
3	(11.5)	(6.2)	3.1	〃	回転ナデ	〃	
4	(11.5)	(7.2)	3.6	〃	〃	〃	
5	(11.8)	(6.2)	3.6	ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
6	(12.0)	8.3	3.4	回転ヘラ削り	回転ナデ	〃	
7	12.0	7.2	3.2	〃	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
8	(12.1)	(6.6)	4.2	〃	〃	〃	
9	(12.1)	6.3	3.9	すのこ痕	〃	〃	
10	12.1)	7.7	3.5	ヘラ削り	回転ナデ後 回転ヘラ削り	〃	
11	(12.2)	(8.0)	4.1	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
12	(12.3)	(5.8)	3.8	〃	回転ナデ	〃	
13	(12.3)	(6.9)	3.7	〃	〃	〃	
14	(12.3)	(7.8)	4.5	〃	〃	〃	
15	12.4	7.1	3.7	〃	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
16	12.5	6.9	3.2	〃	〃	〃	
17	12.5	6.7	3.4	手持ちヘラ削り	〃	〃	
18	(12.5)	(7.2)	3.9	回転ヘラ削り	〃	〃	
19	12.7	7.4	3.6	〃	回転ナデ	〃	
20	(12.7)	7.5	3.5	回転ヘラ削り後すのこ痕	〃	〃	
21	12.8	7.4	4.0	回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	〃	〃	
22	12.9	6.3	3.5	回転ヘラ削り後一方向ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
23	(13.0)	(5.6)	4.0	回転ヘラ削り	回転ナデ	〃	
24	13.2	6.9	4.0	回転ヘラ切後一方向ヘラ削り	〃	〃	
25	(13.6)	(7.4)	3.3	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
26	13.8	6.5	3.2	〃	〃	〃	
27	13.8	(7.2)	3.9	〃	〃	〃	
28	(13.8)	6.3	3.8	回転ヘラ削り後すのこ痕	回転ナデ	〃	
29	14.2	8.1	4.2	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	

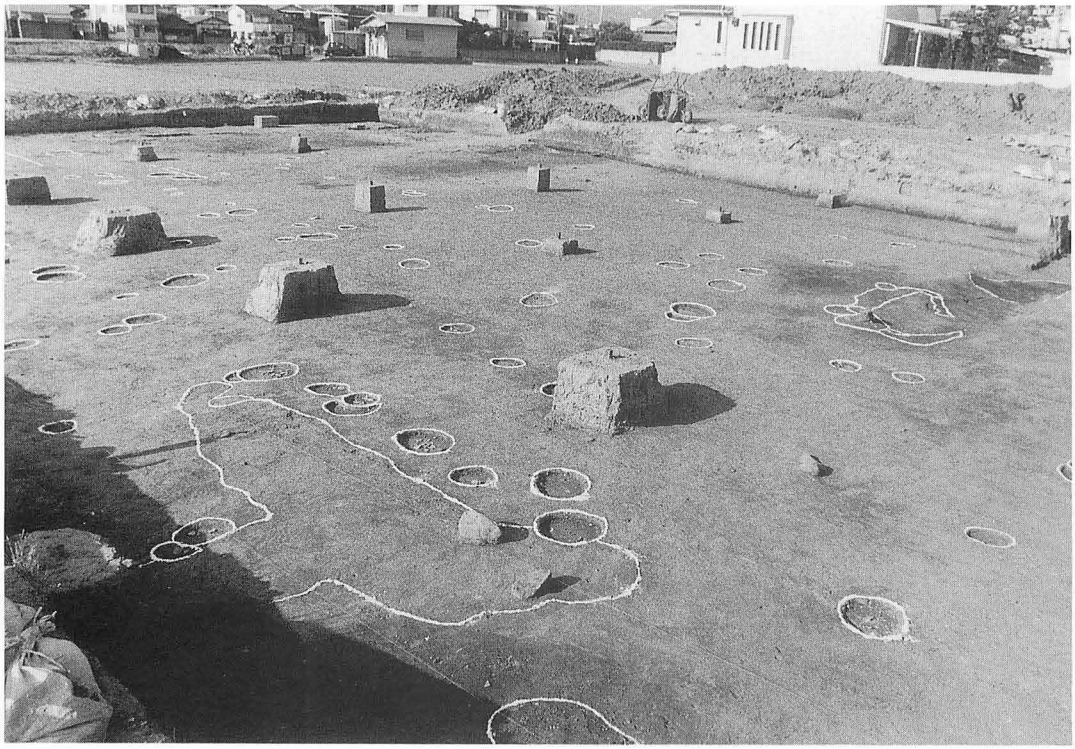
表11　樽味四反地遺跡出土遺物

135- 1	(12.5)	9.0	2.1	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	回転ナデ	
2	12.6	6.7	3.9	〃	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
3	(13.2)	8.3	4.3	〃		〃	
4	(4.7)	——	現高 2.4	〃	回転ナデ	〃	

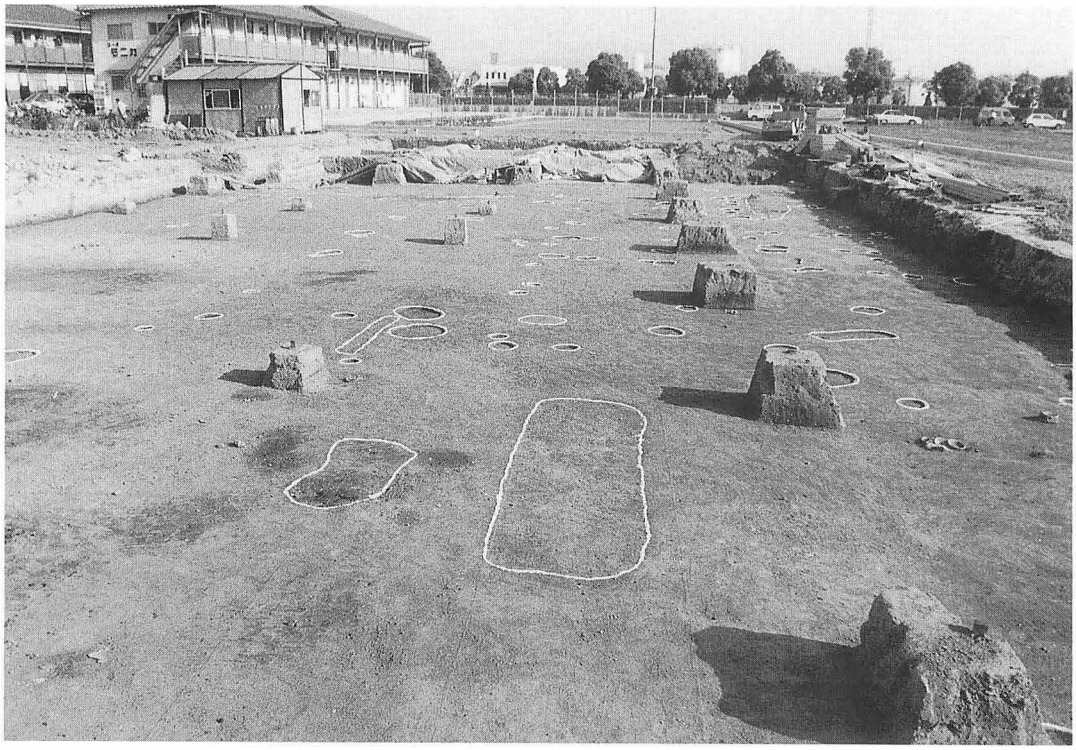
表12　古照Ｇ遺跡第３次調査出土遺物

136- 1	(9.4)	(6.4)	1.5	ヘラ削り	回転ナデ	回転ナデ	
2	(10.8)	(8.1)	2.6	回転ヘラ削り	上半 回転ナデ 下半 回転ヘラ削り	〃	
3	(6.8)	——	現高 2.1	〃	回転ナデ	〃	
4				(磨滅)			

図　版

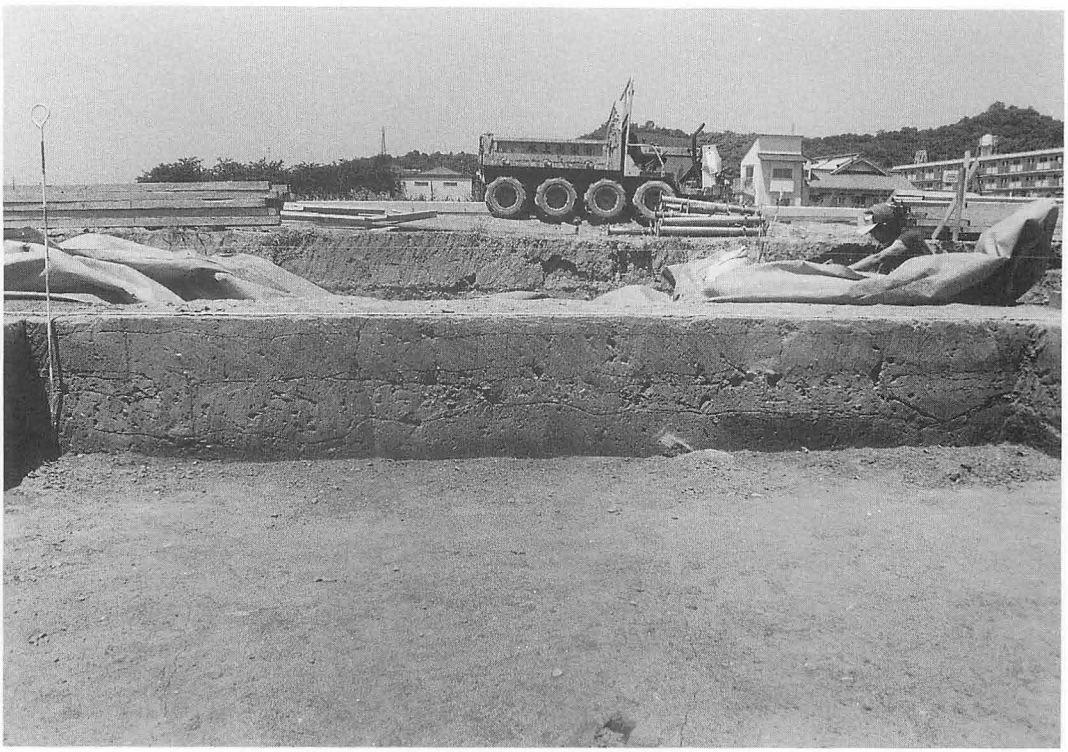


遺構検出状況（南西から）



遺構検出状況（北から）

図版2



Cライン土層

東壁土層

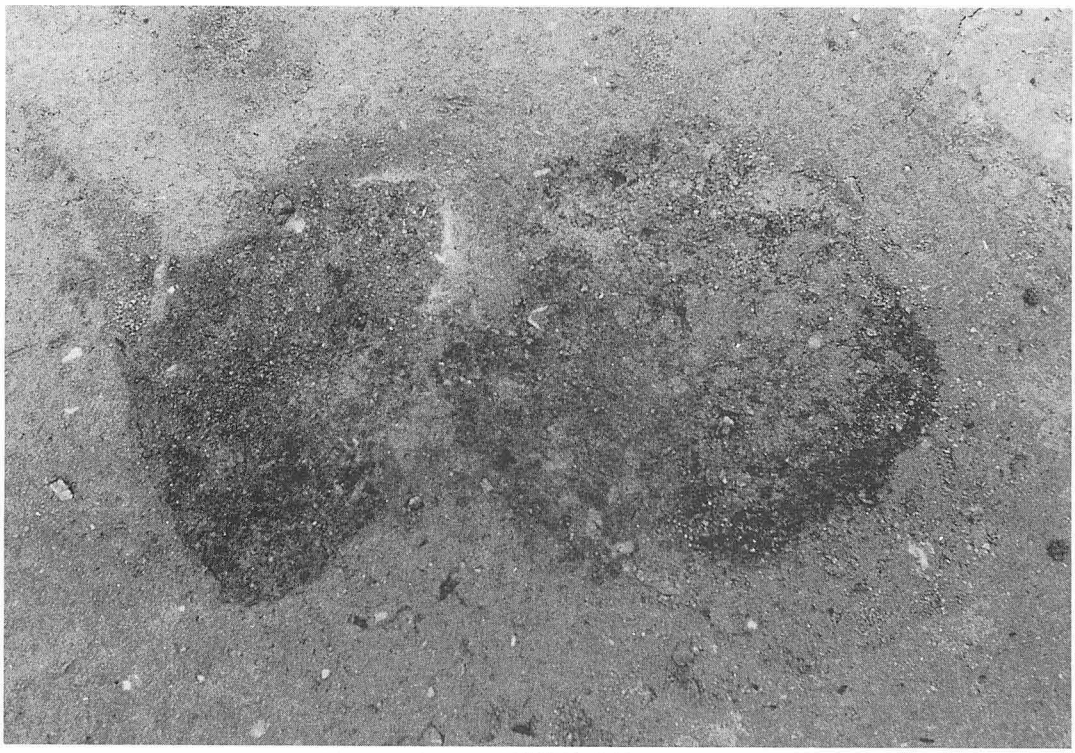
SK－I　検出状況

SK－I　半截状況

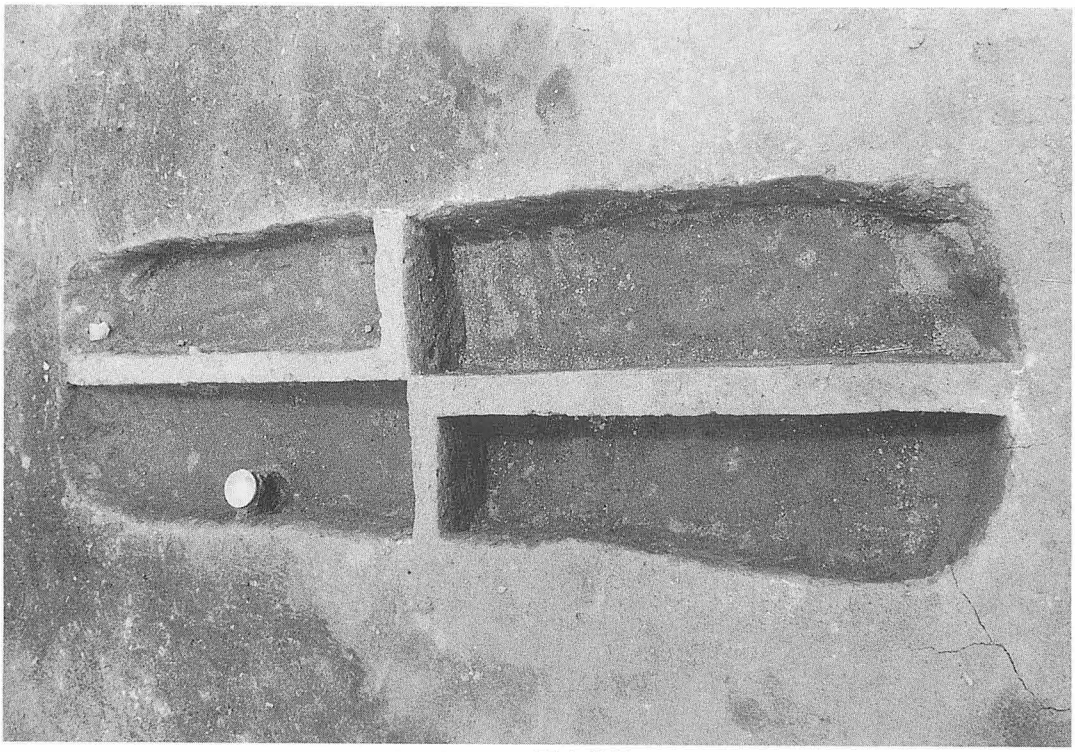
図版4

SK－I　断面

SK－I　堀り上り



SK－I　遺構検出状況



SK－I　調査状況

図版6

ＳＰ－89　半截

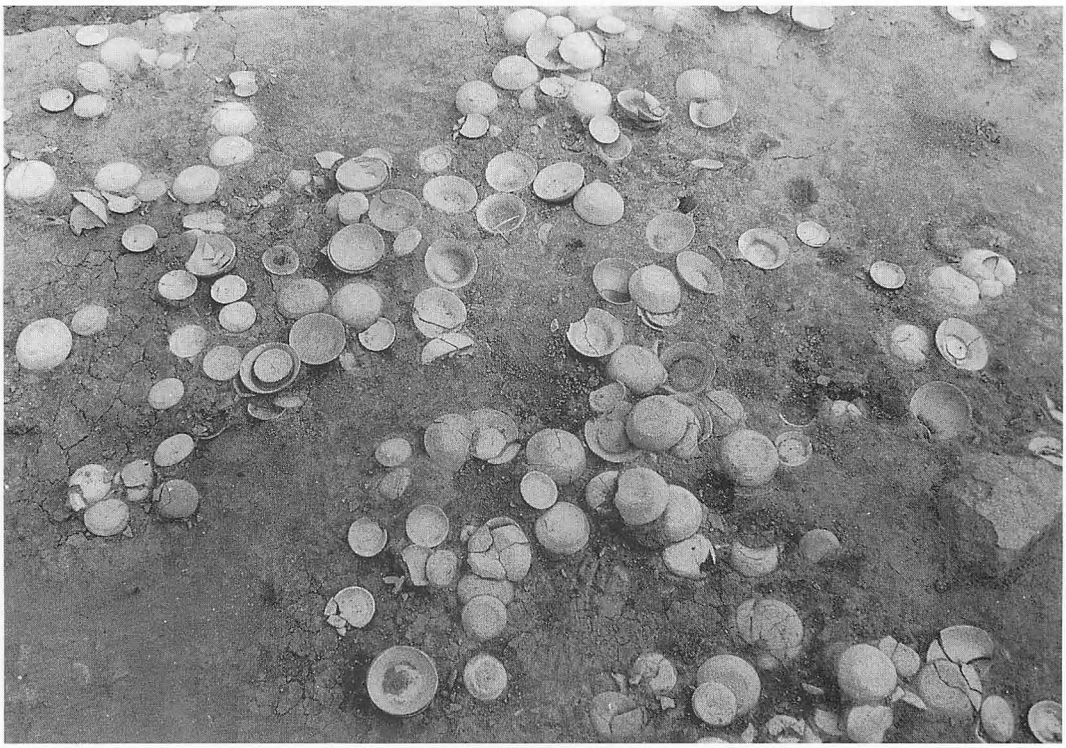
Ｉ号土器集積遺構

2号土器集積遺構

2号土器集積遺構

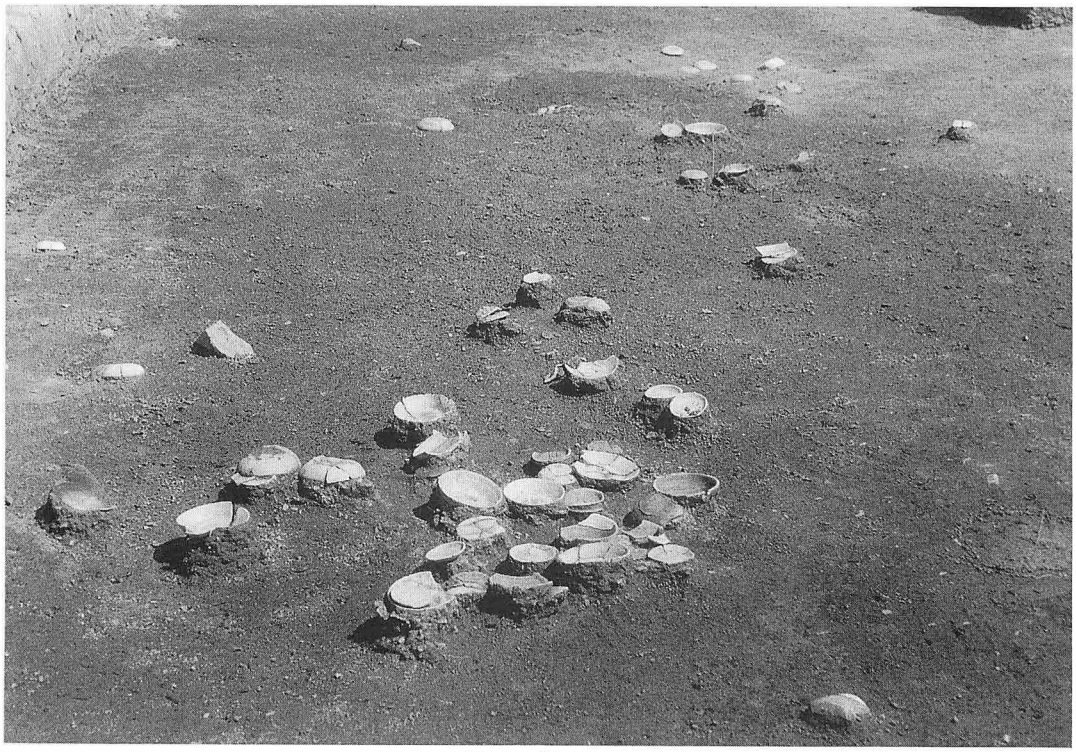
図版8

2号土器集積遺構拡大



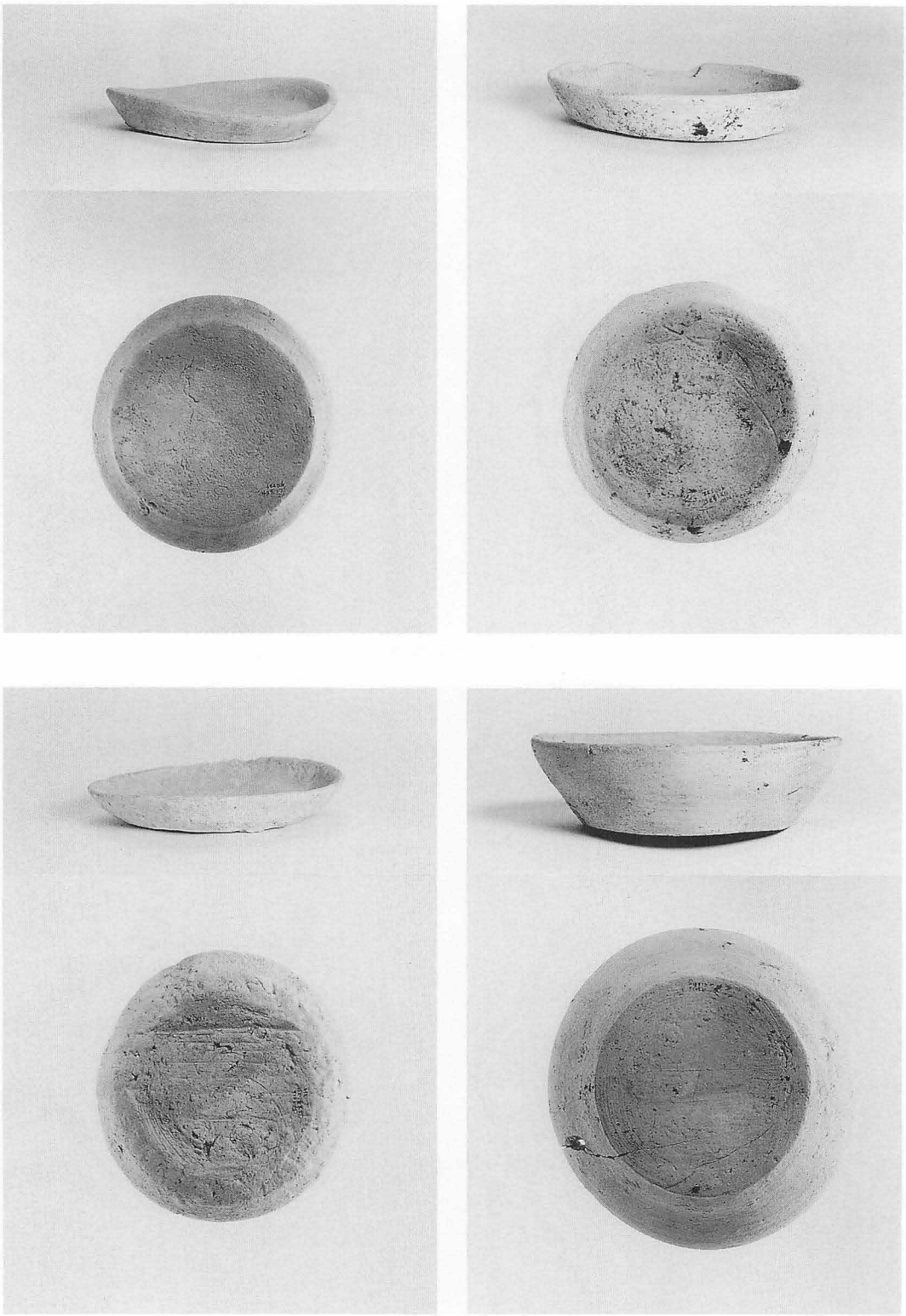
2号土器集積遺構拡大

2号土器集積遺構

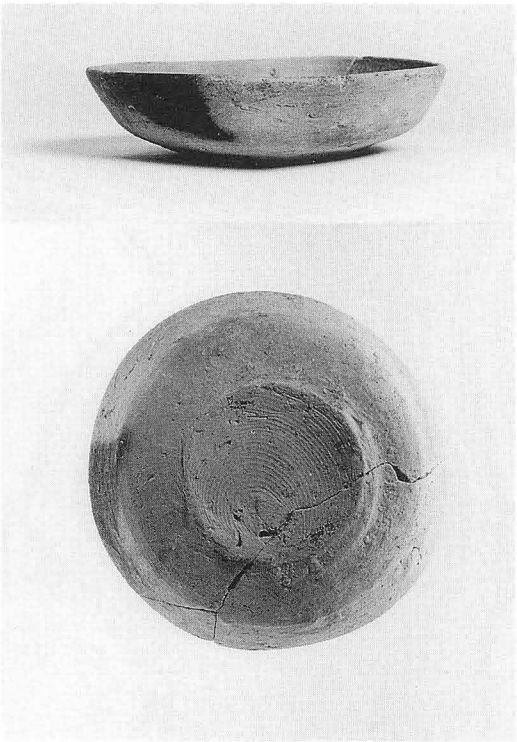


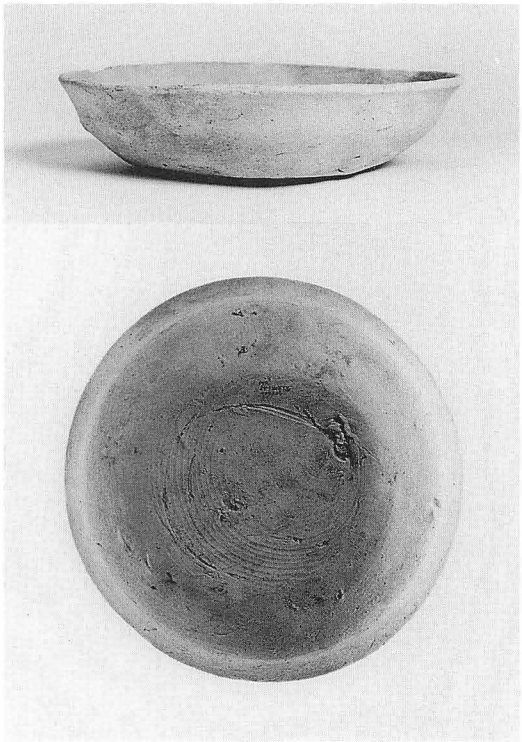
3号土器集積遺構

図版10

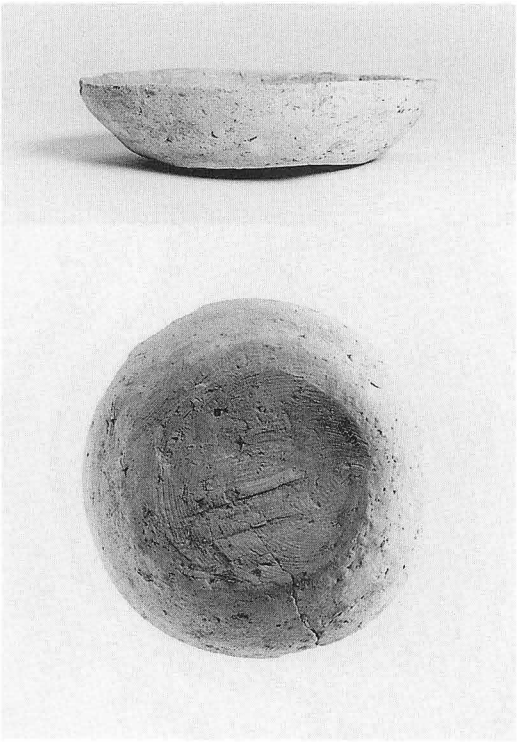


SK－1　出土かわらけ

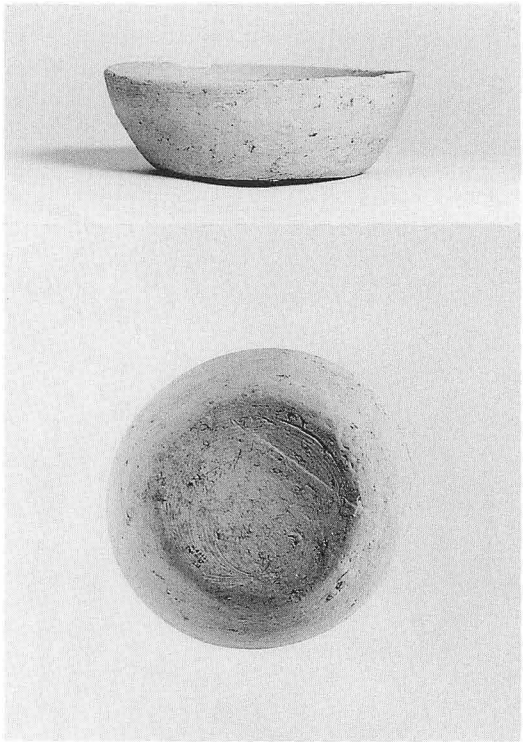




SK－1　出土かわらけ

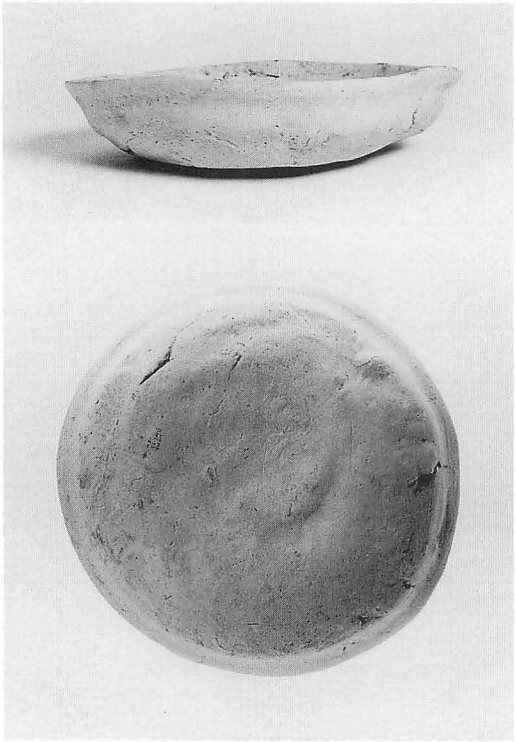


SK－1　出土かわらけ

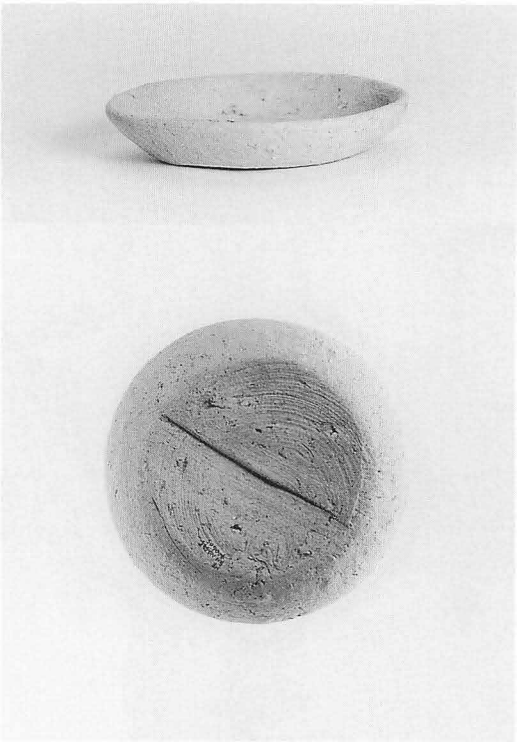


SK－4　出土かわらけ

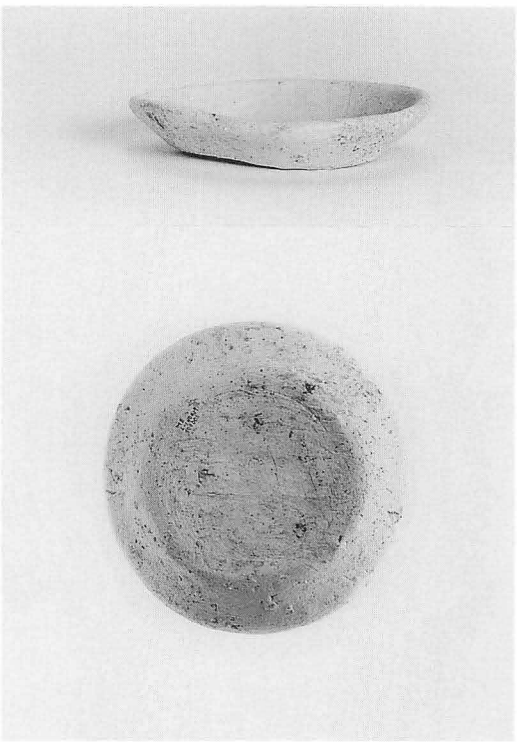
図版12



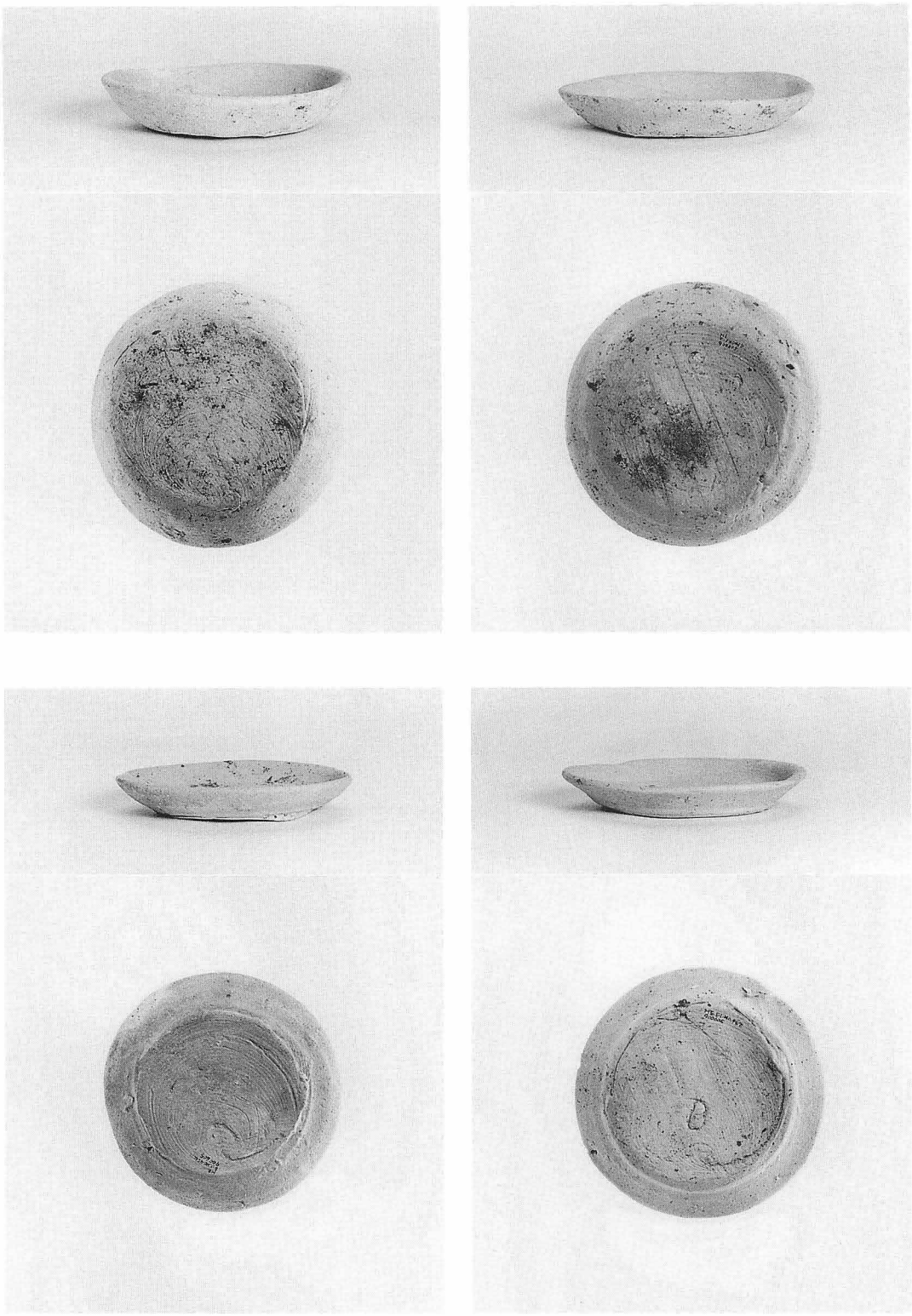
SK－7　出土かわらけ



2号土器集積遺構出土かわらけ

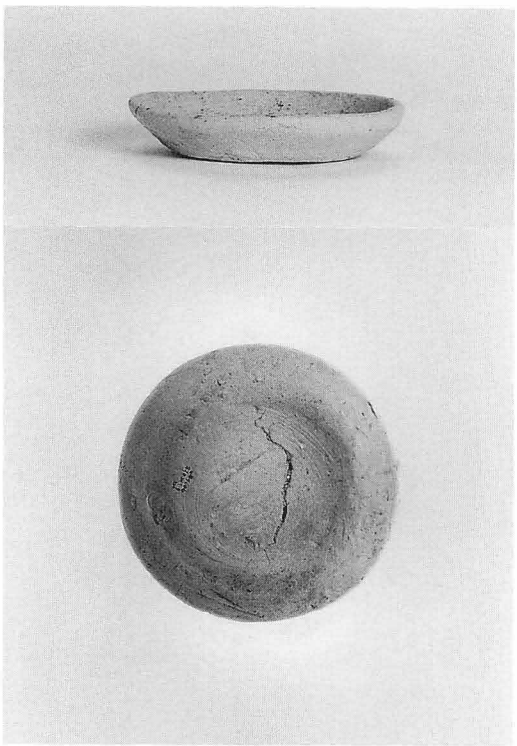


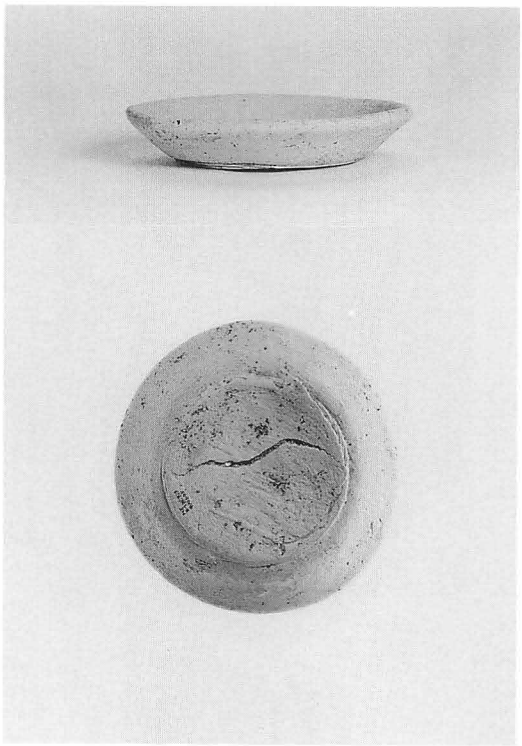
2号土器集積遺構出土かわらけ

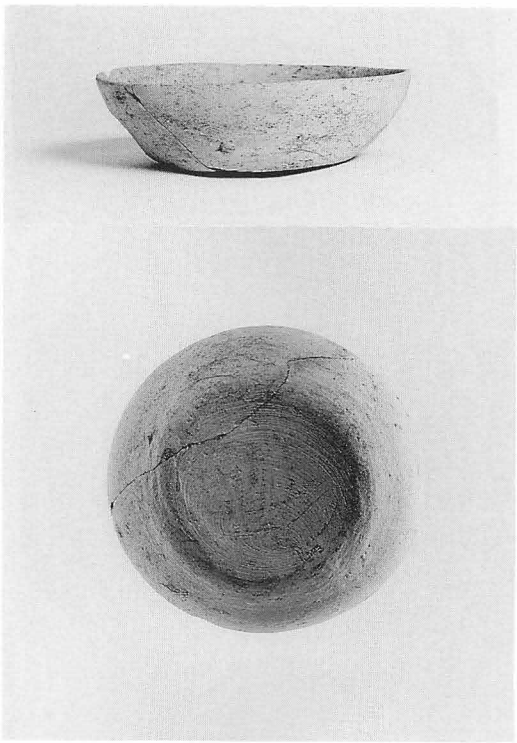


2号土器集積遺構出土かわらけ

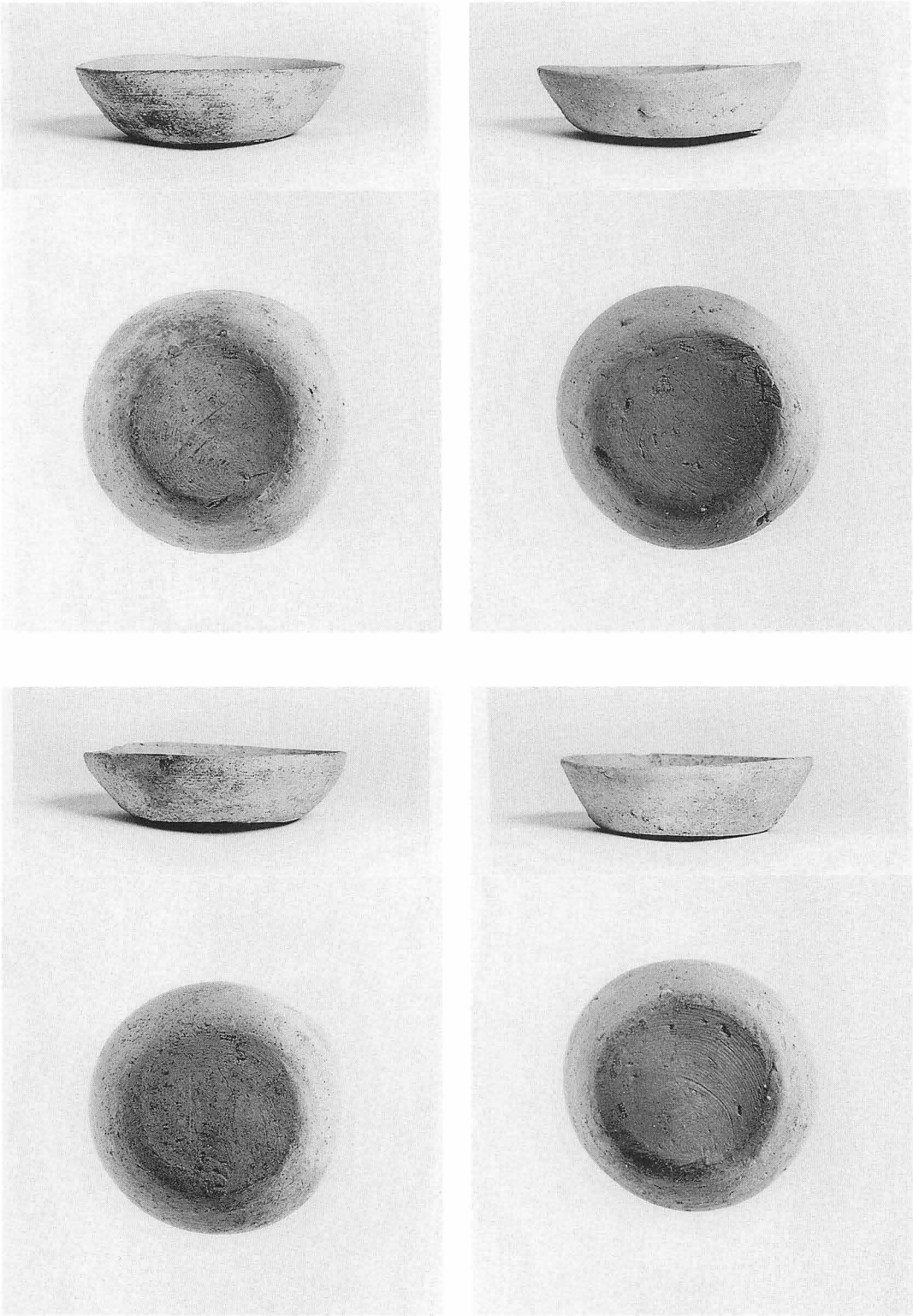
図版14





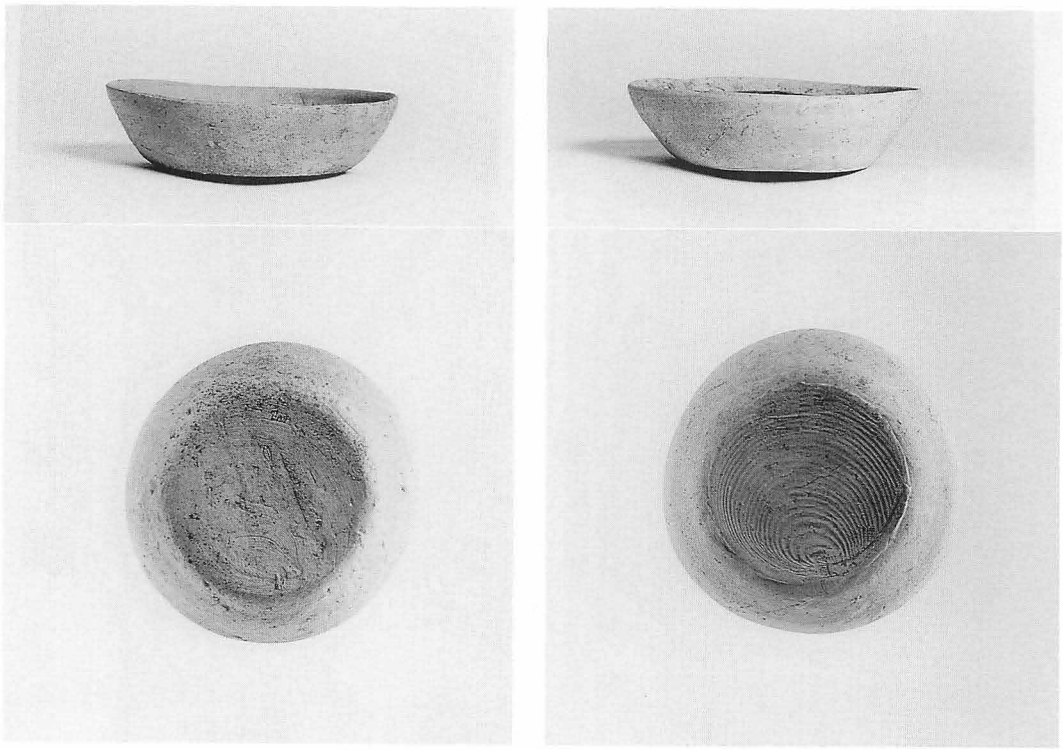


2号土器集積遺構出土かわらけ

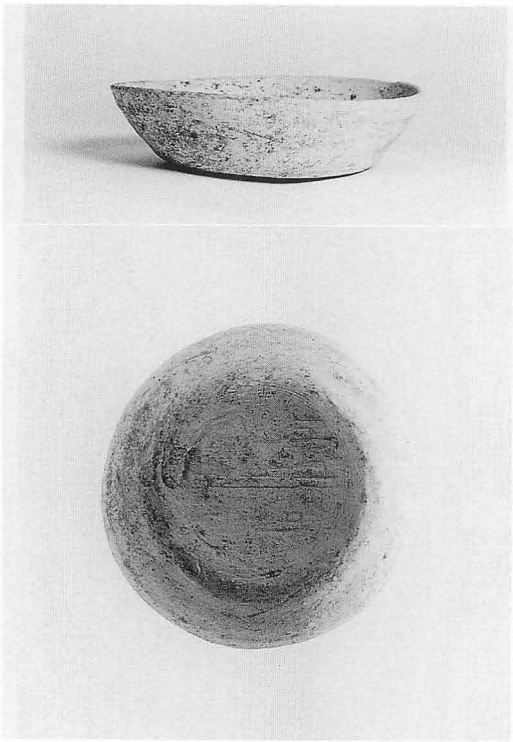


2号土器集積遺構出土かわらけ

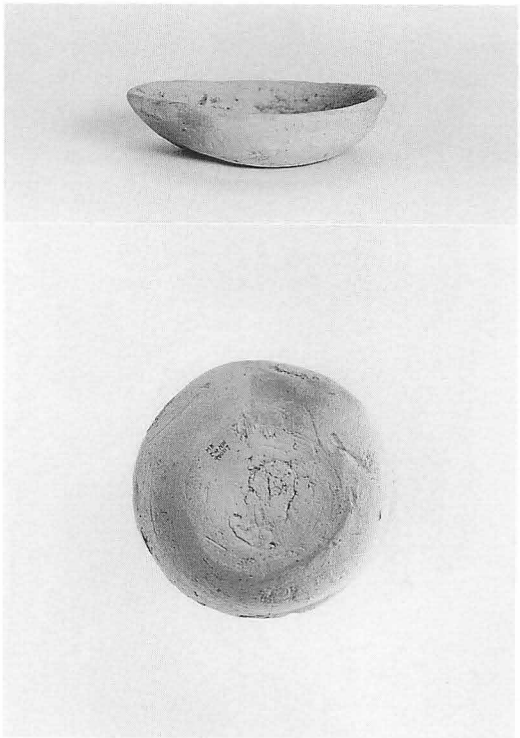
図版16



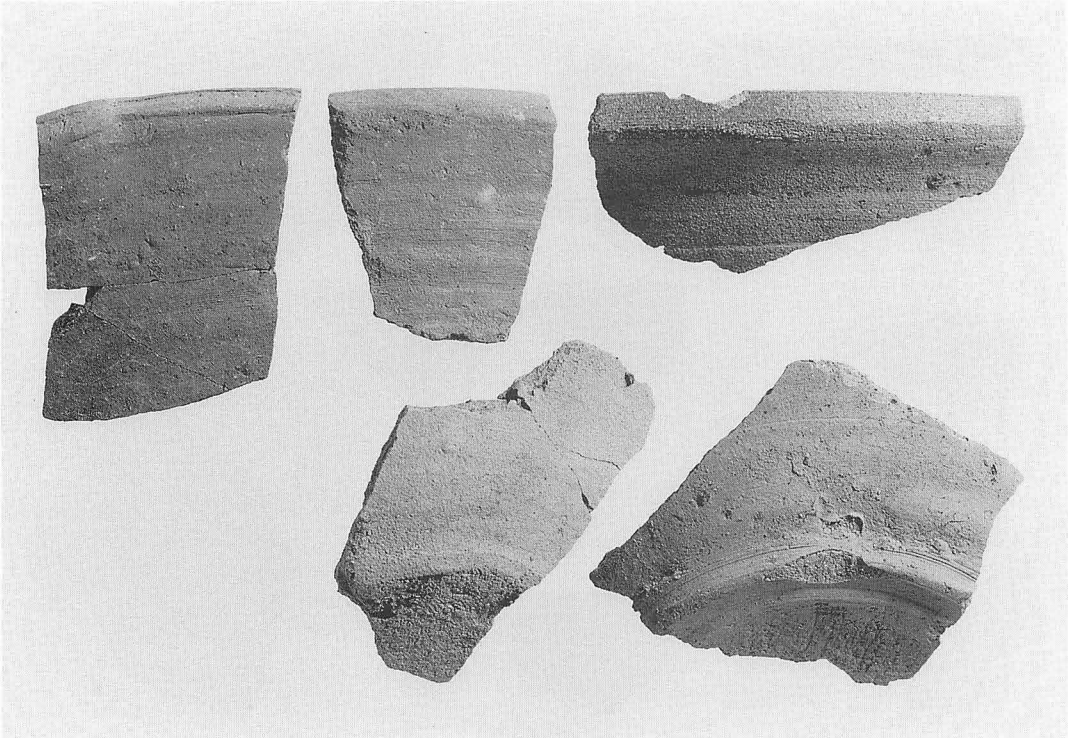
2号土器集積遺構出土かわらけ



2号土器集積遺構出土かわらけ

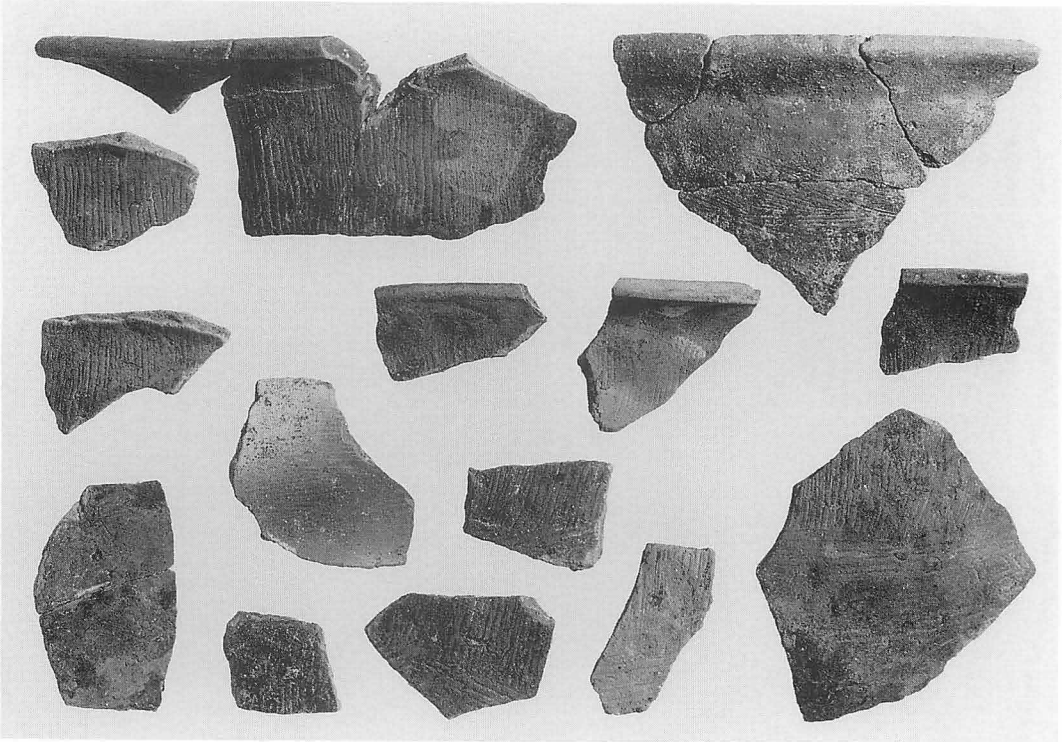


3号土器集積遺構出土かわらけ



出土須恵器

出土瓦器



出土堝

出土置き竈

松山市文化財調査報告書　第22集

南江戸鬮目遺跡

平成３年３月31日　発行

編集・発行　松山市教育委員会　文化教育課
松山市立埋蔵文化財センター
〒791 松山市南斎院町乙67番地６
TEL (0899) 23－6363

印刷　原印刷株式会社
〒791 松山市山越４丁目８－15
TEL (0899) 24－8823